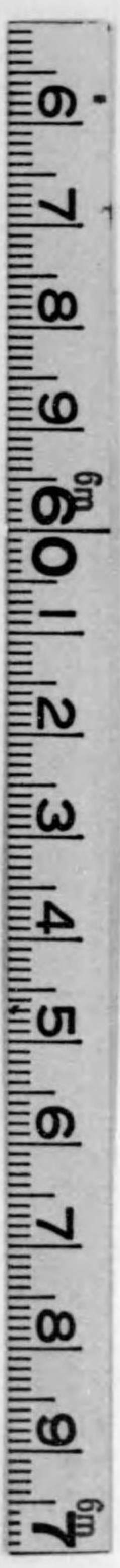


56
87



始



醫學博士弘田長監輯

第九篇

日本小兒科叢書

小兒期ニ於ケル主要ナル皮膚病

醫學士 遠山郁三

醫學博士弘田長監輯

第九篇

日本小兒科叢書

大正
2. 12. 26
内交

小兒期ニ於ケル主要ナル皮膚病

醫學士遠山郁三

凡例

一、此小著起草ノ目的ハ主トシテ日本小兒科叢書中ノ皮膚病篇分擔ノ責ヲ果サン爲メナリト雖、一ハ本邦ニ於テ未ダ Jessner, Die Hautleiden kleiner Kinder 及、v. Brandweiner, Die Hautkrankheiten des Kindesalters 等ニ相當スベキモノナキヲ以テ其缺ヲ補ハントスル微意モナキニアラズ唯著者ノ學モ才モ文モ共ニ此目的ヲ達スルニ頗ル適セザルハ甚遺憾トスルトコロナリ。

一、本書記述ノ體裁ハ小兒期ニ於ケル主要ナル皮膚病ノ記述ヲ主トシ且ツ小兒ニ特有ナル皮膚病ハ稀有ノモノト雖併セ録セリ故ニ縱令小兒ニ多少關係アルモ一般皮膚病學書ニ記載セラレ世人ノ熟知セル事項ハ之ヲ省略セルモノ尠カラズ例ヘバ皮膚ノ解剖、生理、病理及ビ療法通論(即チ皮膚病總論)ハ全ク之ヲ省キ又一二ノ疾病ニ於テハ大人トノ異同ヲ辨ズルニ止メタリ但シ濕疹、膿疱疹、白癬等ニハ許ス限リノ紙數ヲ與ヘ殊ニ濕疹條下ニハ一般治療上必要ノ注意ヲ解説セリ。

一、書中所載ノ處方ハ大抵自ラ實驗ヲ經タルモノヲ收録シ敢テ其多數ナルヲ求メザリキ、固陋ノ譏ハ之ヲ甘受スベシ。

一、書中ニ引用セル記事ハ一々其出處ヲ明記セント欲セシモ徒ニ紙數ヲ増サンコトヲ恐レテ之ヲ省ケリ又卷末ニ索引及ビ處方集ヲ附セント欲セシモ之レ亦果サズ幸ニ版ヲ重ヌル機アラバ之ヲ増補スベキヲ期ス

一、寫眞ハ悉ク我教室撮影ノモノニ係ル唯頭部白癬ノ一圖ハ最近宮城縣下一迫村小學校兒童ノ間ニ該病流行シ遂ニ一時授業ヲ中止スルニ至レルコトアリ同地開業醫吉澤氏之ヲ余ニ報道スルト共ニ患兒ノ毛髮及ビ寫眞數葉ヲ寄贈セララル故ニ其好意ヲ謝スル爲メ特ニ其内一葉ヲ採録セリ又卷頭ノ小統計ハ我教室醫員萱場徹郎、平田健造及ビ學生篠田翠ノ三氏ノ勞ニ依リテ成ルモノナリ

大正二年十二月

目次

小兒期ニ於ケル主要ナル皮膚病

第一章 統計	一
第二章 濕疹	八
一 急性濕疹	二
二 慢性濕疹	六
イ 脂漏性濕疹附皮脂漏	七
ロ 間擦性濕疹	九
濕疹ノ好發部位	一〇
原因	一四
豫後及ビ合併症	三

診斷及ビ鑑別……………三
 内療法……………三
 外療法(局處療法)……………四
 後療法……………五
 第三章 膿疱疹(膿痂疹)及ビ深膿疱附癬腫症及ビ水瘡……………六
 フックス氏傳染性膿疱疹……………六
 尋常性膿疱疹……………七
 單純性膿疱疹又ボツクハルト氏膿疱疹……………七
 深膿疱……………七
 癬腫症……………七
 水瘡……………七
 第四章 人工的皮膚炎……………八

凍瘡……………八
 第五章 鱗屑疹及ビ苔癬……………八
 第六章 紅斑……………八
 一、ヘブラ氏多形滲出性紅斑。二、結節性紅斑。三、症候的多形紅斑。四、藥疹殊ニ血清疹及種痘疹。五、初生兒剝脫性皮膚炎……………八
 第七章 皮膚出血……………九
 一、儂麻質斯性紫斑。二、出血性紫斑。三、バルロウ氏病。四、血管擴張性環狀紫斑……………九
 第八章 蕁麻疹……………九
 色素性蕁麻疹、急性限局性浮腫……………九
 第九章 小兒蕁麻疹様苔癬……………一〇一

第十章 痒疹.....104

第十一章 疱疹及 γ 天疱瘡.....114

- 一、單純性疱疹。二、帶狀疱疹。三、慢性天疱瘡。四、疱疹狀皮膚炎。五、先天性表皮水疱症。六、種痘疹、樣水疱症。

第十二章 皮膚絲狀菌病.....110

黃癬.....113

白癬.....113

第十三章 動物性皮膚病.....114

疥癬.....114

第十四章 皮膚結核.....115

- 一、尋常性狼瘡。二、皮膚疣狀結核。三、皮膚腺病。四、

- 潰瘍性粟粒結核。五、腺病性苔癬。六、結核疹。七、硬結性紅斑

第十五章 母斑.....117

一、色素性母斑。二、軟性母斑。三、硬性母斑。四、被毛

母斑。五、血管性母斑。六、囊腫狀限局性淋巴管腫。

七、脂腺腫。八、汗腺腫。九、毛囊上皮腫。十、列序性母

斑。十一、軟性纖維腫

第十六章 傳染性軟疣及 γ 疣贅.....119

一 傳染性軟疣.....119

二 疣贅.....118

第十七章 魚鱗癬.....118

- 先天性魚鱗癬、先天性手掌足趾角化症、增殖性

毛囊性角化症、被角血管腫
 皮膚萎縮……………一八

先天及後天性皮膚萎縮、色素性乾皮症、初生
 兒鞏皮症、紅斑性狼瘡、色素ノ萎縮、毛髮ノ萎
 縮附圓形禿髮症

日本小兒科叢書 第九篇

小兒期ニ於ケル主要ナル皮膚病

醫學士 遠山 郁 三 著

第一章 統計

本邦ニ於テ最モ多ク遭遇スル小兒ノ皮膚病ハ、濕疹ヲ第一トシ、白癬及ビ膿
 疱疹之ニ次ギ、其合計ハ小兒皮膚病全數ノ五分ノ三強ヲ占メ、就中濕疹ハ全
 數ノ約五分ノ二ニ相當スベシ。痒疹、小兒苔癬(蕁麻疹ヲ含ム)、疥癬、色素異常、母
 斑等更ニ之ニ次グト雖、其數遙ニ少シ。明治三十二年(1900)ヨリ明治三十九年
 (1906)ニ至ル八年間ノ東京帝國大學皮膚科新來患者統計ヲ觀ルニ、年齡十五
 歲以下ノ皮膚病患者四千百三十五名花柳病及泌尿生殖器病ヲ除クアリ。其内、罹病者百名以
 上ノ皮膚病ヲ舉グレバ左ノ如シ。

統計

一

統計

濕疹 脂漏性濕疹及ビ痒
 疹性濕疹ヲ含ム 一七〇〇 四一・二%
 白癬 三八〇 九・二%
 膿疱疹 三四九 八・四%
 痒疹 二九九 七・二%
 疥癬 一四二 三・四%
 小兒苔癬 樣苔癬及尋麻疹 一三七 三・三%
 又左ノ我ガ宮城病院皮膚科ニ於ケル一小統計—明治四十三年(1910)以降大
 正二年(1913)六月ニ至ル滿三年六ヶ月間—ニヨリテモ、略、如何ナル皮膚病ガ
 小兒ニ發シ、又如何ナルモノガ其多數ヲ占ムルカヲ察知スル事ヲ得ベシ。

病名	性	明治四十三年(1910)				明治四十四年(1911)				大正元年(1912)				大正二年(1913)				小計	合計	%例比百分
		一月	二月	三月	合計	一月	二月	三月	合計	一月	二月	三月	合計	一月	二月	三月	合計			
膿瘍 Abscess	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	10	10	10.5
尋常性瘰癧 Acne vulgaris	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
圓形禿髮症 Alopecia areata	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
神經性禿髮 Alopecia neuritica	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
血管腫 Angioma	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
單純血管腫 A. simplex	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
海綿樣血管腫 A. cavernosum	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
藥疹 Arzneianthem	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
瘡 Carbunkel	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
火傷 Combustio	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
面皰 Comedones	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
凍傷 Congelatio	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
囊腫 Cyste	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
汗疱 Dysidrosis	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
濕疹 Eczema	男	10	10	10	30	10	10	10	30	10	10	10	30	10	10	10	30	10	10	30.8
急性濕疹 Ecz. acutum	女	8	8	8	24	8	8	8	24	8	8	8	24	8	8	8	24	8	8	24.8
慢性濕疹 Ecz. chronic.	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
脂漏性濕疹 Ecz. seborrh.	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
皮膚炎 Dermatitis	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
汗疹 Sudamina	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
深膿疱 Echyma	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
表皮剝脫 Erosion	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
丹毒 Erysipelas	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0

二

統計

病名	性	明治四十三年(1910)				明治四十四年(1911)				大正元年(1912)				大正二年(1913)				小計	合計	%例比百分
		一月	二月	三月	合計	一月	二月	三月	合計	一月	二月	三月	合計	一月	二月	三月	合計			
神經性禿髮 Alopecia neuritica	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
血管腫 Angioma	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
單純血管腫 A. simplex	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
海綿樣血管腫 A. cavernosum	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
藥疹 Arzneianthem	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
瘡 Carbunkel	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
火傷 Combustio	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
面皰 Comedones	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
凍傷 Congelatio	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
囊腫 Cyste	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
汗疱 Dysidrosis	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1.5
濕疹 Eczema	男	10	10	10	30	10	10	10	30	10	10	10	30	10	10	10	30	10	10	30.8
急性濕疹 Ecz. acutum	女	8	8	8	24	8	8	8	24	8	8	8	24	8	8	8	24	8	8	24.8
慢性濕疹 Ecz. chronic.	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
脂漏性濕疹 Ecz. seborrh.	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
皮膚炎 Dermatitis	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
汗疹 Sudamina	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
深膿疱 Echyma	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
表皮剝脫 Erosion	女	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0
丹毒 Erysipelas	男	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	3.0

三

統計

病名	年 齡		明治四十三年(1910)		明治四十四年(1911)		大正元年(1912)		大正二年(1913)		小計	百分比
	男	女	一月間	三月間	一月間	三月間	一月間	三月間	一月間	三月間		
多形滲出性紅斑 Erythema exsud. mult.											4	0.058
結節性紅斑 Erythema nodosum											1	0.013
猩紅熱樣紅斑 Erythema scarlatiniforme											1	0.013
種痘疹 Exanthema postvaccinale											1	0.013
黃癬 Favus											1	0.013
毛囊炎 Folliculitis											6	0.076
癬 Furunkel											2	0.026
癰腫症 Furunkulose											3	0.038
口唇疱疹 Herpes labialis											5	0.062
陰部疱疹 Herpes progentialis											1	0.013
帶狀疱疹 Herpes zoster											2	0.026
魚鱗癬 Ichthyosis											4	0.051
單純性魚鱗癬 I. simplex											2	0.026
蛇皮狀魚鱗癬 I. serpentina											2	0.026
膿疱疹 Impetigo											7	0.088
傳染性膿疱疹 I. contagiosa (I. Fox)											5	0.062
合計			11	10	11	11	11	11	11	11	119	1.461

四

病名	年 齡		明治四十三年(1910)		明治四十四年(1911)		大正元年(1912)		大正二年(1913)		小計	百分比
	男	女	一月間	三月間	一月間	三月間	一月間	三月間	一月間	三月間		
尋常性膿疱疹 I. vulgaris											10	0.128
單純性膿疱疹 I. Boeckhart											3	0.038
昆蟲刺傷 Insektenstich											1	0.013
蟹足腫 Keloid											1	0.013
毛囊性角化症 Keratosis follicularis											1	0.013
癬 Lepra											3	0.038
神經癩 I. nervorum											1	0.013
結節癩 I. tuberosa											2	0.026
毛癬性苔癬 Lichen pilaris											3	0.038
慢性單純苔癬 Lichen simplichr. (Vidal)											2	0.026
淋巴腺炎 Lymphadenitis											10	0.128
癩疹 Morbilli											1	0.013
傳染性軟腫 Molluscum contagiosum											6	0.076
色素性母斑 Naevi pigmentosi											8	0.101
列序性母斑 Naevus systematicus											2	0.026
癩痕 Narben											1	0.013
水瘡 Noma											1	0.013
爪溝炎 Paronychia											1	0.013
アユレ Piedra											1	0.013
頭虱 Pediculi capitis											1	0.013
合計			11	10	11	11	11	11	11	11	119	1.461

統計

五

病名	年性	明治四十三年(1910)		明治四十四年(1911)		大正元年(1912)		大正二年(1913)		小計	合計	%例比
		一月	二月	一月	二月	一月	二月	一月	二月			
蜂窩織炎 Phlegmone												
色素增殖 Pigmenthypertrophie												
痒疹 Prurigo												
夏季痒疹 Sommerprurigo												
冬期痒疹 Winterprurigo												
皮膚搔痒症 Pruritus cutaneus												
尋常性鱗屑疹 Psoriasis vulgaris												
痲瘋新性紫斑 Purpura rheumatica												
癰裂 Rhagaden												
酒皸 Rosacea I.												
疥癬 Scabies												
乾性脂漏 Seborrhoea sicca												
刺傷 Stichwunde												
小兒苔癬 Strophulus infantum												
溢血 Sanguilatio												
白癬 Trichophytia												
男												
女												
計												
合計												
%例比												

病名	年性	明治四十三年(1910)		明治四十四年(1911)		大正元年(1912)		大正二年(1913)		小計	合計	%例比
		一月	二月	一月	二月	一月	二月	一月	二月			
頭部白癬 T. tonsurans capillit.												
表在性白癬 T. tons. superficial.												
頑癬 Eczema margin.												
小水疱性 T. tons. vesicul.												
寄生性毛瘡 Syccosis parasit.												
斑紋性白癬 Herpes tons. macul.												
結核 Tuberculose												
尋常性狼瘡 Lupus vulgaris												
腺病性皮膚潰瘍 Scrophuloderma												
硬結性紅斑 Eryth. induratum												
皮膚潰瘍 Ulcera cutanea												
蕁麻疹 Urticaria												
急性蕁麻疹 U. acuta												
慢性蕁麻疹 U. chron.												
水痘 Variellen												
尋常性疣贅 Verruca vulgaris												
幼年性扁平疣贅 Verrucae planae juveniles												
尋常性白斑 Vitiligo vulgaris												
色素性乾皮症 Xeroderma pigmentosum												
總計												

第二章 濕疹 Ekzem. Nässende Flechte

濕疹 *Ekzem* ノ名稱ハ、*stasis* 卽チ煮ヘ立ツ (*aufkochen*) 又ハ泡立ツ (*aufbrausen*) ト云フ意ヨリ出デ、既ニ西曆五百三十四年ニ希臘ノ醫書ニ皮膚病ノ名稱トシテ用ヒラレタリト云フ。勿論其時代ニアリテハ、其見解頗ル邈然タルモノナリシガ千八百三十年以後、殊ニヘブラ *Hedra* 氏 (1850) ニ至リテ斯病ノ記載始メテ詳密トナリ、見解モ亦明白ナルヲ得且ツ、原因ノ一部ヲモ明ニスルニ至レリ。斯ク名稱ノ古キ由來アルニヨリテモ知ラル、ガ如ク、本病ハ皮膚病中最モ多ク遭遇スル所ノ疾病ニシテ、從テ甚主要ナルモノトス。殊ニ小兒ハ濕疹ニ罹リ易ク、又蔓延シ易ク、一旦治癒スルモ、反復再發シ易シ。松浦氏ニヨレバ、一歳乃至十歳ノ間ニハ、濕疹患者最多數ナリト云ヒ、井上篠原兩氏ニヨレバ、二歳及ビ三歳ニ最多數ニシテ、十歳迄ハ漸次減少シ、ソレヨリ再ビ増加スト云フ。櫻根氏ノ明治三十六年 (1903) 以降五年間ノ統計ニヨレバ、

統計

急性濕疹	十歳以下	十一歳以上	合計
	四五三	四五六	九〇九

慢性濕疹	一〇二	六一七	七一九
脂漏性濕疹	一一七	四七三	五九〇
合計	六七二	一五四六	二二一八

東京帝國大學醫科大學皮膚科ノ明治三十六年以降四年間ノ統計ニヨレバ、

急性濕疹	十五歳以下	十六歳以上	合計
	七一八	一三二八	二〇四六
慢性濕疹	一三九	一三六八	一五〇七
脂漏性濕疹	二七二	六五〇	九二二
合計	一一二九	三三四六	四四七五

我宮城病院三箇年半ノ統計ニヨレバ、

急性濕疹	十五歳以下	十六歳以上	合計
	四一九	四二五	八四四
慢性濕疹	二四	二一九	二四三
脂漏性濕疹	三七	一一一	一五八
合計	四八〇	六六五	一二四五

但シ小兒ノ急性濕疹ノ内ニハ若干ノ脂漏性濕疹ヲ混ズルナリ。

濕疹ハ皮膚表層ノ炎症ナリ
粘膜炎答兒ト
ノ異差

濕疹ハ多形境界散漫
一、境
一、痒
一、癢

濕疹ハ皮膚ノ表層、即チ通例、上皮及ビ真皮乳頭層ノ加答兒性病變ニシテ、組織ノ崩壞ヲ來スコト少キガ故ニ、多クハ潰瘍ヲ生ゼズ。從テ癩痕ヲ止メズシテ治癒ス。實ニ濕疹ハ粘膜炎ニ於ケル加答兒ニ相當スルモノニシテ、二者ニ於ケル多少ノ相違ハ、皮膚ト粘膜炎トノ位置構造ノ差異ニ由來スルノミ。例ヘバ皮膚ハ其表面ヨリ水分蒸發シテ痂皮ヲ形成シ易キコト、外界ヨリ種々ノ細菌侵入シテ膿疱等ヲ形成シ易キコト、竝ニ空氣、水或ハ衣服、搔爬等ニヨリ皮膚ヲ摩擦シ、刺戟シ、傷害シ、遂ニハ皮膚ノ深部ニ浸潤ヲ生ジ易キコト等ハ、著ク粘膜炎加答兒ト異レル點ナリトス。

濕疹ハ皮膚ノ炎症ニ外ナラザレバ、其微候トシテ、潮紅、腫脹、灼熱、癢、痒アリ、加之、滲出ノ度ニ應ジテ、丘疹、小水疱、膿疱ヲ發シ、其破綻ニヨリテ糜爛結痂ヲ來シ、遂ニ鱗屑ヲ生ジテ治ス。是等ノ諸症狀ハ同時ニ發生シ、或ハ逐次ニ發生シ、殊ニ經過中、反復再發スルコトアルガ故ニ、新舊諸種ノ皮膚疹ヲ交フルコトアリ。從テ濕疹ノ臨牀上微候ハ、概シテ多種多様ナルヲ常トス。

斯ノ如ク、濕疹ハ新ニ皮膚疹ヲ發生シテ周圍ニ蔓延シ、或ハ時トシテ原病竈ヲ離レテ、別ニ發疹スルコトアレドモ、何レニモセヨ各病竈ニ於テハ、發疹中央

一、潰瘍、癩痕ヲ生ゼズ

小兒ニハ頗ル急性濕疹多ク慢性濕疹少シク

急性濕疹ノ微候一、紅斑性濕疹

ニ密ニシテ周圍ニ疎ナリ。從テ濕疹ノ病竈ト、健康皮膚トノ境界ハ、判然限制スルモノニアラズ。即チ散漫性 *diffuse* ナリ。

濕疹ノ症候ヲ更ニ詳説スルニハ、之ヲ經過ノ長短殊ニ浸潤ノ有無ニヨリ、急性濕疹及ビ慢性濕疹ノ二種ニ區別スルヲ便トス。而シテ急性濕疹ノ小兒ニ於テ殊ニ多數ナルハ、統計ニ徴シテ疑ナシ。櫻根氏ニヨレバ、十歳以下ノ小兒ノ急性濕疹ハ、慢性濕疹ノ四倍半弱ニ當リ、東京醫科大學皮膚科統計ニヨレバ、十五歳以下ノ者ニ於テ急性濕疹ハ慢性濕疹ノ約五倍強ニ當ル。加之、吾人ノ計算ニヨレバ實ニ十七倍強ニ上レリ。

一 急性濕疹

急性濕疹ハ初メ、皮膚ハ發赤、腫脹ヲ現シ、浮腫ス。殊ニ皮下結締織ノ鬆粗ナル部(例之バ眼瞼、陰莖、陰囊、陰脣等)ニ於テ、著ク浮腫狀ニ腫脹シ、爲ニ皮膚緊張シ、感覺鋭敏トナリ、灼熱ヲ覺フ(紅斑性濕疹 *E. erythematosum*)。其外觀稍單純ノ紅斑ニ類スレドモ、之ニ比スレバ癢、痒、浮腫強キノミナラズ、側方ヨリ熟視セバ此時既ニ小水疱又ハ丘疹ヲ存シ、皮膚面ニ多少ノ高低ヲ認ムベシ。從テ紅斑

二、丘疹性濕疹

性濕疹ハ、血管擴張ニヨリテ皮膚潮紅スルノミニ止マラズシテ既ニ多少上皮ノ損傷ヲ伴フガ故ニ、假令幸ニシテ此時期ヨリ炎症消散シ、直ニ治ニ就クコトアルモ、後日、落屑ヲ發シ、落屑性濕疹トナルヲ免レズ。

若シ炎症更ニ増進セバ、潮紅腫脹セル皮膚面上、或ハ稀ニハ外觀變色セザル皮膚面上ニ、丘疹ヲ群生シ、稀ニ散發ス、丘疹ハ小ニシテ帽針頭大ニ過ギズ、割合ニ硬韌ニシテ、附近ノ皮膚ヨリモ其色稍淡シ、組織的ニハ、上皮ノ有棘層ニ於ケル細胞間隙擴張シテ、淋巴液中ニ多數ノ白血球ヲ混ジ、有棘細胞モ亦腫脹シ、從テ組織強ク緊張シ、上皮中ニ存スル神經ノ末梢愈、刺戟セラレテ、灼熱癢痒益、甚シ。此時期ヨリ直ニ治ニ就キ落屑期ニ移ルコトアレドモ通例ハ丘疹ヨリ小水疱ヲ發生ス(丘疹性濕疹 E. papulatum)。

上皮細胞間ノ淋巴液ノ蓄積及ビ上皮細胞自己ノ水腫ハ、夙ニ既ニ紅斑期或ハ丘疹期ニモ存セシガ、今ヤ愈、高度トナリ、肉眼ヲ以テ明ニ睹ルコトヲ得ベキ小水疱トナル(小水疱性濕疹 E. vesiculosum)。小水疱ハ單疱性ニシテ、内容澄明ナリ。此時期ニ於テモ往々水疱乾燥シテ破綻スルコトナク、直ニ鱗屑期トナルコトアリ。

三、小水疱性濕疹

四、膿疱性濕疹

小水疱中ニ化膿菌侵入スレバ、内容濁シテ膿疱トナル(膿疱性濕疹 E. pusulorum)モ、素ヨリ續發症狀ニ過ギザレバ、處置適當ナル時ニハ之ヲ來スコト少シ。此場合ニ於ケル外觀ハ膿疱疹ニ酷似シ、殊ニ附近ノ皮膚ニ膿汁附着シテ孤立セル膿疱ヲ發生セシ時ハ一層之ニ類スルヲ以テ、此期ヲ又膿疱疹狀濕疹 E. impetiginosum トモ云フ。

五、糜爛性濕疹

小水疱或ハ膿疱ハ、其内容充溢スルカ、或ハ外來刺戟加ハル時、泡膜破綻シ、次テ剝離シテ、糜爛面ヲ生ジ、上皮ノ深層ヲ曝露スルモ眞皮ヲ侵スコト少キヲ以テ潰瘍トナラズ(糜爛性濕疹 E. madicans)。若シ上皮ノ變性速ニシテ、糜爛面廣部ニ互ル時ハ、特ニ赤色濕疹 E. rubrum ナド、唱ヘラル、コトアリ。

六、結痂性濕疹

炎症ヲ存スル深部上皮ハ、之ヲ保護スル表層上皮ヲ失ヘルガ故ニ、空氣ハ直ニ之ニ觸接シ、分泌物乾固シテ、黃色、綠色乃至褐色ノ痂皮ヲ形成シ、從テ皮膚ノ緊張加ハリ、自覺症モ亦増劇ス(結痂性濕疹 E. crustosum)ルノミナラズ、彈力ヲ失ヒテ輝裂ヲ生ジ易ク、搔爬セバ容易ニ乳嚙體ヲ損傷シテ直ニ出血ス。然レドモ若シ炎症減退シ、淋巴液ノ滲出減ズルトキハ、痂皮ノ下或ハ小水疱、膿疱ノ基底及周圍ヨリシテ上皮細胞新生シ、缺損ヲ充タシ痂皮ヲ剝離セシ

七、落屑性濕疹

ムレドモ、斯ノ新生上皮細胞ハ、晶様角素 Keratohyalin ノ形成不十分ニシテ、角化不全症 Parakeratose ヲ來シ、各細胞相連著シ、鱗屑トナリテ剝離ス(落屑性濕疹 E. squamosum)。而シテ鱗屑形成ノ初メニハ、鱗屑ノ下ニ潮紅アリ、又濕潤スルヲ見ル。是レ深部上皮層及ビ真皮乳嘴體ニ炎症アリ、上皮細胞間浮腫アリテ、上皮ノ結合未ダ鞏固ナラザルノ證ニシテ、此際更ニ刺戟ノ加ハルアラバ、炎症再燃シ、新シキ疹ヲ續發スベシ。若シ幸ニシテ炎症再發スルコトナクバ、逐日落屑減少シ、遂ニ之ヲ見ザルニ至リ、唯充血ノ際溢出セシ色素ノ變化ニヨリテ、多少ノ色素沈著ヲ留メ、殊ニ項部、下肢及ビ陰部ニハ、往々濃厚ノ色素ヲ貽スコトアリ。

定型の經過ヲ取ル場合ニハ、斯ノ如キ順序ヲ以テ變化スルモノナレドモ、實際ハ斯ク規則正シク現ル、モノニアラズシテ、皮疹ノ諸型雜然トシテ現レ、或ハ紅斑ヨリ直ニ落屑ニ移リ、或ハ小水疱、膿疱ニ始リ、或ハ長ク丘疹ニ止リ、或ハ一方ニ丘疹アリテ他方ニ結痂濕潤アルコトアリ、或ハ落屑セル部ニ、更ニ小水疱、丘疹等ヲ發セルアリ、或ハ疹ノ一局部ニ止リ、或ハ全身ニ擴ル等、各個人ニヨリ千態萬別ナルヲ寧ロ普通ナリトス。

斯ノ微候ハ常ニ此順序ヲ以テ規則正シク現ラズ、モシクアラズ

自覺症

癢痒及ビ其影響

全身症狀

經過

自覺症ハ癢痒、灼熱、及ビ緊張ノ感ニシテ、殊ニ癢痒ハ初期ヨリ末期ニ至ル迄之ヲ存シ、濕疹ノ主要微候ノ一ナリ。炎症ノ強弱竝ニ患者ノ神經過敏ナルト否トニモ由レドモ、概シテ劇烈ナルヲ常トス。時トシテ他覺的變化、輕微ナルハ拘ラズ、癢痒ハ割合ニ強烈ナルコトアリ。是レ恐クハ肉眼ニハ左程ノ病變ナキモ、顯微鏡的ニハ可ナリ高度ノ炎症アルニヨルナラン。但クライビヒ Krelich ノ神經纖維ガ先ヅ第一ニ興奮スルニヨリテ發スルモ、又患部ノミナラズ、隣接セル健康皮膚或ハ他側ノ相對面ニ、癢痒ヲ覺ユルコトアリ。未ダ確乎タル根據ナキモ、反射的刺戟ニヨルモノハ、ナラン。此發作性ニ來ル癢痒及ビ其鎮靜ノ爲ニ行フ動作例之バ搔爬、摩擦等ハ、焮衝セル皮膚ヲ愈、刺戟シ、炎症ヲ増加シ、經過ヲ遷延セシメ、或ハ濕疹ヲ再發セシメ、又化膿菌ノ侵入ヲ促シテ膿疱性濕疹ヲ誘發シ、或ハ種々ノ合併症ヲ發生セシム。

全身症狀ハ、通例缺如スルモ、全身ニ汎發スル時及ビ顔面濕疹ニハ往々惡寒或ハ熱發スルコトアリ。殊ニ小兒ニ於テ屢、見ルトコロナリ。

經過ハ種々ノ原因ノ反覆襲來スル爲ニ、極メテ不定ナレドモ、若シ順當ノ經過ヲ取レバ、約一週間内ニ極度、即チ小水疱及ビ膿疱期トナリ、二三週後ニ落

屑期トナリ、三乃至六週ヲ經テ漸ク常態ニ復スベシ。

二 慢性濕疹

慢性濕疹ノ發生

微候ハ皮膚ノ浸潤肥厚、從テ顔裂著色、落屑ニ往々急性濕疹ノ症候ヲ具フ

慢性濕疹ハ、急性濕疹永ク治セザルカ或ハ反覆再發スルトキ、之ニ續發シ、或ハ急性期著明ナラズシテ、初メヨリ慢性ノコトアリ。故ニ其部位ハ急性濕疹ノ好發部位ニ一致シ、又往々自覺竝ニ他覺症ナキ限局病竈ヲナシテ久シク潜伏シ、刺戟ノ加ハル毎ニ卒然劇烈ナル瘙癢或ハ急性濕疹ノ症狀ヲ發スルコトアリ。慢性濕疹ハ斯ノ如ク急性期ノ症狀ヲ兼發スルコトアルガ故ニ、其症候ハ一層多形多様ナレドモ、殊ニ必要ナルハ、皮膚ノ浸潤肥厚ニシテ、之ガ爲ニ皮膚粗糙トナリ、皮溝深ク、皮丘隆起シ、所謂苔癬樣變化 (Lichenifikation) (俗ニ鮫肌トモ云フベキ外觀)ヲ呈シ、運動ノ際彈力之ニ伴ハザル故ニ、輝裂 (Rhagades) (俗ニ赤切れ)ヲ生ジ、又色素沈著著クシテ、汚穢ニ著色ス。殊ニ慢性濕疹ニ數見ル症狀ハ、角化ノ迅速多量ニシテ、落屑ヲ伴フコトナリ。瘙癢其他ノ變化ハ急性期ニ述ベタルトコロニ同ジ。組織上ニモ、臨牀上所見ニ同ジク、不全角化 (Parakeratose) 即角質層ニ染色シ得ル核ヲ存ス。表皮肥厚 (Akanthose) 即チ上皮細胞層ノ肥大及ビ乳頭ノ肥大ト共

小兒ニ慢性症少キ理由

ニ、眞皮殊ニ血管周圍ノ圓形細胞浸潤及ビ血管、淋巴管ノ擴張ヲ見ル。慢性濕疹ハ、十五歲乃至四十五歲ノ中年者ニ頗ル多キニ反シ、小兒ニハ甚少ク、又タトヘ經過緩慢ナルモ、小兒ニ於テハ皮膚ノ浸潤肥厚、割合ニ甚シカラザル場合多シ。是幼弱者ノ皮膚ハ、血管ニ富ミテ上皮軟弱ナルコト、竝ニ皮脂ノ分泌旺盛ナルコトニ原因スト云フ (Brandweiner)。濕疹ニ種々ノ變態アレドモ、其ハ、大抵發生ノ原因及ビ部位ニヨリテ起ルニ過ギズシテ、症狀ニハ敢テ特別ナルモノアルニアラズト雖モ、唯愛ニ特ニ解説スベキ必要アル二種ノ變態アリ。即チ脂漏性濕疹及ビ間擦性濕疹是レナリ。此二種ハ幼兒ニ於テ特殊ノ點アリテ大人ノ濕疹トハ少シク異レル状態ヲ呈ス。

脂漏性濕疹

ウenna氏脂漏性濕疹

脂漏性濕疹 Eczema seborrhoicum ハ、素トウenna氏ノ命名セシトコロニシテ、初メ頭部ニ枇糠狀ノ脂性鱗屑 (頭垢)ヲ生ジ、遂ニハ之ニ炎症ヲ兼テ、通例ノ濕疹ト殆ト同一ノ變化ヲ呈スルニ至リ、顔面、頸部、軀幹、殊ニ脂腺、汗腺ニ富メ

脂漏性濕疹

小兒ノ脂漏性濕疹

ル部位(例へば腋窩、肘窩、臍窩等)ニ蔓延シテ圓形又ハ環狀ノ淡紅色ノ斑ヲ生ジ、其上ニ鱗屑ヲ被ル。境界ハ常ニ明確ナルヲ以テ、恰モ寄生性皮膚病ナルガ如キ觀アリ。定型的ノモノハ、多ク中年者ニ見ルトコロナリ。

小兒ニ於ケル脂漏性濕疹ハ果シテウンナ氏脂漏性濕疹ト同一視スベキモノナリヤ否ヤハ、大ニ疑問トスルトコロナレドモ、小兒ニ於テ皮脂ノ分泌過多、換言スレバ皮脂漏 *Seborrhoea* ヲ發スルコト多ク、此皮脂漏ノ爲ニ濕疹ヲ來スコトモ亦從テ甚多キハ疑ナキ事實ナリ。岡村氏ニヨレバ、三歳以下ノ小兒濕疹百十三人中ニ皮脂漏五十二人、脂漏性濕疹四十三人(即チ約三分二)、大野氏ニヨレバ脂漏性濕疹患者二百四十人中、滿一年以下ノ乳兒ニ四十六人、二歳乃至五歳以下ニ百十一人(即チ約二分一)ニ同患者ヲ見タリト云フ。

小兒ノ皮脂漏ハ、油狀皮脂漏 *Seborrhoea oleosa* 液性皮脂ノ分泌過多ナルコト少ク、乾性皮脂漏 *Seborrhoea sicca* ナルコト多シ。即チ皮脂乾燥シテ鱗屑ヲ成シ、殊ニ幼時ニハ脂肪ニ富ミ、頭部殊ニ顛頂部ノ皮膚稀ニハ顔面皮膚(額、鼻、頰)ニモ固著シテ、汚穢帶黃褐色ノ痂皮ヲナス。大野氏ニヨレバ、四十人中油狀脂漏六人、乾性脂漏三十四人ノ割合ナリト云フ。此脂漏 *Grease* ハ、皮脂角化細胞及ビ毳毛等ヨリ

小兒ノ皮脂漏

素質アル小兒ニ脂漏アルニ發スベシ

成リ、之ヲ剝離スレバ初メニハ脂腺孔開大セルノミニテ皮膚ニ變化ナキモ、遂ニハ皮脂ノ分解ニヨル刺戟、或ハ搔痒アリテ、之ヲ搔破スル器械的刺戟、或ハ細菌ノ傳染等ノ爲メニ、炎症ヲ兼發シ、脂漏ノ下ニ充血ヲ呈スルコトアリ。既ニ素質アル小兒ニ此外因アレバ、即チ濕疹ヲ發スベキハ勿論ニシテ、毫モ怪ムニ足ラズ。此濕疹ハ、頭部ニ發シ、往々更ニ顔面ヨリ頸、軀幹、四肢ニ蔓延スルコト、通例ノ濕疹ニ等シク、症狀モ亦同ジク多様ナレドモ、唯之ニ比シ搔痒割合ニ少シト云フ者アリ、然レドモ每常必シモ然ラズシテ、脂漏性濕疹ニシテ烈シキ搔痒ヲ訴フルモノアリ。

間擦性濕疹

間擦性濕疹 *Eczema intertrigo* ハ屢小兒ニ發生スル濕疹ノ一變態ニシテ、皮膚面互ニ相觸接シ相摩擦スル部位、例へば肛圍、陰股皺襞、頸部、腋窩、四肢ノ屈面ニ發生ス。初メハ散蔓性ニ潮紅セル皮膚面ニ多數ノ小丘疹ヲ生ジ、浮腫狀ニ腫脹シ、濕潤シ、粘稠惡臭アル分泌物ヲ出ダシ、患兒ハ烈シキ灼熱ヲ覺ユベシ。甚シキハ、患部ハ一面ニ赤色ニ糜爛シ、加之輝裂ヲ生ジ、疼痛ヲ發ス。或ハ患部

微候及ビ部位

間擦性濕疹

間擦疹ハ濕疹ナリヤ

ヨリ細菌ノ進入傳染ノ機會ヲ與ヘ、不慮ノ合併症、例ヘバ毛囊炎、癰膿疱疹、深膿疱 Ecthyma 壞疽殊ニ多發膿瘍 Multiple Abscesses ヲ招クコトアリ。

元來間擦疹 Intertrigo ハ、小兒殊ニ其肥滿セルモノ、皮膚相觸接スル爲、清潔ヲ保チ難ク、皮脂蓄積シ汗モ亦蒸發シ難ク從テ分解シテ皮膚ヲ刺戟スルカ或ハ尿糞便、流涎殊ニ胃腸病兒ノ大便及嘔吐物等ノ附著シテ皮膚ヲ刺戟スルニヨリテ發スルモノナレバ、恰モ刺戟藥ノ外用ニヨリテ發スル皮膚炎ト比スベキ種類ノモノナリ。殊ニ刺戟ノ加ハレル部位ニノミ限局シテ境界明確ナル場合、及ビ皮膚ヲ刺戟セシ外因ヲ除去セルノミニテ速ニ治癒スル場合ニ於テハ、通例ノ濕疹ト稍異ルガ如キヲ以テ、間擦疹ヲ以テ、濕疹ト同一視セザルモノナリ。然レドモ臨牀上單純ノ皮膚炎ヲ嚴ニ濕疹ト區別シ得ザル場合多キノミナラズ、素因アル者ニアリテハ、單純ノ限局的ノ間擦疹ヨリシテ、真正ノ濕疹ハ状態ニ移行スルガ故ニ、間擦疹ヲ濕疹ハ一變態ト看做スモ差支ナカルベシ。

濕疹ノ好發部位

全數ノ半ハ顔面及頭部ヲ侵ス

頭部及顔面ニ好發スル理由ニ

小兒ノ濕疹ノ最モ好ンデ發スルハ顔面及ビ頭部ニシテ、殆ド全數ノ半ヲ占メ、四肢殊ニ屈側之ニ次ギ軀幹、頸部、陰部ト漸次其數ヲ減ズ。

岡村氏ニヨレバ、四十三名ノ小兒濕疹中三十名ハ頭部及顔面ニ發シ十三名ハ頭部又ハ顔面ニノミ發シ、軀幹ニ發シタルハ僅ニ一二例ニ過ギズ。井上、篠原氏ノ一般濕疹統計五百八十一名ノ大ニヨレバ人及小兒ニ就キ頭部濕疹四三五%、顔面濕疹二九%、櫻根氏ノ小兒濕疹統計ニヨレバ、顔面濕疹(四一八人)、頭部濕疹(三六八人)、四肢(二〇七人)、其



他ノ部位ハ遙ニ少數合計二九六人ナリ。斯ク顔面及ビ頭部ニ濕疹ヲ好發スルハ何人モ疑ハザルトコロニシテ、其理由ハ恐クハ(一)此部位ハ被覆保護セラレズシテ諸種ノ外來刺戟ニ遭遇シ易ク、之ニ對スル小兒ハ皮膚ハ軟弱傷害セラレ易キコト(二)小兒ノ皮膚殊ニ一歲未滿ニアリテハ、分泌機能旺盛ニ

濕疹ノ好發部位

頭部濕疹

シテ、機能ハ生理的調和未ダ十分ナラズシテ、皮脂漏ヲ發シ、濕疹ヲ促成スル場合多キコト(岡村氏)三腺病質ノ小兒ニテハ、屢、耳漏、結膜炎、鼻加答兒ヲ發シ、其炎症ハ外皮ニ蔓延シ、易キコト等ニ因ルナラン。

頭部ニテハ落屑濕潤膿疱結痂ヲ現スモノ多ク、毛髮膠著シテ惡臭ヲ放チ、往往其全面ハ厚キ汚穢ノ痂皮ヲ被ルニ至ルコトアリ。然レドモ微毒疹乳兒ニ屢見ル所ト異リ、痂皮ハ下ニ糜爛ヲ存スルモ潰瘍ヲ形成セザルヲ以テ、治療後癩痕ヲ止メズ、毛髮ハ一時脱落スルコトアルモ、合併症ナキ限りハ、必再生スベシ。頭虱ハ寄生ハ濕疹ヲ誘發シ、又既存ノ濕疹ヲ増悪ス。凡テ頭部ノ濕疹ハ、毛囊炎及淋巴腺炎後頭腺及頸部ノ淋巴腺ヲ發シ、易キ傾向アルヲ以テ、經過中熱發スル場合ニハ、之ニ注意スルヲ要ス。又無痛ニ經過スル慢性淋巴腺炎ヲ合併スルコト少カラズシテ、之ヲ腺病(癩癰)ト誤ルコトアリ、蓋シ腺病質モ亦濕疹ノ原因タルコトアルヲ以テナリ。

顔面ノ濕疹ハ此部ニ原發シ、又ハ頭部濕疹ノ蔓延ニヨリテ發シ、額、頰、頤部或ハ顔面全體ニ互リテ丘疹、小水疱、膿疱ヲ發シ、糜爛シテ黃色又ハ帶黃褐色ノ痂皮ヲ造リ、所謂乳痂 *Crusta lactea, Milchschorf* トナル。搔痒烈シキガ故ニ、頑是ナ

顔面濕疹

乳痂

キ小兒ハ皆斷エズ、顔面ヲ衣服等ニテ摩擦シ、或ハ手ニテ搔破シテ愈、炎症ヲ増大セシムルモノナリ。

口、鼻、眼、及ビ耳ノ周圍ニ發スル濕疹ハ、腺病質ノ小兒ニ多ク、帶青赤色ノ色調ヲ帶ブルヲ常トス。眼瞼ニ於ケル濕疹ハ、涙液(結膜炎)ノ刺戟ニ原因シ、毛囊及腺モ亦侵サレ、眼瞼緣炎ヲ發ス。殊ニ急性炎症甚シケレバ、高度ノ浮腫ヲ呈スルヲ見ル。鼻孔ノ入口ニ於テハ慢性鼻炎ニヨル分泌物ノ刺戟ノ爲ニ急性濕疹ヲ發シ、結痂スレバ鼻呼吸ヲ妨ゲ、睡眠時ニ開口ス。口唇モ亦鼻汁、唾液ノ爲ニ刺戟セラレテ、紅色ヲ呈シ、落屑アリ、其面粗糙ニシテ、間、放線狀ニ輝裂シ、疼痛アリ。乳兒、小兒ニテハ食物攝取ヲ害ス。時トシテハ口ヲ中心トシテ舌ノ觸レ得ル場所ハ悉ク暗紅色ヲ呈シ、其表面ノ所々ニ灰白色ヲ現ハスコトアリ。

耳輪及ビ外聽道ノ濕疹ニハ二種アリ。一ハ大人ニ多クシテ鱗屑ヲ生ジ、乾燥シ、劇痒アリ。他ノ一ハ、則チ小兒殊ニ腺病質ノモノニ多ク、濕潤性膿疱性濕疹ノ形ヲ現ス。殊ニ耳溝ニハ小輝裂、俗ニ耳ぎれヲ生ジテ容易ニ治セズ。凡テ耳ノ濕疹ハ耳漏アルトキニ發シ、屢、外聽道ノ癰及ビ淋巴腺炎ヲ合併ス、以上諸竅ノ周圍ノ濕疹長ク治セザレバ、結締織ノ肥大ヲ來タシ、上唇、鼻翼、眼瞼

其他ノ部位ノ濕疹

等ノ肥厚ヲ來シ、容貌ヲ損スルニ至ル。
頸部、腋窩、肘窩、臍部、陰部、肛門、大腿内面等モ亦屢、小兒濕疹殊ニ間擦性濕疹ノ好發スル場所ニシテ、殊ニ陰部ニ於テハ再發シ易ク、瘙癢甚シ。少女、乳兒ハ淋病ノ爲、陰脣ノ濕疹ヲ來スコトアリ。

手足ノ濕疹ハ大人ニハ甚多數ナルニ反シ、小兒ニハ寧ロ少ク、所謂工業濕疹 Geverbeekzem 化學的藥品等ヲ取扱フ者ノ手ニ發スルモノ 胼胝狀濕疹 E. tyloicum 足趾、手掌ノ濕疹ニシテ、角質肥厚ノ甚シキモノ 及

痒疹性濕疹

ビ俗ニ水蟲ト稱スル指趾間ノ濕疹ノ一種、汗疱 Cheiropompholyx ノ如キハ甚稀ナリ。唯小兒ニ於テ往々遭遇スルハ、下腿ノ濕疹ナレドモ、其多クハ痒疹ニ續發スル濕疹様變化ニシテ、濕疹ハ本態ニ非ラズ。故ニ伸側ハ屈側ヨリ強ク侵サレ、濕疹ハ風側ニ好發ス 季節ニヨリ自然ニ増悪輕快シ、皮疹ノ境界分明ナリ。此續發的濕疹ヲ痒疹性濕疹 E. pruriginosum ト云ヒ、下腿、大腿ヨリ上肢ヲ侵シ、甚シキハ全身ニ汎發スルコトアリ。

原因

小兒濕疹ノ原因ハ成人ト等シク、外因及ビ内因ノ二種別アリ。

人工的濕疹

外因即チ外來ノ刺戟ニヨリテ濕疹—少クトモ濕疹様狀態ヲ呈シ來ルコトハ、ヘブラ Hebra 氏ノ實驗 巴豆油ヲ皮膚ニ塗布シテ皮膚炎ヲ起サシメ、急性濕疹ニ見ル諸症狀ヲ實驗的ニ觀察證明セルモノ 以來疑フベキ餘地ナキモ更ラニ進ンデ單ニ外因ノミヲ以テ總テハ濕疹ノ發生ヲ説明セントセバ、少カラザル困難ニ遭遇スベシ、殊ニ慢性濕疹ノ發生ニ就キテ然リ。

素質アレバ僅微ノ外因加ルモ直ニ濕疹ヲ發シ、一旦發シバ治シ難シ

他ノ論難即チ斯ル實驗的ニ造リシ濕疹様變化ハ、一ノ急性皮膚炎 Dermatitis ニシテ、外來刺戟ダニ去ラバ容易ニ治癒スルコトアルガ故ニ、濕疹ニアラズ (Besnier) トノ說ハ、誠ニ理由アルコトナレドモ、吾人ハ藥疹ハ別トシテ病理組織上ニモ、臨牀上所見ニモ、急性濕疹ト殆ド全ク同一ナル人工的皮膚炎 其蔓延モ連續的ノミナラズ、飛ビテ殊更區別スル必要ヲ見ズ、又實際區別シ難カルベシ。故ニ吾人ハ維納學派ノ說ノ如ク、濕疹ハ主トシテ外因ニヨリテ起ルヲ認ムルト共ニ、内因即チ素質ガ重要ナル關係ヲ有ス(殊ニ小兒濕疹ニ於テ)ルコトヲ信ズルモノナリ。例ヘバ何等ノ外因ヲ發見シ得ザル程ノ輕微ノ刺戟ナルニモ拘ラズ、濕疹ヲ發スル如キ、或ハ適當ノ局所の治療ヲ施スモ治セザル濕疹ガ、内因ノ除去ト共ニ直ニ治スルガ如キ、或ハ刺戟全ク同一ナルモ、發生スル

變化(殊ニ)症狀ノ輕重、經過ノ遲速ニ非常ナル差異アリテ、一ハ其變化極メテ輕微ニシテ速治シ一ハ變化著大ナルカ若クハ外因去ルモ容易ニ治癒セズ、加之再三反復發生スルガ如キ、皆内部ノ原因ニヨリテノミ説明シ得ベキナリ。但シ内因ノミニテ濕疹ヲ發シ得ルヤ否ヤハ疑問トス要スルニ内因或ハ素質アルモノハ、外來刺戟ニ對シ抵抗力少ク、僅微ノ刺戟ニテモ直ニ濕疹ヲ發シ、一旦發疹スレバ治癒シ難キ傾向ヲ有スト謂フベキナリ。

外因 化學的刺戟

外因 小兒ハ成人ヨリモ化學的刺戟種々ノ藥品、漆、肥料、レントゲン、ニ遭遇スル機會遙ニ少シト雖、小兒ノ皮膚ハ軟弱ナルヲ以テ、若シ外因加ハレバ容易ニ濕疹ヲ發スベシ。主要ナル外因ハ、皮脂及ビ汗ノ分泌過多脂漏性濕疹、間擦性濕疹、汗疹性濕疹、zoster、竝ニ唾液、鼻汁、涙液、大便、小便、耳漏、乳汁ノ附著、皮膚ノ清潔法ノ過不及皮膚不潔ナレバ勿論、徒ニ清潔ヲ欲スル餘リ水或ハ硼酸水ヲ以テ洗滌シ殊ニ不潔ノ石鹼ヲ用フルトキモ皮膚ヲ刺戟シ濕疹ヲ發スベシ、浴法及吸入ニヨル水竝ニ藥品ノ刺戟等ナリ。器械的刺戟殊ニ搔破及ビ摩擦ハ、理性未發達ノ小兒ニ於テハ之レヲ抑制シ難キヲ以テ、瘙癢性皮膚病疥癬、白癬、痒疹、蕁麻疹、小兒苦癬等アルトキハ濕疹ハ誘因トナル。溫熱的刺戟ノ中、溫熱及ビ日光モ皮膚ヲ刺戟シ汗分泌ヲ促スガ故ニ、濕疹ヲ起スベシト雖、小兒ニ於テ、寧ロ却テ有害ナルハ、寒冷ノ季節ナ

器械的刺戟

溫熱的刺戟殊ニ寒冷

リ。是レ西洋及ビ日本共ニ冬期ニ罹病兒多キヲ以テモ知ラルベシ(佐藤、櫻根氏)。就中、十月ヨリ三月迄ハ濕疹ニ罹ル者多シ。濕疹ノ再發モ亦冬期ニ多ク、夏期ニハ少シ(大越氏)。

細菌及其產物

細菌殊ニ葡萄狀球菌竝ニ其毒素ガ外來刺戟トナリテ濕疹ノ經過ニ惡影響ヲ與フルコト疑ナシト雖、通例ノ葡萄狀化膿菌モ、ウンナ氏發見ノ桑實狀球菌(實ハ葡萄狀球菌)モ共ニ濕疹ノ原因タリト看做シ難ク、新鮮ナル小水泡ニハ全ク無菌ナルヲ常トス。即チ濕疹面上ニ必發見スル葡萄狀球菌殊ニ白色コリ黄色菌ノハ、近時ノ細菌的、生物學的研究(Viel, Bruck 及ビ日高氏)ニヨレバ、多コト多シハ、性質ナキニ非レドモ、之ヲ以テ直接ノ原因ト看做シ難ク、寧ロ外來刺戟ハ、一トナスヲ穩當ナリトスベシ。細菌毒素ニヨリテ濕疹ヲ發生スル說(Bender etc. 1901)モ亦之ニ同ジカラン。

内因

内因 濕疹ガ内因(素質)ニヨリテ發生スルトノ說ハ、由來遠シト雖モ、一旦ヘブラ氏ノ外因說出デ、其勢力ヲ失墜シ、近時再ビ獨塊ニ於テスラ稍、頹勢ヲ挽回シ、殊ニ英、米、佛ニ於テハ昔ナガラノ贊成者多シ。小兒濕疹ニテ最モ注意スベキハ、榮養ノ過不及ナリ。榮養過度ガ濕疹ノ原因

榮養過度

榮養不良

タル説ハ既ニ遠ク小兒科醫フランク、ヘンケ氏等(Frank, Henke 1809, Jörg)ヨリ
 テ唱ヘラレ、近クマルファン Marfan 及ビフェール Feer 氏ハ頭部ノ濕潤結痂性
 濕疹(脂漏性濕疹)ハ、過養ノ小兒ニ發生ストシ、フィンケルスタイン、Finkelstein ガ
 レウスキー Galevsky、ピック Pick 氏等モ同見地ニ基キ、肥滿ノ制限ヲ試ミント
 スルニ至レリ。實際小兒ノ濕疹ハ、榮養佳良ノ者大多數(即チ佐藤氏一榮養良
 十四名、不良二名、大越氏一患兒八十二名中、榮養佳良四十五名、普通三十四名
 不良三名)ヲ占ムルガ故ニ、榮養過度ト小兒濕疹トノ間ニ相當ノ關係アルハ
 疑ナシ。殊ニ間擦性濕疹ノ如ク、皮膚相觸接シテ損傷シ易ク、又汗脂ノ分泌甚
 シク其蓄積、分解ニヨリテ炎症ヲ發生スル如キモノニ於テハ勿論脂漏性濕
 疹ニ於テモ食餌ノ變更ニヨリ良影響ヲ與フルコトアルヲ以テ多少ノ關係
 ハ之ヲ認ムベシ。然レドモ多クノ濕疹ハ肥滿ヲ制限スルモ治セズ(ウイチン
 ゲル Wizinger 氏)又肥滿ノ小兒ハ必シモ濕疹ヲ發スルニアラズ。要スルニ榮
 養過度ハ往々濕疹ヲ發シ易カラシメ、又ハ經過ヲ不良ナラシム。即チ素質ヲ
 賦與スルモノト謂フベキナラン。

榮養品ノ影響

ニ此影響ハ、大ナラザルガ如シ、貧血兒ニ來ル濕疹、所謂、貧血性濕疹 Ekzema
 anaemicum 顔面、軀幹等ニ發生スル小ナル限局性
 病竈ニシテ淡紅色ヲ呈シ、鱗屑アリ。ナル状態ハ、果シテ眞ノ濕疹ナルカ、
 或ハ皮脂漏ナルカ、或ハ腺病性苔癬ナルカ疑シキモノナリ。ブランドワイチル
 Brandweiner 氏モ同ジ疑問ヲ有スルニ似タリ。
 之ヨリモ注意スベキハ榮養品ノ影響ニシテ、フィンケルスタイン Finkelstein 氏
 ハ、牛乳中ノ鹽類ガ濕疹ノ原因ヲナスベキヲ論ジ爾來之ニ對スル諸説現ハ
 レタレドモ贊否未ダ一定セズ。恐ラクハ重要ナル原因ト認メ難カルベク、少
 クトモ本邦小兒ノ濕疹ハ、人工榮養ノモノヨリモ、寧ロ多ク母乳榮養者ニア
 リ(佐藤、櫻根、大越氏)其他、人工榮養ヲ取レル乳兒ハ、播種狀ノ乾性濕疹 過養者ノ
 性濕疹ヲ發ストニ對シテ如何ニヤ、疑フベシ。
 胃腸障礙ガ濕疹ノ直接ノ原因トナルトノ説モ廣ク行ハレテ且稍、陳腐ナリ。
 毒物、腸ニ入り或ハ腸ニ於テ產出セラレ次デ吸收セラレテ濕疹ヲ生ズト解
 説セラレドモ、根據薄弱ナリ。實際濕疹患者ノ大便ノ性状及便通ヲ検査ス
 ルニ、多クハ尋常ニシテ、尿中ノインヂカン反應モ亦大抵陰性(佐藤、大越氏)ナ
 リ。但シ單ニ腸加答兒、消化不良或ハ便秘ガ往々濕疹ノ發生ニ素質ヲ與フト

胃腸障礙

全身病

云フニ止ラバ、何人モ異議ナカラン。從テ是等ノ存在ガ、經過ニモ惡影響ヲ與フル事アルハ勿論ナラン。又濕疹ト腸寄生蟲(蛔蟲、蟯蟲)トノ關係ニ就テハ、往々蟲卵ヲ排便中ニ見ル(二六%大越氏)モ、原因的關係ヲ斷定シ難シ(旭、大越氏)。全身病殊ニ腺病質ノ小兒ハ、粘膜及皮膚ノ炎症ニ罹リ易ク、顔面殊ニ、口、鼻、眼、耳等ニ接スル皮膚ニ濕疹ヲ原發シテ、粘膜ノ加答兒ヲ繼發シ、或ハ之ニ反スルコトアルハ既述ノ如シ。其他萎黃病、尿酸素質モ關係アリトセラル、モ、尿酸素質ニ關シテハ論據確實ナラズ(Goepfert)。多クノ濕疹患者ノ尿中ニハ通例蛋白及ビ糖ヲ認メザルヲ以テ腎臟炎竝ニ糖尿病ト濕疹トノ關係モ亦餘リ親密ナラザルガ如シ。殊ニ小兒濕疹ニ於テ然リ(七十二例中一人ノ糖尿ヲ見ズ又五歳以下ノ小兒ニハ一モ蛋白尿ヲ見ザリキ—大越氏)。

神經系ト濕疹トノ關係ハ近時ニ至リテ再ビシ^トウ^キム^{メル} Schwimmer 及ブルクレー Bulkeley 氏等ニヨリテ唱ヘラレ、機能障礙(神經衰弱「ヒステリー」等)モ、器質的疾患モ、俱ニ濕疹ノ發生ニ關係アリトセラレドモ、恐クハ餘リ重視スベキモノニアラザルナラン。又齒牙ノ發生、竝ニ胃腸病ノトキニ反射作用ニヨリ濕疹ヲ誘發シ又増惡スト唱ヘラル、殊ニ齒牙發生期ニ濕疹ヲ發スルコ

神經系

遺傳

ト多キハ一般ニ認メラル、所ナレドモ吾人ハ、乳齒ノ發生スル、年齢ハ、丁度濕疹モ最多キ時期ナレバ、果シテ密接ノ關係アリヤ、否ヤヲ疑フモノナリ。多クノ統計モ亦往々濕疹ノ發生ガ齒牙發生ニ先ツヲ示セリ。種痘モ亦之ニ同ジ(佐藤氏)クライビ^{ツヒ} Krebich 氏ハ別ニ血管運動性反射作用 vasomotorisches Reflexphänomen ニヨリテ濕疹ヲ發生スル說^{射刺加ハレバ、先ヅ知覺神經ヲ刺戟シ、反射的ニ血管運動性反射弓ヲ興奮セシメ}皮膚ヲ搔破スル時容易ニ濕疹ヲ發セシム。而シテ一旦濕疹ヲ生セバ對側^{ヲ立テタリ。按}又ハ其他ノ部位ニモ反射ニヨリテ發生スルヲ得ベシト云フニアリ。ズルニ濕疹ノ原因ハ殆ド之ヲ蕁麻疹ニモ移スコトヲ得ベク、臨牀上ニモ濕疹ノ經過中蕁麻疹或ハ紅斑ヲ發スルコト尠カラザル(著者ヲ以テ、此血管運動神經症 Angioneurose ノ說モ亦必シモ捨テ難キヲ感ズルナリ)。

遺傳ハ世人ノ思料スルヨリモ以上ニ濕疹ノ發生ニ關係アルモノニシテ(Vietel, Jarisch 土肥氏)患者ノ父母竝ニ同胞ノ幼時ニ濕疹アリシト云フ者多シ。佐藤氏ハ十六例中其親ノ幼時ニ濕疹アリシ者八例、大越氏ハ百三十六例中十四例ニ遺傳ヲ證明セリ。ホイブ^テル Heubner 及フ^{ール} Peur 氏ハ之ヲ淋巴質體質ニツヘルニー Czerny 氏ハ神經性素質ニ關係アリトナセドモ、其真相ハ素ヨリ不明ナリトス。

豫後及合併症

豫後
合併症

小兒濕疹ノ豫後ハ概シテ良好ナレドモ慢性症ハ全治シ易カラズ急性症ハ再發シ易シ最モ普通ノ合併症ハ毛囊炎、癬瘍、丹毒、淋巴管炎、淋巴腺炎、結膜炎、鼻加答兒等ナリ殊ニ癩ハ經過中治癒ニ向ハントスル時期ニ發スルコト多キヲ以テ俗ニ寄リト稱ス。病毒ノ一局所ニ寄稀ニハ皮膚ノ皸癩ニ壞疽ヲ生ジ、或ハ腎臟炎或ハ敗血症ヲ來シ又結膜炎ヨリ失明(松浦氏)スルコトアリト云フ。斯カル合併症ヲモ發見セズ又殆ド全身症狀ナキ小兒ハ濕疹殊ニ頭部濕疹ヲ治療スル時ニ小兒ハ卒然死亡シ而カモ剖見上何等ノ解剖的變化ヲ見ザルコトアリ之ヲ濕疹死 Ekzentortト云フ時トシテ此際發熱、痙攣或ハ呼吸促進等中毒症狀ヲ伴フコトアリ。フエール、Herz氏ハ約三十ノ類例ヲ蒐メ其剖見ニ於テ往々淋巴性體質ヲ認メタリトシツエルニ Czerny氏モ亦之ヲ承認スレドモ他方ニハ心筋ノ變化ヲ認メシモノアリ(Camerer, Rehn)本邦ニ於テモ斯ル報告アリ(森、土肥氏)吾人モ亦濕疹死ニ遭遇セリトノ談話ヲ聞クコト數次ナレドモ未自ラ之ニ遭遇セズ恐クハ稀有ノ變事ニシテ其中ニハ濕

濕疹死

濕疹ヲ治療セバ内攻スルノ

疹治療ノ罪ニアラズシテ治療ノ時期ヲ失セルモノモアラシ。例ヘバ Miller氏ハヨリ消散セリ但シ臨牀上ニハ蛋白尿モナク全身症狀ヲ呈セザリキ。或ハ不適當ノ治療モアラシ。例ヘバ結痂ヲ促スカ又ハ緊密ノ繃帶ヲシ膿汁ノ排出ヲ妨グ或ハ廣大ナ用ヒ或ハ細菌進入ノ是等ヲ控除セバ其所謂濕疹死ハ縱令絶無ニアラザル迄モ其數幾許モアラザラン故ニ古來東西洋ヲ通ジテ行ハレタル俗說即チ濕疹ヲ治療セバ内攻 nach innen schlagenトノ說ヲ打破シ適法ノ治療ヲ成ルベク早ク開始シ不測ノ合併症ヲ豫防セザルベカラズ若シ夫レ單ニ濕疹ガ急ニ消散セバ内部ニ疾病ヲ來ストノ說ニ至リテハ實ニ其所見ニハ誤リナケレドモ其實原因結果ヲ顛倒シタルモノニシテ吾人ハ寧ロエスチル Jesner氏ノ言ノ如ク皮膚病消散シタル爲ニ内部疾病ヲ來セシニアラズシテ却テ内病ヲ發セシガ爲ニ皮膚病治癒セシナリト曰ハント欲ス。

診斷及ビ鑑別

小兒ノ濕疹モ大人ニ於ケルト同ジク一般濕疹ノ特徵多形殊ニ濕潤、糜爛アレドモ潰瘍ヲ生ゼザルコト、皮疹ノ境界散漫ナルコト竝ニ部位、瘙痒等ニ照

豫後及合併症 診斷及ビ鑑別

セバ概シテ容易ナリ。

丹毒 Erysipelas ハ急性濕疹ニ類スレドモ境界明劃ニシテ患部平滑ニ、壓痛アリテ搔痒ナク水疱ハ大、全身症狀甚シ。疱疹 Herpes ニアリテハ一群ノ小水疱群殆ド同時ニ發スレドモ濕疹ハ逐次ニ之ヲ發シ新舊ノ小水疱相混ズ又疱疹ハ小水疱群ノ間ニ健康皮膚アリ殊ニ帶狀疱疹 Herpes zoster ハ神經ノ徑路ニ沿ヒ疼痛アリ。

膿疱疹

膿疱疹 Impetigo ハ小兒ノ顔面ニ好發シ又濕疹ノ際之ヲ合併スル故最モ區別シ難シト雖膿疱疹ハ皮疹相孤立シテ其間ニ常色ノ皮膚ヲ存シ搔痒ナシ。多形滲出性紅斑 Erythema exsudativum multiforme ハ皮疹孤立シ境界明劃ニシテ邊

疥癬

綠ハ鮮紅色ヲ、中央ハ帶紫赤色ヲ呈シ水疱大ニシテ往々熱及關節痛ヲ伴フ。疥癬 Scabies モ皮疹多クハ孤立シ特異ノ好發部位アリ、若シ疥癬ノ好發部位ニ濕疹アレバ、ソハ寧ろ疥癬ニ續發セシモノト疑フベシ殊ニ蟲道及ビ疥癬蟲ノ存在ニヨリ濕疹ト區別スベシ。

扁平紅色苔癬

扁平苔癬 Lichen planus ハ丘疹性濕疹ト誤ルコトアレドモ苔癬小結節ハ硬韌ニシテ蠟樣光澤アリ多角形ニシテ中央陷沒ス、且ツ決シテ濕潤結痂セズ。

痒疹

痒疹 Prurigo モ幼年ニ發シ搔痒アリ濕疹ヲ誘發スル故ニ濕疹ト誤診シ易キ。モ痒疹ハ四肢殊ニ下肢ノ伸展側ニ發シ大關節ノ屈曲面ヲ侵サズ季節ニヨリ病勢ニ消長アルヲ異レリトス又無痛性ノ淋巴腺腫ヲ伴フ。

微毒疹

微毒疹 Syphilide ハ頭部ニ好發スル故注意ヲ要ス但シ丘疹微毒ハ搔痒ナク皮疹ハ銅赤色ヲ呈シテ硬ク各々孤立シテ境界明瞭ナリ膿疱性及潰瘍性微毒ニテハ潰瘍ヲ造リ癩痕ヲ結ビ浸潤強シ。

尋常性狼瘡

尋常性狼瘡 Lupus vulgaris ハ幼者ノ顔面ニ好發スルコトハ濕疹ニ類スレドモ徐々ニ發生シ組織柔軟ニシテ鱗屑ヲ去レバ褐赤色ノ浸潤アリテ硝子ヲ以テ壓スルモ全ク褪色セズ殊ニ潰瘍、癩痕ヲ形成スルヲ大ニ異レリトス、搔痒ナシ。

尋常性鱗屑疹

尋常性鱗屑疹 Psoriasis vulgaris ハ四肢ノ伸側ニ好發シ境界明瞭ニシテ濕潤セズ鱗屑大ニシテ厚ク銀白色ナリ搔痒少シ。

黃癬

黃癬 Favus モ亦鱗屑性濕疹ト誤ルコトアレドモ境界明ニシテ毛髮脱落シ鱗屑ノ下又ハ附近ニ黃色ノ黃癬小甲ヲ見ルベク且ツ容易ニ絲狀菌ヲ檢出シ得ベシ治後癩痕ヲ止ム搔痒多クハ輕シ。

白癬

白癬 Trichophytia capillitii モ境界明割、毛髮断裂、絲狀菌アリ、癢痒少シ、白癬性濕疹(又頑癬) Eczema marginatum ハ境界明割ニシテ邊緣隆起、潮紅スレドモ中央ハ暗褐色又ハ常色ヲ呈シ、其内ニ再發疹ヲ見ルコトアリ、斑紋性白癬 Herpes tonsurans maculosus 又ジヘル氏薔薇色枇糠疹 Pityriasis rosea Gilbert モ境界明ニシテ中央部ハ早ク治癒シ、病變輕ク又癢痒少シ。

療法

濕疹ハ内ニ素質アリ、外ニ外來刺戟アリテ發スルモノナレバ、其治療法ニモ亦自ラ内外ノ二方アルベシ。

内療法 Interne Therapie

小兒ノ濕疹ヲ誘發或ハ増進スル所謂内因ヲ發見シ之ニ適應スル方法ヲ講ズベシ。

榮養療法

榮養療法 Ernährungstherapie ハ近時濕疹ノ内因說ノ復活ニ連レ再ビ勃興セシ方法ニシテ其詳說ハ他ニ筆者アレバ之ニ委テ概要ヲ述ブルニ止メン即チ

フインケルス
タイン氏食餌
療法

本療法ハ既述ノ如ク榮養過度ハ濕疹發生ノ素地ヲ與ヘ肥滿兒ハ却テ濕疹ニ罹リ易キガ故ニ乳汁ノ給與ヲ減ジ補フニ含水炭素ヲ以テスルヲ可トスルニアリ、乳兒ノ授乳ノ回数(一日ニ五回以下)及ビ授乳時間ヲ減ジ、生後三ヶ月以後ノモノニハ同時ニ粥汁ノ如キモノヲ與ヘテ之ヲ補ヒ、人工榮養ニヨレル者ハ乳量ヲ一日五百乃至八百瓦ニ制限シ之ニ粥汁、葛湯及ビ砂糖等ヲ調和シ、生後數ヶ月ヲ經過セバ果汁、新鮮ナル野菜ヲ與ヘ、乳量ヲ減ズ一或ハ此場合ニ通例ノ牛乳ヨリモ牛乳ノ脂肪、乳糖等ヲ除キタルヲ優レリトスルモノアリ、兎ニ角此減乳榮養法ヲ數ヶ月間持續シテ再發ヲ防グベシト云フ。

フインケルス タイン Finkelstein 氏ノ食餌療法ハ稍之ト趣ヲ異ニシ、牛乳中ノ鹽類ガ小兒濕疹ニ有害ナル故之ヲ除去シ、脂肪及ビ蛋白ヲ止メ之ニ燕麥粥及ビ砂糖ヲ加ヘテ與フレバ重症濕疹モ三ヶ月ヲ出ズシテ治スト(但シ頭部濕疹ヲ有スル肥滿兒ナル時)之ニ反シテ、Foor 氏ハ乳漿ヲ用ヒテ良效ヲ得タルガ故ニ全牛乳多ク含有セル脂肪モガ有害ナルモノトセリ。

之ヲ要スルニ榮養療法ハ學理上ノ根據モ實際ノ成績モ共ニ未ダ確實ナラザル故之ニノミ信賴シ難キハ遺憾ナリ故ニ吾人ハ將來ハ知ラズ今日ニ

惡影響ヲ及ボス食料

便秘

内用藥亞砒酸

於テハ依然局處療法ヲ主トシ榮養療法ハ其補佐トシテ母乳ナレバ其量ヲ減ジ含水炭素ヲ加ヘ人工榮養兒ナレバ人乳ニ改ムルカ減乳法ヲ試ムルヲ可トスルモノナリ。

濕疹ニ對シ惡影響ヲ及ボス食料ヲ知ルコトモ亦治療上肝要ナリ概シテ避クベキハ皮膚ニ充血ヲ來シ又ハ瘙痒ヲ増加スルモノ例ヘバ酸味強キ果實蜜柑、鹹味強キ乾物、鹽漬ノ獸肉、魚肉鹽鮭、葱、筍、菌、辛キ藥味胡椒、辛子、酒、茶、煙草等ナリ獸魚肉ハ必シモ禁ゼザレドモ一般ニ脂肪多キ食物ハ不消化ナルノミナラズ皮脂肪分泌ヲ高ムルヲ以テ不可トス體內ニ存スル脂肪ハ往々脂肪ヲ經テ排出セラルル例ヘバ鵝ヲ饑餓ノ状態トシテ胡麻油ヲ與フレバ其脂肪中ニ該油ヲ證明スベシ餅ハ世俗忌ム所ニシテ青木氏殊ニ不消化ナレバ授乳スル母殊ニ幼弱ノ兒童ニハ避クルヲ可トス。

便秘ハ腸内酸酵ヲ易カラシメ皮脂肪分泌機能ヲ高ム實際脂漏性濕疹ハ患者ハ多數ハ便秘ニ傾ク(大越氏)ヲ以テ之ヲ治スル爲緩和ナル下劑例ヘバ大黃、旂那、硫黃等ヲ與フベシ。

内療法ニ用フル藥品ニテ第一ニ舉グベキハ亞砒酸ナリ固ヨリ確實ノ療法ヲ以テ許スヲ得ズト雖經驗上其皮膚ニ對スル特異ノ作用ハ往々局所療法

肝油 臭素加里

ヲ能ク幫助シ治ヲ促シ再發ヲ豫防スル力アルヲ認ム殊ニ虛弱貧血ノ小兒ニ最モ適當ナリトス。

亞砒酸竝ニ其製劑中小兒ニ適スルハ法列兒水ナリ半歲未滿ノ者ニハ法列兒水一〇、水四〇ヲ毎日一滴宛三回食後ニ分服セシメ每週增量シテ一日六滴(年齡十歲ノ者ナレバ二十滴乃至三十滴迄)ニ至ラシメ皮疹消退スル迄之ヲ持長シ爾後始メノ如ク逐次ニ減量ス其用量ハ患兒ノ年齡ニヨリ適宜ニ加減スベシト雖常ニ長ク持長セザレバ效少シ然レドモ連續使用スレバ稀ニハ中毒(胃腸障礙、腹痛、下痢、血便)ヲ來スコトアレバ常ニ便通ヲ整正シテ之ヲ豫防シ若シ不幸ニシテ中毒症狀ヲ發セバ休藥スベシ。

其他アルゼン、フエラトーゼモ亦稱用スベシ成長セル小兒ニハ時トシテ亞細亞丸ノ内用、或ハ一%亞砒酸曹達水ノ注射(〇三乃至〇五)モ用キラル、コトアリ。

腺病質ノ者ニハ肝油ヲ一日一乃至三咖啡匙宛用フベシ(但シ變質ノ虞アレバ冬季ニ用フ)沃度鐵舍利別モ同症ニ適ス。

對症療法ノ一トシテ瘙痒及ビ神經症狀ヲ緩和スル爲メ臭素加里等ヲ用フ

ル事アリ但、餘リ發汗ヲ促ス藥品ハ却テ發汗ノ爲ニ瘙痒ヲ増進スル虞アリ。村田謙太郎氏曰ク患者ノ瘙痒ヲ訴フルニ當リ輕々シク動クベカラズ分婉時ノ陣痛ニ堪ヘザルモノハ容易ニ最愛ノ子ヲ殺サンコトヲ請フ母ナリ能ク苦ニ耐ヘザルモノ、ミ非常ノ大失策ヲ敢テスルモノナレバ瘙痒ノ際、モルヒチヲ與フルコト勿レ(丸茂氏)。

外療法又局處療法 Lokale Therapie

外來刺戟ヲ防

濕疹ノ直接原因タル外來刺戟ヲ去リ、炎衝性皮膚ヲ保護シ、天然自然ノ治癒機轉ヲ補助スルハ治療ノ第一義ニシテ凡テノ場合ヲ通ジテ行ハザルベカラザル手段ナリ從テ、光線、空氣、烈風、寒風、及ビ炎熱ヲ避ケ、尿、大便、汗、脂、鼻汁、唾液、涙、膿汁等ノ種々ノ生理的及ビ病的產物ハ、觸接ヲ防ギ、又徒ニ皮膚ヲ清潔ニスルト稱シ、水、湯、石鹼、藥液殊ニ消毒藥ヲ以テ洗滌スルヲ禁ズ、ベシ殊ニ小兒ハ搔破摩擦ニヨリ濕疹ヲ増悪、蔓延セシメ、又合併症ヲ來サシムルモノナレバ是等ノ器械的刺戟ヲ極力制遏セザルベカラズ、衣服及ビ居室ハ過冷過熱ヲ避ケ、皮膚ガ急劇ノ溫度轉換ヲ受ケザル様ニス、衣服ハ毛織物ヲ好マズ

入浴及ビ種痘

入浴及ビ種痘

入浴ハ概シテ禁忌トス、種痘ハ濕疹ノ經過ヲ害スルノミナラズ痘疱様ノ膿疱疹ヲ接種部以外殊ニ濕疹病竈ニ發スルコトアル故成ルベク避クベシ(志立氏)但シ痘瘡流行時ハ此限ニアラズ。濕疹ノ本來ノ局處療法ハ時期ニ從テ差異アリト雖要スルニ一定ノ特效藥ト稱スベキモノナク各個人ニ就キ又各部位ニヨリ夫々適當ノ對症療法ヲ施サルベカラズ。

紅斑性濕疹ニ對シテハ左ノ撒布藥

亞鉛花 澱粉(又ハ滑石) 各等分

綿ニ附著セシメ一日數回且多量ニ撒布スベシ、粉末ハ脂汗其他分泌物ヲ吸收シ其蒸發ヲ促シ爲ニ輕度ハ濕潤ハ之ヲ乾燥セシムルト同時ニ外界ヨリ皮膚ヲ遮斷シ多少ハ保護ヲ與フルヲ以テ炎衝輕減シ瘙痒モ亦鎮靜スベシ但シ粉末撒布ハ分泌甚シキ濕疹及ビ頭部濕疹ニハ不適當ナリ何者多量ノ分泌物ハ撒布藥ト混ジテ痂皮ヲ形成シ分泌物ノ鬱滯ヲ來シ病勢ヲ増進セシムベク又有毛頭部ニ撒布セバ粉末ヲ除去スルコト困難ニシテ同ジク分泌物鬱滯ノ虞アラン尤モ頭毛ヲ短剪セルカ又ハ幼兒ナレバ差支ナシ。

紅斑性濕疹ノ局處療法

撒布藥ノ適不適

療法

酒精劑

撒布用粉末ハ以上ノ外、炭酸、マグネシヤ、白堊、硼酸、タンノホルム、(止汗ノ作用アリ)サリチル酸、プロモコル、(止痒ノ效アリ)蒼鉛劑、次硝酸蒼鉛、テルマトール、キセロホルム等諸種アレドモ通例ハ亞鉛花滑石及ビ澱粉ノ三種ニテ足ルベシ。但シ植物性粉末ハ水分ニ遇フテ固マリ易キ故好マザル者アリ。酒精劑例ヘバ「チモール」酒精(〇・二五%)或ハ石炭酸酒精(一―二〇%)等モ往々此時期ニ應用セラル殊ニ。

冷卷法

「サリチル酸」一、二〇、「グリセリン」五、一〇〇。酒精 一〇〇。フ〇塗布シ直ニ多量ノ撒布藥ヲ施スヲ可トス。酒精ニヨリ一時痒痒鎮靜スベク又皮膚濕潤セル處ヘ撒布藥ヲ施セバ粉末密著シ恰モ糊膏塗布ノ如ク外來刺戟ヲ遮斷スルノ效アリ。此場合ニ酒精ノ殺菌作用ニ然レドモ通例ハ單ニ撒布ヲ反復スル方便利ナルノミナラズ、炎衝烈シキ時殊ニ顔面及ビ陰部濕疹ニハ酒精劑往々適當セザルコトアリ。硼酸水(二%)或ハブロウ氏液鉛糖五〇、明礬一〇、水一〇〇ヲ用キ時振盪シ十倍ニ稀釋シテ使用ス等ノ冷卷法亦用キラルト雖使用ニ注意ヲ要ス。熱水卷法、熱氣療法等モ普通一般ノ療法トシテハ推奨シ難シ。

丘疹性濕疹ノ療法

丘疹性濕疹ハ丘疹少ケレバ撒布ニテ足レ、丘疹多キ時ハ土肥氏方ハ一%石炭酸、亞鉛花糊ヲ薄ク手指ニテ塗抹スベシ。濃厚ニ塗布セバ却テ剝落ノ虞アリ然ラバ數分時ニテ水分蒸發シ後ニ薄層ヲ止メ皮膚ヲ刺戟セズ能ク之ヲ保護シ止痒ノ效アリ殊ニ繃帶ヲ要セザルヲ便利トス。但、炎症餘リ高度ナラザル場合ニ適ス。「トラガカントゴム」五〇、「グリセリン」二〇。亞鉛花 一〇〇。一%石炭酸水 一〇〇〇。

泥膏ノ適應

此糊膏中ノ石炭酸ニ堪ヘザルモノニハ之ヲ除クベシ。頭部濕疹竝ニ丘疹多數ニシテ容易ニ消散セズ、炎衝甚シキ時ハ泥膏ヲ用フ。單純ノ糊膏 *Inimentum exsiccans Pickii* (「トラガカントゴム」五〇、「グリセリン」二〇、水一〇〇)ニハ又止痒ノ目的ヲ以テ「プロモコル」一〇%或ハ「メントール」(二―五%)ヲ配伍シ得ベシ。此糊膏ト殆ド同一ノ適應、效力ヲ有スル藥品少カラズ前記ノ酒精劑ヲ塗布シ直ニ撒布スルガ如キモ其一ナリ最モ刺戟少ク能ク乾燥セシムルモノニ左方即。

糊膏ノ解説

亞鉛花 澱粉(又滑石)「グリセリン」、餛水 各等分
アリ之ニ「イヒチオール」(三―一〇%)或ハ「硫黃(同上)或ハ「ツメノール」(同上)或

假漆

ハ「レゾルチン」(同上)ヲ配伍シ得ベシ之ヲ使用前振盪シ綿又ハ柔キ刷毛ニテ塗布スベシ。
假漆 Firmis モ之ニ類スルモノニシテ「コロジューム」或ハ「トラウマチ、ン」等アレドモ急性濕疹ニハ殆ド用ニ堪ヘズ。

膠劑

膠劑 Leime モ糊膏ノ一種ニシテ白膠一〇—一五、餾水四五—五〇、「グリセリン」二五ヲ基礎トシ之ニ亞鉛花二五—四〇ヲ加ヘバ所謂ウンナ氏亞鉛花膠 Zinkem ヲ得ベシ乾燥セル濕疹殊ニ下腿濕疹ニ適シ之ヲ塗布セバ彈力性假皮ヲ生ジ濕潤セル間ニ綿花ヲオケバ一層好ク空氣ヲ遮斷ス但シ用時之ヲ湯煎シテ溶解セザルベカラザル不便アリ此塗布藥ノ下ニ液體「イヒチオール」等「固體硫黃」、「クリサロビン」等ヲ塗布シ得ベク又膠劑中ニ是等ヲ混ジ得ベシ。
土肥氏考案ノ布苔糊膏、葛蕪糊膏竝ニ山田氏ノ米糊膏、井上氏ノ鹿角菜糊モ亦此類ナリ即チ。
布苔一枚、水一〇〇〇、右煮沸ノ上亞鉛花一〇〇、石炭酸一乃至二〇ヲ加ヘテ攪拌スベシ。

小水疱性濕疹ノ局處療法

泥膏ノ解説

葛蕪糊粉適宜 水一〇〇〇 亞鉛花一〇 石炭酸一—二〇
其他「カゼイン」軟膏 Cascinsalbe 「カザイン」、「グロッセリン」、「ゲランツム」 Gelan-thum 白膠及水ヨリ成ルモ糊膏ニ似タル塗布藥ニシテ軟膏トノ中間ニ位シ塗布スレバ速ニ乾燥シテ彈力性被膜ヲ造ル、多ク稱用セラレズ。
小水疱性濕疹ニハ泥膏或ハ亞鉛花油ヲ用キ、若シ、炎衝高度ナレバ其、上ヲ更ニ、硼酸水(二%)プロウ氏液ニテ、卷法スベシ、綿紗ニ藥液ヲ浸漬シ水ノ滴ヲ撒布藥ハ粉末ガ分泌物ト混ジテ痂皮ヲ造リ病勢ヲ増進セシムルコトアルヲ以テ避クベク糊膏モ水疱多數ナレバ不適當ナルハ既ニ述ベタリ。
泥膏(Pasta)即チ「バスタ」ハ油脂ト粉末トヲ煉和シタルモノニシテ其硬軟ノ度ハ相互ノ割合ニモヨレドモ一般ニ軟膏ヨリ清潔ニシテ質粗鬆ナレバ分泌物ヲ吸收シ之ヲ蒸發乾燥セシムルコト速ナルハミナラズ皮膚ヲ外界ヨリ遮斷シテ保護スルコト確實ナリ。
ラッサール氏泥膏 Lassarsche Pasta

- 「サリチル酸」 二一〇
- 「亞鉛花」 二四〇
- 「澱粉(又ハ滑石)」 二四〇
- 「ワゼリン」 五〇〇

ラッサール氏亞鉛花油 Zinkol Lassar

亞鉛花 四〇〇 阿列布油 六〇〇

ウキルソン氏膏(Ung. Wilsoni)

亞鉛花 五〇 安息香酸 一〇 豚脂 三〇〇

吾人ハラッサール氏泥膏或ハウキルソン氏膏ニツメノール、アンモニウム或ハ「チオノール」或ハ「チゲノール」ヲ混ジ病症ニ應ジテ適宜應用スルヲ常トス即「ツメノール、バスタ」

「ツメノール」一〇〇 ラッサール氏「バスタ」九〇〇

「チオノール」ウキルソン氏膏

「チオノール」一〇〇 ウキルソン氏膏 九〇〇

泥膏ノ用法ハ之ヲ薄ク皮膚ニ塗擦シ其上ニ十分多量ニ撒布藥亞鉛花澱粉ヲ施スヲ常トス然ラバ顔面ハ勿論其他ノ部位ニテモ繃帶ヲ省略シ得ベシ分泌多少存スル時ハ軟膏ノ如ク「リント」ニ展シテモ用フルヲ得。

軟膏基礎劑ノ解説

泥膏ノ用法

油脂ノ選擇ヲ誤レバ效ヲ一篋ニ缺クノ憾アラシク泥膏及ビ軟膏基礎劑トシテ適當ナルハ豚脂、刺納林、華攝林、單軟膏等ヲ普通トシ用途モ亦廣ク其他ニハ「ミチン」Min 「ワゼノール」Vascinol 「グリセリン軟膏 Ung. Glycerini」 「ラズルペン」Resorbin 「ワゾーゲン」Vasogen 「ナフタラン」Nafalan 「ナフフラン」Nafalan 「ザポラン」Sapolan 等アリ。

豚脂

豚脂 Adeps suillus ハ甚良好ノモノナレド分解ノ虞アレバ常ニ新鮮ナルモノヲ用キザレバ却テ害アリ故ニ之ヲ貯藏スルニハ安息香酸(二—四%)ヲ加ヘ安息香脂 Adeps benzoatus トナシ分解ヲ豫防スベシ。

華攝林

華攝林 Vaseline ハ礦物性脂ニシテ分解ノ虞ナク最良好ノ基礎劑ナレドモ本邦製及ビ獨逸製共ニ往々不純ニシテ皮膚ヲ刺戟スルコトアルヲ以テ吾人ハ專ラ黃色華攝林ヲ賞用ス米國製白色華攝林モ亦佳良ナリト云フ。

刺納林

刺納林 Lanolin ハ精製セル羊毛脂 Adeps lanae(Alapurin) 特製品(同)ナレドモ價割ハ三〇%刺納林ハニシテ水ヲ取り皮膚ニ清涼ノ感ヲ與ヘ皮膚ニ能ク粘著シテ無刺戟且ツ分解スルコトナケレバ良好ノ基礎劑ノ一ナリ土肥氏方ノ刺納林膏ハラ氏泥膏ノ華攝林ヲ刺納林ニ改メタルモノニシテ小兒顔

面ハ急性丘疹性濕疹ニ適ス。

水楊酸二〇 亞鉛花 澱粉 各二四〇 刺納林五〇〇

但シ刺納林ハ餘リ粘稠ニシテ塗擦シ難キ殊ニ冬期ヲ以テ軟キ油脂ヲ一

〇乃至一五%ニ加フルコトアリ刺納林ト華攝林トヲ一ト二トノ割合ニ

混ゼシヲ無水刺納林 Lanolin anhydricum ト云ヒ多量ノ液體ヲ含蓄スベシ。

「ナフタラン」「ナフタ」原料ヨリ及ビ「ナフフラン」
「ナフタラン」蒸餾シテ得タルモノ及ビ「ナフフラン」化學的ニ集
成セル藥品ハ無刺戟ニシテ消

炎ノ力アリ良好ナル基劑ノ一ナリ單獨ニモ濕疹ニ用キラル、事アリ「ナ

フタラン」ハ數年前使用シ大ニ用フベキヲ認メタレモ供給不十分ナリキ、

近時楠氏亦之ヲ賞用スト云フ「ミチン」Mitinモ亦腐敗セズ良好ナリト云フ。

泥膏軟膏ハ其原料ヲ精選スルノミナラズ精煉ニ注意セザルベカラズ粉

末ノ顆粒ガ油脂中ニ混在スルハ極メテ不可ナリ撒布藥ニテモ同様ニテ

粉末微細ナル程愈、刺戟少ク皮膚ニ能ク密著ス。

泥膏或ハ軟膏ヲ以テ處置セシ部位ハ之ヲ清潔ニシ分泌物ノ鬱滯ヲ防グヲ

要ス「ベンチン」Benzin ハ清拭料トシテ比較的刺戟少ク良好ト稱セラル、モ

吾人ハ寧、口純粹ナル「オリ」フ、油ト、脱脂綿トヲ以テ、丁寧ニ拭ヒ取ルヲ好ム

泥膏軟膏ノ除

塗布ノ回数

膿疱性結痂性
及ビ濕潤性濕
疹ノ局處療法

酒精ハ表皮剝脫アル時ハ疼痛ヲ覺ヘシメ不可ナリ而シテ清拭後ハ直ニ泥

膏或ハ軟膏ヲ塗布スルカ或ハ十分ニ撒布藥ヲ施シタル後塗布スベシ。

塗布ノ回数ハ一日一回乃至二三回位ヲ可トス一般ニハ少キニ失スルヨリ

モ頻回ナルヲ良シトセン殊ニ衣服等ニテ摩擦セラレ易キ部ニ於テ然リ。

膿疱性結痂性及ビ濕潤性濕疹ニアリテハ軟膏 Unguentum, Salbe ヲ可トス撒

布ハ殊ニ之ヲ避クベシ軟膏ハ確實ニ皮膚ヲ外界ヨリ遮斷シ之ヲ保護シ膿

疱ヲ去リ結痂ヲ軟化シ特ニ濕潤面ヲ保護シ表皮ノ形成ヲ促ス效力アリ。

ヘブラ氏軟膏

單鉛硬膏 阿列布油 各等分

硼酸軟膏

硼酸 五—一〇〇 單軟膏 一〇〇〇

複方ツメノール或ハ「チオノール」軟膏

「ツメノール」又ハ「チオノール」 一〇〇 次硝酸蒼鉛 五〇—一〇〇

亞鉛華 一〇〇—二〇〇 單軟膏 一〇〇〇

軟膏ノ用法ハ「リント」ニ厚ク小刀背程ノ厚サ展シ皮膚ニ密著スル様ニ勉メ

軟膏ノ用法

療法

然ル後尋常綿花ヲ置キ綿帶スベシ但シ分泌物多キ時ハ其鬱滯ヲ防グ爲泥膏ノ交換ト同一ノ方法ヲ以テ一日二三回交換スベシ。

ヘブラ氏軟膏中ノ阿列布油ハ腐敗シ易キガ故ニ之ニ華攝林ヲ代用スルコトアリ(カボシー氏)。

凡テ軟膏ノ原料ニハ單軟膏 Ung. simplex (黃蠟一〇、胡麻油二〇)ヲ良トス就中白蠟ヨリモ黃蠟ヲ加ヘタルモノヲ佳良ナリトス。

痂皮除去法

若シ結痂性濕疹ニ遭遇セバ第一ニ結痂ヲ除去シ其下ノ變化ヲ觀察シテ診斷ヲ確メ且ツ其病變ノ度ニ應ジテ適宜ノ方法ヲ施スベシ結痂ノ除去法ハ五%硼酸軟膏ヲ貼布スレバ痂皮軟化シ容易ニ除去シ得ベシト雖患部廣大ノ場合殊ニ小兒ノ全頭部ニ擴ガレル濕疹ヲ綿帶ヲ以テ被フ時ハ膿汁鬱滯シ殊ニ夏期ニハ危險ナシトセズ又廣大ナル部面ヨリ一時ニ痂皮ヲ除去スル時モ時ニ發熱ヲ來タスコトアレバ寧ロ一局部宛痂皮ヲ除キ數日ノ後全面ニ及ボスヲ安全ナリトス其他阿列布油又ハ椿油ヲ塗布シ或ハ硼酸水(二%)又ハ「カミツレ」煎ニテ蒸罨法藥液ヲ綿紗ニ浸シ皮膚ニ貼シ之ヲ包ムニ不透性ノヲ護謄紙又ハ桐油紙ヲ以テ水分ノ蒸發ヲ防グ方法ヲナスモ痂皮ヲ除クヲ得ベシ。

濕潤性濕疹ニ適當ノ冷罨法ヲ施スハ賞揚スベキ方法ナリ

濕潤性濕疹殊ニ小兒頭部ノモ、ハ、冷罨法ヲ施スハ往々奇效ヲ奏シ賞揚スベキ一法ナリ先ヅ阿列布油ヲ注ギ又ハ他ノ方痂皮ヲ除去シ次デ硼酸水又ハ鉛糖水等ヲ綿紗ノ小片夥多ニ浸シ固ク榨リテ藥液ガ殆ド出デザル位トシ綿紗濕潤ノ度ヲ過ゴシタルハ却テ不可疊マズニボロ／＼ニシテ皮膚上ニ置キ二時間位ニ之ヲ交換スレバ容易ニ乾燥セザリシ部位モ直ニ分泌ヲ止ムルコトアリ(岡村氏、著者)蓋シ消炎ト同時ニ漿液能ク綿紗ニ吸收セラレテ鬱滯セズ從テ皮膚ヲ刺戟セザルニ因ルナラン(笹川氏)。

鱗屑性濕疹ノ局處療法

鱗屑性濕疹即チ濕潤止ミ猶ホ炎衝充血ヲ存セバラッサール氏膏或ハウールソ_ン氏膏等ノ泥膏ヲ用ヒ充血愈減退セバ十分ニ且頻回ニ撒布藥ヲ施スベシ。小兒急性濕疹ニハ鱗屑期ト雖多ク爹兒劑ヲ要セズ若シ必要ナラバ土肥氏爹兒膏ヲ極メテ薄ク塗擦シタル上ヘ十分亞鉛華澱粉ヲ撒布スルニ止ムベシ。

爹兒膏

木爹兒 亞鉛華 硫黃華 各一〇〇 豚脂三〇〇

小兒ノ慢性濕疹ハ大人ニ於ケルヨリモ皮膚ノ浸潤少ク且充血セルヲ以テ

慢性濕疹ノ局處療法

多兒劑及其用法

先づ始メニハ一〇ツメハールバスタヲ塗布シ撒布藥ヲ施シ數日間經過ヲ觀察シ奏效著カラザレバ直ニ多兒療法ニ移ルベシ多兒ハ癢痒ヲ鎮靜シ浸潤肥厚ヲ去ルニ妙ニシテ慢性濕疹ノ治療藥トシテ他ニ代フベキモノナシ唯往々皮膚ヲ刺戟スルガ故ニ炎症狀猶ホ烈シキ時(新シキ小結節小水疱膿疱結痂等ノ存在)ハ使用ニ堪ヘズ炎症少キ時モ先づ緩和ナル多兒劑ヲ試ミ次第ニ強力ノモノニ移リ又初メニハ一局部ニ使用シ其成績如何ニヨリ適當ノ多兒劑ヲ全局面ニ應用スルヲ安全ナル良策トス。

最緩和良好ニシテ多少急性炎症殘存スルモ殆ド刺戟作用ヲ現ハサルハ前記ノ多兒軟膏ナレバ先づ之ヲ試用スベシ或ハ時トシテ多兒ノ酒精溶液(一〇乃至三〇%)ヲ塗布シ其上ニ更ニラ氏泥膏ノ類ヲ塗抹スルコトアリ。

浸潤肥厚稍高度ナレバ更ニ一層有力ナル左方即チ

ウキルキンソン氏膏

木多兒 硫黃華 各一〇〇 加里石鹼 豚脂 各二〇〇 白堊又ハ

滑石 五〇

ヲ塗布シ撒布ヲ施スベシ或ハ多兒丁幾即チ

多兒ノ解説

木多兒 依的兒 酒精 各等分

ヲ患部ニ塗布シ十分乃至三十分間溫湯ニ漬シタル後緩和ナル泥膏ヲ塗布スベシ多兒浴 Teerbad トハ是レナリ。

木多兒ハ往々皮膚ニハ毛囊炎ヲ發シ内部ニハ腎臟炎ヲ發スルコトアル故廣大ナル部面ニ外用スル時ハ尿ヲ檢シ蛋白尿アレバ之ヲ廢スベシ木多兒ハ樺 (Ol. Rusci) 或ハ杜松子 (Ol. Cedini) 或ハ山毛櫸 (Ol. Fagi) ヨリ製シ皆同一ノ效力アリ其惡臭及汚色ヲ去リシモノニ「アントラゾール」Antrasol 色無

ノ液狀「エムピロホルム」Empyrolform 無臭ノ粉アリ其效稍劣レドモ緩和ニシテ良好ナリ用法ハ略ボ普通ノ多兒ニ同ジ「ピッチーレン」Pitylen モ小兒濕疹

ニ用ヒ得ベシト雖效力著カラズ價モ貴シ(大越氏)近時「コールター」(Ol. Lithanthracis, Steinkohler) ヲ再ビ稱用スル人アリ(Dind 及億川氏等)稀釋セズシテ其儘塗布セバ黑色皮膜ヲ生ズル故繃帶ヲ要セズ唯時間ヲ節約セン

トスル時ハ塗布後直ニ繃帶ス又亞鉛華泥膏ニ之ヲ配伍シ得ハ皮膜ノ除去ニ用此石炭多兒ハ止痒ノ力木多兒ニ勝リ刺戟性少シト稱スレドモ濕潤輝裂結痂ナキ慢性濕疹ノ廣大ナラザル者ニノミ適シ急性症ニハ禁忌ナリ

限局セル慢性濕疹

ト云フ其黑色、臭氣及成分ノ不同ハ相待テ未ダ遠ク木爹兒ニ及バザルモノアリ「リアントラール」Lianthralハ精製セル石炭爹兒ナリ。

限局セル濕疹ノ治シ難キハ一〇%「サリチル酸」石鹼硬膏俗稱ビツ即チ。

單鉛硬膏 七〇〇 黃蠟 一〇〇 藥用石鹼末 五〇 樟腦 一〇

阿列布油 一〇〇 「サリチル酸」 一〇〇

ヲ貼布シ又生長セル小兒ニノミ發スル頑固ナル限局性慢性濕疹ニハ一〇%苛性加里溶液ヲ用キテ急性炎ヲ發セシメ其上ニヘブラ氏膏ヲ貼布シ或ハ「クリサロビン」又ハ焦性沒食子酸「トラウマチ、ン」Traumaticinヲ塗布スルコトアリ更ニ頑固ナルニハ「クロマイエル」Kromayer 氏石英燈 Quarzlampe 或ハ「レントゲン」Röntgen線照射ヲ用フ。

硬膏ノ解説

硬膏 Plaster ハ熱スルコトナク能ク粘著シ長ク其力ヲ失ハズ藥品ヲ加フルモ粘著力ヲ存シ且ツ刺戟少キヲ良トス硬膏ハ或ハ粗鬆ノ布片ニ延展シ或ハ不透性布片ニ延展ス後者ハ急性期ニ適セズト雖深達作用アリ「グッタベルカ」硬膏 Guttaperchasternull 及ビ「パラブラスト」硬膏 Paraplast (ウンナ氏)モ後者ニ屬ス「パラブラスト」ハ耐久性アリテ刺戟ナク背面肉色ナルヲ

脂漏性濕疹ノ局處療法

稱スベシ共ニ「サリチル酸」(一〇乃至五〇%)或ハ亞鉛華(一〇%)ヲ含マシメ得ベシ
「トラウマチ、ン」Traumaticin ハ假漆ノ一種ニシテ。
「グッタベルカ」 一〇〇 「クロ、ホルム」 九〇〇
此中ニ「クリサロビン」(五—一〇%)或ハ焦性沒食子酸(五—一〇%)ヲ加ヘテ用フ。

脂漏性濕疹ニ對シテハ幼兒ハ兎ニ角稍、成長セル小兒ナレバ毛髮ヲ短剪シ阿列布油又ハ椿油ヲ塗布シ「丁寧」ニ鱗屑ヲ軟化除去スベシ若シ頭皮ニ炎症ナケレバ脱脂綿ニ左液即チ。

「レゾルチン」 三—五〇 「グリセリン」 五〇 「アルコール」 一〇〇〇(或ハ「アルコール」及水 各五〇〇)

ヲ浸シテ清拭スベク炎症アレバ一〇%硫黃豚脂又ハ一〇%硫黃軟膏或ハ(硫黃華、亞鉛華各五〇—一〇〇) 華攝林一〇〇〇等稱用セラレドモ吾人ハ寧ロ一〇%「チオハール」(或ハ「ツメ、ハール」)「ウイ、ルソン」膏ガ多クハ場合ニ適切ナルヲ感ズルナリ、脂漏性濕疹ノ濕潤セルモノニハ濕布器法適當スル

コトハ既ニ述ベタリ。脂漏性濕疹ノ顔面毳毛部ニ擴ガリシモノハ通例ノ急性濕疹ノ療法ト異ル所ナシ。

間擦性濕疹ノ豫防法

間擦性濕疹ノ豫防法トシテ常ニ分泌物排泄物ヲ清除シ殊ニ放尿、排便後ノ清潔ヲ怠ラザル様ニス但シ其際餘リ強ク摩擦シ或ハ刺激性殊ニ亞爾加里性石鹼ヲ用フルヲ禁ズ清拭後ハ十分ニ亞鉛華澱粉或ハ左藥ヲ撒布シ。

亞鉛華 澱粉 滑石 各三〇〇 炭酸「マグネシヤ」 一〇〇

間擦性濕疹ノ療法

清潔ニシテ乾燥セル襠褌ヲ纏ハシム襠褌ハ粗ニシテ柔軟ナル布ヲ可トス既ニ間擦性濕疹ヲ發スルモ其輕度ナルハ上記豫防法ニヨリ消散スベシ撒布藥ニハ「タンノホルム」Tannoforn (110%)「キセロホルム」Xeroform (100%)等ヲ混ズルヲ得若シ之等ノ方法ニテ治セザレバ毎日二三回阿列布油ニテ清拭シラッサル氏泥膏「ツメノール」泥膏等ヲ塗布シ其上ニ撒布シ置クベシ永松氏ハ一〇%「オイグホルム」亞鉛華泥膏ヲ賞用ス入浴ハ過度毎日入浴スナラズ又浴後ノ處置即チ水分ヲ去リ十分ニ亞鉛華澱粉ノ類ヲ撒布スルコト適當ナレバ必シモ不可ナラズト雖、通常ノ溫浴ヨリモ糠浴「カミツレ」浴「リゾール」浴ヲ適當ナリトス或ハ水ノ刺

頭部濕疹ノ局處療法

軟ヲ避クル爲メ患部ニ泥膏ノ類ヲ塗布シタル後沐浴セシムルコトアリ。濕疹ハ其部位ニヨリ多少療法ニ異同アルヲ以テ重複ヲ厭ハズ簡單ニ更ニ之ヲ再說スベシ。

頭部濕疹ハ成ルベク毛髮ヲ短剪シ痂皮アラバ阿列布油ヲ注ギ場合ニヨリ蒸罨法ヲナシ或ハ注意シテ硼酸軟膏ヲ塗布シテ痂皮ヲ去リ痂皮ノ下、濕潤スルカ膿疱、小水泡アレバ五%硼酸軟膏、一〇%「ツメノール」軟膏或ハ「サリチル」酸軟膏「サリチル」酸一〇%安息香酸丁「リント」ニ展シテ貼布スルカハ「アラ」氏膏或ハ「セリ」酸二〇%黃色「セリ」酸四七〇ハ冷罨法ヲナシ乾燥セバ一〇%「チオノール」ニ展シテ貼布スルカハ適當セズ

メノール「ラッサル」氏泥膏ヲ塗擦シテ可ナリ充血、丘疹アリ濕潤著カラザル時モ右泥膏ノ類ヲ用フベシ若シ脂漏性濕疹ナレバ初期ニ三乃至五%「レゾ」ルチン酒精ヲ用ヒ後チニハ一〇%硫黃軟膏或ハ一〇%「チオノール」ニ展シテ貼布スルカハ適當セズ

ン氏膏等ヲ適用スベシ又濕疹ガ頭虱ハ爲ニ發セバ豫メ石油又ハ三百倍昇汞醋ヲ以テ之ヲ殺滅スベシ。顔面濕疹ニシテ紅斑性及ビ丘疹性ナレバ刺納林膏或ハ黃色「ラッサル」氏泥膏ヲ薄ク塗擦シ十分ニ撒布藥ヲ施スベク脂漏性濕疹ニテモ亦然リ結痂、濕

顔面濕疹ノ局處療法

潤及ビ膿疱性ナレバ硼酸軟膏ツメノール軟膏等ヲ厚ク「リント」ニ展シ貼布シ部面擴大ナレバ假面ヲ著セシムベシ假面ハ「リント」或ハ綿紗ニテ適宜ニ眼、鼻、口ニ相當スル部ニ孔ヲ剪取レバ可ナリ。
 鼻及ビ耳ノ濕疹ニハ捲綿子ニテ泥膏又ハ軟膏ヲ塗布シ或ハ脫脂綿ヲ棒狀ニ丸メ之ニ塗脂ヲ挿入スベシ、通例痲皮ヲ除去シ一%硝酸銀水ヲ塗布シタル後白降汞軟膏(白降汞一〇、華攝林、刺納林各五〇)ヲ塗布ス、口唇ノ濕疹ニハウイールソン氏膏等ヲ屢塗布シテ泥膏ノ剝脫シ易キ弊ヲ補フベク、輝裂アラバ豫メ一%硝酸銀水ヲ塗布シタル後塗脂スベシ、眼、險ニハ一乃至二%白降汞或ハ黃降汞華攝林ヲ用フ。
 其他ノ諸部ノ濕疹ニ就キテハ適宜ニ取捨スベク特説スル要ナカラシ。

濕疹ノ後療法 Nachbehandlung

急性及ビ慢性濕疹ニ於テ皮膚ノ充血及ビ浸潤消散シ僅ニ落屑スル時ハ殆ド治期ニ達セシモノナレドモ日常生活ニ復スルニハ徐々ニ且ツ注意スルヲ要ス殊ニ多少搔痒ノ殘存スル時ハ搔破ニヨリ急ニ再發シ來ル

日常ノ生活狀
 態ニ復スルニ
 ハ必ズ徐々ナ
 ルハベシ

濕疹ト水

コトアル故能ク亞鉛華澱粉ノ撒布ヲ行ヒ摩擦、搔破等ノ刺戟ヲ避ケ殊ニ湯浴ニ注意シ初メニハ糠浴或ハ「リゾール」浴ヨリ始メ浴後ハ柔軟ナル手拭ニテ摩擦スルコトナク水分ヲ拭ヒ取り亞鉛華澱粉ヲ撒布スルカウイールソン氏膏ノ如キ無刺戟ノモノヲ極メテ薄ク塗布シ置キ徐々ニ通常ノ溫浴ニ移ルベシ石鹼モ始メニハ全ク之ヲ禁ズベシ。

本邦ノ俗トシテ皮膚病アレバ好デ溫泉等ニ浴シ醫師モ亦往々皮膚ノ清潔消毒ヲ欲シテ患部ヲ藥液等ニテ洗滌スルコトアリ然レドモ之等ハ濕疹ニ對スル正當ノ處置ニ非ズヘブラ氏ハ水殊ニ沐浴ヲ以テ禁忌トセルガ故ニ徒ニ患部ヲ洗滌シ之ヲ刺戟スルハ固ヨリ宜シカラズ然レドモ使用法ノ如何ニヨリテハ湯浴必シモ不可ナラズシテ却テ往々治機ヲ促進スルコトアルハ諸家ノ說(Tassar, Dühring)ニ徴シテ明ナリ即チ病的滲出物、落屑、痲皮竝ニ固著セル藥品ハ自ラ洗去ラル、ヲ以テ新鮮ナル藥品ヲ塗布シ得ベク殊ニ湯浴ハ快感ヲ與ヘ神經ヲ鎮靜セシメ睡眠ヲ促スノミナラズ浸潤セル上皮ヲ剝離シ藥品ノ吸收ヲ促スノ效アリト云フ。
 小兒濕疹ノ如キ難治ノモノニ長ク沐浴ヲ禁ズルハ邦人ハ常習ニ反シ殆

糠浴加密見列

浴「リソール」
浴等ハ適當ニ
用キバ必シモ
禁忌ニアラズ

慢性濕疹ト湯
浴

六〇
ド、堪へ難シ、一方ニハ、又、癢、痒、アリテ、安眠ヲ得ザルモノハ、浴治法ヲ適當ニ施スハ、不合理ニアラズト信ズルナリ經驗上ニモ亦效アルヲ見ル但シ通常ノ溫浴及ビ石鹼ノ使用ヲ避ケ糠浴「カミツレ」浴「リゾール」浴ヲ用フ「カミツレ」浴「加密列花」一浴五〇〇〇ハ無害且ツ無菌ニシテ多少殺菌力アリ糠浴「一乃至五」ボンドハ小兒ノ柔軟ナル皮膚ニモ緩和ニ作用シ無刺戟且ツ無害ナリ「リゾール」浴「一乃至二」ハ止痒ノ效アリ注意スベキハ浴後ニ皮膚ヲ乾燥セシメ多量ニ撒布藥ヲ施シ直ニ適當ノ糊膏泥膏等適宜ニ應用セザレバ湯浴却テ甚ダ有害ナルコト是レナリ湯浴ノ回数及ビ持續ハ其效果ノ如何ト患者ノ感覺トニヨルベシ(著者)
斯ク急性症サヘモ藥浴ヲ行ヒ得ベケレバ況ンヤ慢性症ハ同一ノ注意ノ下ニ爹兒浴「硫黃浴」湯「花」一浴ニ五十乃至百匁又ハ溫泉浴ヲ行ヒ得ベシ溫泉地ヘノ轉地ハ氣候療法トシテ毎年一定時期ニ反復發生スル濕疹ノ豫防及ビ後療法トモナルベシ唯「硫黃浴」ハ或ハ非常ニ奏效シ或ハ却テ有害ナルコトアルニ注意スベシ

濕疹

六〇

第三章 膿疱疹及ビ深膿疱附癰腫症

及ビ水瘡、膿疱疹(膿痂疹) Impetigo.

膿疱疹ハ葡萄狀球菌又ハ連鎖狀球菌ノ表皮上層或ハ毛囊ニ侵入スルニ因テ發スル紅斑、小結節或ハ水疱ニシテ之等ハ直ニ膿疱ニ變ジ次第破綻スルカ或ハ自ラ内容乾固シテ白色乃至黃褐色ノ痂皮ヲ形成ス此皮膚ハ孤立スルヲ特徴トシ互ニ相距ツルニ健康皮膚ヲ以テス從テ疹ノ境界明確ナリ炎症狀殊ニ皮膚周圍ノ潮紅紅暈ハ種類ニヨリ強弱一樣ナラザレドモ癢痒ハ一般ニ缺如スルカ或ハ輕微ニ止ル

膿疱疹ノ原因及種類ニ就テハ諸説岐ルレ本邦ニ於ケル土肥、栗田二氏ノ研究最モ精確ナルガ如シ吾人ハ今其報道ニ據リ左ノ類別ヲナサント欲ス。

一、フオックス氏傳染性膿疱疹……原因||白色葡萄狀球菌

一、尋常性膿疱疹……原因||連鎖狀球菌又稀ニハ黃色葡萄狀球菌ノ混合

三、ボック氏單純性膿疱疹又ウツン氏葡萄狀球菌性膿疱疹：原因||黃色葡萄狀球菌
I. simplex (Bockhart) s. I. staphylogenes Unna

膿疱疹(膿痂疹)

六一

傳染性膿疱疹ハ細菌ノ表皮ノ上層ニ侵入ニヨリテ發シ單純性膿疱疹ハ毛囊ニ侵入シテ發ス若シ細菌真皮内ニ入レバ之ヲ特ニ深膿疱 Ecthyma ト云フ。

フックス氏傳染性膿疱疹

本症ハ其原因菌ヨリ言ヘバ白色葡萄球菌性膿疱疹 I. albestaphylogenes (Dohi) ニシテ殆ド専ラ小兒ヲ侵ス顔面手足等ノ裸露部ノ皮膚ニ突然水泡ヲ發シ或ハ豫メ紅斑ヲ生ジ其上ニ水泡ヲ發スルコトアリ水泡ハ單疱性ニシテ

紅斑或ハ水泡ニ始ル
水泡ノ時期割合ニ長クシテ徐々ニ膿疱トナル

二 傳染性膿疱疹



帽針頭大乃至鶏卵大ニ達シ被膜菲薄ニシテ内容漿液性ナレバ容易ニ疱底ヲ透見シ得レドモ其増大ニ從ヒ水泡ノ下垂部白色膿様ヲ呈シ遂ニ全ク膿疱ニ變ズルコトアリ此水泡或ハ膿疱

痂皮ノ色淡シ
紅暈少シ

輪狀膿疱疹ハ傳染性膿疱疹ノ一種ナリ

始ヨリ膿疱ナルカ又ハ水泡ナルモ其時期甚短シ

ハ破綻スルカ又ハ内容乾固シテ必ズ痂皮ヲ生ズレドモ痂皮薄クシテ白色乃至藁黃色ニ止ル紅暈ハ少キカ或ハ缺如ス數日ニシテ痂皮脱落シ赤褐色次デ黃褐色ノ色素ヲ沈著シ遂ニハ癍痕ヲ止ムルコトナク完全ニ治愈スレドモ治法ヲ誤レバ諸所ニ傳染シ經過久キニ瀰ル。
水泡及ビ膿疱ハ附近ノモノト相融合シ或ハ原疱ノ周圍ニ水泡環ヲ造リ環狀迂回狀乃至地圖狀ヲ描クコトアリ之ヲ輪狀膿疱疹 I. circinata ト云ヒ邊緣ニノミ水泡及ビ薄痂アリ中央ハ全ク常態ニ復セルカ又ハ色素沈著ヲ止ム此種ノモノハ西人ノ説クガ如ク必シモ大人ニハミ見ル形狀ニアラズシテ小兒ニ於テ却テ數之ヲ見ルヲ得ベシ。

尋常性膿疱疹

其原因ヨリセバ連鎖球菌性膿疱疹 I. streptogenes (Dohi) ト謂フベク症狀モ亦前者ト異レリ即チ顔面等ノ裸露部ニ始ヨリ膿疱トシテ發生シ或ハ豫メ紅疹ヨリ小水泡トナリ忽チ膿疱ニ變ズルコトアリ膿疱ハ破綻シテ蠟黃色ノ厚痂ヲ結ビ其下ニ發赤濕潤セル糜爛面ヲ存スベシ結痂ノ後猶ホ滲出止

フックス氏傳染性膿疱疹 尋常性膿疱疹

黄色ノ痂皮厚

紅暈稍強シ

經過長シ

著色濃シ

フオ氏傳染性膿疱疹及尋常性膿疱疹ノ區別

尋常性膿疱疹



胎シ其色割合ニ濃厚ニシテ消褪シ難キモ遂ニハ其痕跡殊ニ癢痕ヲ殘サズシテ完全ニ治癒ス

斯ノ如クフオ氏傳染性膿疱疹及ビ尋常性膿疱疹ハ原因ヲ異ニシ症候ヲ異ニスルハ左ノ對照表(土肥、栗田氏)ニヨリ一層明ニ認ムルヲ得ベシ但シ此二種ハ膿疱疹ガ相伴ヒテ往々同一人ニ發スルコトアリ。

○傳染性膿疱疹(フオクス氏)

一水疱澄明ニシテ終ニ膿様ニ濁濁ス

○尋常性膿疱疹

多クハ小紅疹ヲ以テ始リ中心ニ小

全身及自覺症

ルコトアルモ上部ハ多クハ尙ホ澄明ナリ且ツ水疱時トシテ鶏卵大以上ニ及ブ

二痂皮ハ痂膜ヨリ成リ汚穢白色或ハ暗褐色稀ニハ淡黄色薬色ヲ呈スルモ常ニ菲薄ナリ

三痂皮ノ大サ水疱ノ外圍ニ一致ス

四紅暈缺如シ或ハ微カナリ

五各水疱ノ經過四五日ヲ出デズ

六往々夏季ニ於テ廣ク流行ス

七最モ小兒ニ多シ

八水疱中必ズ白色葡萄狀化膿球菌ヲ發見ス

全身症狀殊ニ熱ハ二種ノモノ共ニ之ヲ缺キ自覺症狀ハ時ニ輕微ノ癢痒又ハ灼熱アリ表皮剝脫セバ知覺過敏アルニ過ギズ。

水疱ヲ生ズルモ速ニ膿疱ニ變ジ易シ

痂皮厚ク疊層シ常ニ濃厚ナル黄色(黄蠟色)ヲ呈ス

痂皮疹形ヲ超ヘテ漸ク増大ス

紅暈多クハ著シク炎症ノ微アリ

其經過較長クシテ一二週ニ及ブヲ常トス

時期ニ關スル事ナク四季常ニ存ス

小兒大人兩ナガラ多シ

連鎖狀化膿球菌ヲ發見ス

膿疱疹ノ流行

部位ハ顔面ニ最モ多ク頭部、耳、頸項、手足、前膊、下腿等ノ裸露部順次之ニ次ギ
 其他上膊、大腿、軀幹ニモ及ブコトアリ。
 興味アルハ傳染性膿疱疹ノ流行ニシテ十九世紀ノ初葉ニ初メテ流行シ
 當時種痘ト關係アリトシ其後ノ流行ニテモ種痘ノ度ニ來レルモノナリ
 キ然レドモ夙ニフリーゼ Fries 氏(1801)ノ道破セル如ク種痘ト原因の關
 係ナク接種セザル兒童モ膿疱疹ヲ發シ又其流行モ種痘後數週月ノ後
 ニ行ハレタリキ本邦ニ於テハ每年夏季ニハ多少流行シ小兒皮膚病中主
 要ナルモノ、一ナリ但シ秋冷ノ候ニ減少シ冬期ニハ稀ニ散發スルノミ
 吾人ハ明治四十三年夏期ニ宮城縣下黒川郡粕川村ナル山間ノ一村落ニ
 本症ノ流行ヲ見タリ當時六七月ニ一二人ノ膿疱疹患者アルニ過ギザリ
 シガ八月ニ至リ洪水アリテ其一部落全戸數七十五戸、人口五百〇一口ハ
 悉ク牀上迄モ浸水ヲ被リ相集リテ避難セシヨリ病毒傳播ノ機會ヲ得テ
 兒童ノ過半ハ之ニ侵サレ六十五名ノ患者ヲ出スニ至レリ左ニ前助手境
 田等氏ト共ニ調査セル實驗例ヲ摘録スベシ。

姓名	性別	年齢	診断	部位	自覚症	家族關係
一 赤間 ツル	女	四	ホ氏傳染性膿疱疹	下腿前面	ナ	同胞
二 赤間 榮	男	八	前	同前	ナ	同胞
三 高橋 樹水	男	一〇	前	大腿内面	痒	同胞
四 高橋 ハルヨ	女	四	前	顔面手背	シ	同胞
五 高橋 スエヨ	女	八	前	頭、顔、下腿	シ	同胞
六 鎌田 タミ	女	八	前	背部	シ	同胞
七 鎌田 クニエ	女	四	前	顔、指	シ	同胞
八 高橋 リウ	女	九	前	顔、頭	シ	同胞
九 同 エン	女	五	前	顔、頭	シ	同胞
一〇 高橋 靜樹	男	四	前	顔	シ	同胞
一一 同 博	男	六	前	下腿	シ	同胞
一二 高橋 サツキ	女	五	前	頭、耳、大腿、下腿、軀幹	シ	同胞
一三 同 茂	男	二	前	頭	シ	同胞
一四 同 虎雄	男	一三	前	手、下腿	シ	同胞
一五 深沼 キミノ	女	一七	前	顔	シ	同胞
一六 同 德三郎	男	四	前	顔	シ	同胞

尋常性膿疱疹

一七	鈴木チヨノ	女	三二	ホ氏傳染性膿疱疹兼尋常性膿疱疹	顔	ナ	シ	同胞
一八	同 權之助	男	九	同	耳	ナ	シ	同胞
一九	同 チヨミ	女	六	同	頭	ナ	シ	同胞
二〇	高橋作右工門	男	八	ホ氏傳染性膿疱疹	頭、下腿	ナ	痒	同胞
二一	同 サダヨ	女	八	同	顔、頭、股	ナ	シ	同胞
二二	同 ツルヨ	女	三	同	顔、頭	ナ	シ	同胞
二三	櫻井 イト	女	一	同	顔	ナ	シ	同胞
二四	櫻井 イシ	女	四	同	頭、顔、下腿、臀部	ナ	痒	同胞
二五	同 テン	女	四	同前兼尋常性膿疱疹	顔	ナ	シ	同胞
二六	高橋ミヨノ	女	二四	同	顔、乳房	ナ	シ	同胞
二七	同 辰雄	男	二	ホ氏傳染性膿疱疹	顔、頭	ナ	シ	同胞
二八	遠藤 シダ	女	五	同	顔	ナ	シ	同胞
二九	同 操	男	三	同	顔	ナ	シ	同胞
三〇	文屋 長節	男	五	同	顔、頭	ナ	シ	同胞
三一	同 トモヨ	女	二	尋常性膿疱疹	下腿	ナ	シ	同胞
三二	高橋多兵衛	男	五二	尋常性膿疱疹	顔	ナ	シ	同胞
三三	同 ミシノ	女	四	ホ氏傳染性膿疱疹	顔	ナ	シ	同胞

三四	兒玉 文吉	男	一二	同	顔	痒	同胞	
三五	同 藤吉	男	八	同	顔	痒	同胞	
三六	高橋 貢	男	一三	同	顔、下腿	ナ	痒	同胞
三七	同 丑五郎	男	一〇	同	顔、膝	ナ	シ	同胞
三八	同 惣十郎	男	八	同	顔、下腿、足	ナ	シ	同胞
三九	大友 運藏	男	三	同	顔、下腿	ナ	シ	同胞
四〇	同 アキ	女	六	同	下腿	ナ	シ	同胞
四一	高橋 文藏	男	七	同	顔、頭	ナ	シ	同胞
四二	櫻井 トヲ	女	九	同	同前	ナ	シ	同胞
四三	同 西藏	男	二	同	頭	痒	同胞	
四四	同 厚	男	四	同	顔	ナ	シ	同胞
四五	高橋 春吉	男	一	同	顔	ナ	シ	同胞
四六	佐藤 辰治	男	五	同	頭、手、足	ナ	シ	同胞
四七	高橋 德藏	男	五	同	顔	ナ	シ	同胞
四八	伊藤仁右工門	男	一六	同	顔	ナ	シ	同胞
四九	鈴木 トセ	女	五	同	頭	ナ	シ	同胞
五〇	高橋 トヲヨ	女	九	同	顔、頭、下腿、臀部	ナ	シ	同胞

五一	石森ヨシエ	女	五	ホ氏傳染性膿疹疱	腰、背	ナ	シ
五二	伊藤タカ	女	三	同	顔	始メニ痒痒	シ
五三	熊谷ハキ	女	一七	同	顔	ナ	シ
五四	同 善作	男	三	同	顔、下腿	ナ	シ
五五	佐野不二男	男	二	同	顔	ナ	シ
五六	安海文雄	男	二	同	顔、頭	ナ	シ
五七	鈴木慶治	男	二	同	顔	ナ	シ
五八	高橋チヨセ	女	二	同	顔、肩、股、下腿	ナ	シ
五九	鈴木軍七	男	八	同	顔、頭、下腿、手	痒	シ
六〇	小野チカノ	女	一三	同	顔	ナ	シ
六一	小島ヨシエ	女	八	同	顔、頭	ナ	シ
六二	熊谷キクエ	女	八	同	顔、下腿	ナ	シ
六三	鈴木權之助	男	六	同	顔	痒	シ

計 六十三名(男三三 女三二)

傳染力

種痘トノ關係ハ此流行ニ於テモ亦全ク之ヲ證明シ得ザリキ。傳染力ハ割合ニ強大ニシテ觸接ニヨリテ傳染ス殊ニ臥牀衣服、襦衣ヲ共ニ

豫後

セバ一層容易ナルヲ以テ一家族内ニ多數ノ患者ヲ出スコトハフオックス、Fox氏以來其實例ニ乏シカラズ吾人ノ經驗セル流行ニ於テモ明ニ之ヲ認ムルヲ得ベシ。尋常性膿疹ハ好テ小兒ヲ侵セドモ亦大人ヲモ侵シ十六歳以上ノ患者ハ總數ノ三分ノ一(土肥氏)以上約二分ノ一(著者)十五歳以下一百四人ニ對シ十六歳以上四十八人ヲ占ム。

豫後 佳良ナルモ時ニ淋巴腺炎、淋巴管炎ヲ發シ稀ニハ腎臟炎ヲ發ス(井尻氏)ルコトアリト云フ。診斷及鑑別。

水痘

水痘 Varicella ハ小兒ニ發シ傳染性ヲ有シ經過速ニシテ水疱ヲ發スルヲ以テフオ氏傳染性膿疹ニ酷似スレドモ熱及全身症狀アリ紅暈著明ニシテ痂皮黒褐色ヲ呈シ中央陥没シテ後ニ小癩痕ヲ止メ水疱概テ小ニシテ内ニ細菌ヲ存セズ從テ自家傳染セズ軀幹ノ皮膚ニ散在性ニ汎發スルヲ異レリトス。

初生兒天疱瘡
ハフオ氏傳染

初生兒天疱瘡 Pemphigus neonatorum トフオ氏傳染性膿疹トノ鑑別ハ不可能

ナリ。
初生兒天疱瘡ハ初生兒ノミナラズ四歳乃至六歳ノ小兒ニモ發生(Esche-
rich)スル急性ノ傳染性皮膚病ニシテ臨牀上傳染性膿疱疹ト全ク同一ノ
水疱ヲ生ジ通例無熱ニ經過ス若シ之ヲ大人ニ傳染セシメバ大人ニテハ
傳染性膿疱疹トナリ(Hutchinson, Weyl)大人ノ膿疱疹ヲ小兒ニ移セバ初生
兒天疱瘡ヲ發スベク此二病ノ水疱中ニ於テハ同一ノ葡萄狀球菌ヲ發見
(Strehli, Almquist)スルニ至リテハ到底二症ヲ各別種ノ疾病トシテ區別シ難
カルベシ故ニ縱令短時日ニ全身ニ多數ノ水疱ヲ生ジ其部位モ不定(主ニ
軀幹ナレドモ顔、頭、鼠蹊、四肢ニモ發ス)ナルコト稍、膿疱疹ト趣ヲ異ニスル
ニモセヨ土肥 Taitlen, Matzenauer, Keibich 氏ト同ジク吾人モ亦初生兒急性
天疱瘡ハ即チ傳染性膿疱疹ニ外ナラザルヲ信ズルナリ。
此他所謂初生兒天疱瘡中ニハ其母ノ產褥熱等ニ罹レルモノアリ之等ハ
敗血性水疱熱 Febris bullosa septica ニシテ既ニ胎内ニテ化膿菌ノ傳染ヲ受
ケタルモノナラン。

天疱瘡 Pemphigus ハ經過緩慢部位不定ニシテ水疱中ニ細菌ナク觸接傳染セ

ズ全身症狀重ク大人ヲ侵スコト多キニヨリ傳染性膿疱疹ト別ツベシ。
微毒性天疱瘡 Pemphigus syphiliticus モ小兒ニ來ルコト多キモ膿疱トシテ始リ
其周圍及ビ基底ノ浸潤著ク其色暗赤色ヲ呈シ疱壁厚ク且ツ患兒ノ榮養大
抵ハ甚シク害サレ他ニ微毒ノ微候アルベシ。
膿疱性濕疹ハ尋常性膿疱疹ニ酷似スルモ搔痒甚シク膿疱孤立セズシテ一
般ニ潮紅セル皮膚面上ニ位シ從テ境界散漫ナルニヨリ區別スベシ。
療法。

患兒ヲ隔離スルカ或ハ必ズ繻帶等ニテ纏包シテ自他ヘノ傳染ヲ豫防シ膿
汁ニ汚損セル衣帽ハ消毒スベシ患部ニ對シテハ一〇%硼酸軟膏ヲ厚ク「リ
ント」ニ伸シ貼布スレバ足レリ但シ分泌多クレバ一日二三回之ヲ交換シ膿
ノ蓄積ヲ避クルヲ要ス患部ノ洗滌ハ却テ不可ナリ。

單純性膿疱疹又ボックハルト氏 I. Bockhart.
膿疱疹

始メボックハルト氏 Bockhart ガ黄色及白色葡萄狀球菌ヲ皮膚ニ塗擦シテ本

症ヲ發セシメ得タリ大人モ小兒モ共ニ侵サル初メ帽針頭大乃至扁豆大ノ
 炎衝性、赤色小結節ナレドモ直ニ其頂點膿疱ニ變ジ中央ニハ毛幹アリテ紅
 暈之ヲ繞ル數日後乾涸シテ黃褐色ノ痂皮ヲ造リ其剝脫スルヤ一時色素沈
 著ヲ貽スモ癩痕ヲ結バス。通例皮疹ハ孤立スルモ時トシテ群簇シ或ハ相互
 融合シテ一大痂皮ニ被ル、コトアルモ其境界明確ニシテ健康ナル皮膚ノ
 上ニ位ス。

部位

部位ハ身體何處ニモ發生スレドモ殊ニ四肢、就中伸側ニ多ク又顔面、頭部ニ
 モ來ル。搔痒性皮膚病(頭虱、濕疹、疥癬、痒疹等)アリテ搔破シ上皮ヲ損傷スルカ
 或ハ上皮ガ濕布褌法等ノ爲ニ浸淫膨脹シテ損傷スルカ或ハ上皮ニ損傷ナ
 キモ不潔ナル寢具、襦袢等ヲ介シ脂腺、汗腺ヲ經テ細菌侵入セバ之ヲ發スベ
 シ。

診斷

診斷及鑑別 小結節ヨリ直ニ小膿疱ヲ發スル故凡テ水疱(内容透明ナル)ヲ
 發生スル皮膚病(帶狀疱疹、天疱瘡、傳染性膿疱疹)トハ容易ニ區別シ得ベシ濕
 疹ノ膿疱ハ炎衝性皮膚ノ上ニアリテ群集シ健康ナル皮膚面ニ孤立セズ各
 膿疱ノ形モ小ナリ微毒性膿疱疹 Impetigo syphilitica ハ膿疱ノ周圍暗赤色ニシ

療法

テ其大サ不同ナリ。
 療法 勉メテ原因ヲ去リ散在セルモノニハ一〇%サリチル酸石鹼硬膏ヲ
 貼布シ群集セルモノニハ一〇%硼酸軟膏ヲ厚ク展シテ貼布スベシ。

深膿疱 Ekthyma

原因ハ殆ド膿疱疹ト同一ナレドモ臨牀上ニハ膿疱大ニシテ基底ノ浸潤深
 ク治癒後著色アル癩痕ヲ止ムルヲ異レリトス深膿疱ニ二種アリ。

一尋常性深膿疱 Ekthyma vulgare

初期ニ膿疱疹ヨリモ著明ニ炎衝症狀ヲ示シ先ヅ豌豆大乃至爪甲大ノ限局
 性硬靱ノ赤色結節ヲ生ジ次デ水疱ヲ生ズレドモ内容直ニ溷濁シテ膿疱ト
 ナリ中央陷沒シ乾固シテ痂皮ヲ成ス往々更ニ周圍ニ浸潤及ビ膿疱ヲ生ジ
 漸次増大シテ二錢銅貨大トナルコトアリ炎衝去レバ潮紅散シ痂皮剝脫シ
 著色竝ニ癩痕ヲ止ム本症ハ下腿ニ好發シ時ニ尋常性膿疱疹ヲ合併スベシ。
 二壞疽性深膿疱(小兒穿孔性深膿疱)又ハ多發性惡液性皮膚壞疽 Ekthyma gan-
 grinosum (Ekthyma terebrans infantum), Multiple kachektische Hautgangrän(O. Simon)

症候

症候

膿疱ト云フヨリモ寧ロ一種特異ノ潰瘍ト謂フベシ殆ド常ニ一、二歳ノ惡液質ノ小兒ヲ侵シ淡紅或ハ汚穢紅色ノ結節ニ始マリ其上ニ水疱膿疱ヲ生ズルカ或ハ之ヲ來スコトナク直ニ潰瘍ヲ生ズ潰瘍ハ圓形ニシテ邊縁峻峭恰モ鑿ヲ以テ穿テルガ如シ基底ハ出血性、壞疽性ノ苦ヲ被リ周圍ニ紅暈ヲ繞ラス初期ヨリ甚シキ組織崩壞ハ更ニ周圍及ビ深部ニ及ボシ大ナル潰瘍ヲ作ルコトアリ。

第 四 圖 壞 疽 性 深 膿 疱



本症ハ榮養不良、重症ノ疾病(結核、微毒、室扶斯、麻刺利亞及ビ腸炎等)ノ爲、惡液質トナレル小兒ニ發スル故豫後モ亦原病ニヨル部位ハ尿、大便ニ汚染シテ細菌侵入シテ發スルモノナレバ肛圍、陰部、下腹部稀ニ頭部等ナリ。

原因

原因ハ尋常性深膿疱ハ明ニ化膿菌ニヨリテ發シ壞疽性深膿疱ハ連鎖狀球菌(Baudouin u. Wickham)又ハ綠膿桿菌(Hirschmann u. Kreibich)ノ外部ヨリ皮膚ニ侵入スルニ由ルト云フ吾人ハ嘗テ本症ニ於テ以上二菌ヲ見ズシテ却テ黃色葡萄狀球菌ヲ見タルコトアリ恐ク惡液質小兒ハ種々ノ細菌ノ侵入ニヨリテ之ヲ發スルナラン綠膿菌ノ全身傳染ノ際、壞疽性深膿疱ト點狀出血トヲ來セシコトアレバ稀ニハ全身傳染病ノ一症候(轉移)トシテ本症ヲ發スルコトモアルナラン。

療法

療法ハ榮養ヲ高メ鐵、亞砒酸等ヲ與ヘ大小便ノ接觸ヲ避ケ潰瘍ニハ「デルマトール」沃度仿謨等ヲ撒布シ或ハ沃仿「ガーゼ」ヲ插入シ或ハ一〇%硼酸軟膏ヲ貼スベシ場合ニヨリ藥浴例ヘバ「リゾール」浴、昇汞浴一浴ニ昇汞一〇)ヲ用フベシ。

癰腫症 Furunkulose

小兒モ大人ト同ジク隨處ニ癰腫 Furunkelヲ來セドモ敢テ特殊ノ點ナシ唯榮養不良ハ虛弱ナル小兒就中乳兒ニ多發スル癰腫ハ通例ハ癰腫ト稍趣キ

小兒癰腫症ハ
速ニ膿狀少ク
速ニ膿狀少ク

ヲ、異ニシ、殊ニ、經過、緩慢ニシテ、疼痛及ビ、炎症紅暈少ク、一甚ダ瘦削セルモノ
ニハ全ク之ヲ缺キ其破潰スル時スラ暗褐色ヲ呈ス―比較的容易ニ結節ヨ
リ膿瘍ニ變ズルヲ異レリトス。

症状

此小兒癰腫症ハ又小兒多發性癰腫症。Furunculosis multiplex infantum(Steiner)多發
性皮膚膿瘍。Multiple Hautabszesse(Galewsky)蜂窩織炎性皮膚炎。Dermatitis phlegmo-
nosa (Baginsky) 等ノ異名アリ始テ豌豆大乃至胡桃大ノ小結節ナレドモ既ニ
一。二日後ニハ膿瘍ニ變ジ稀ニハ膿汁吸收セラレ褐色ヲ留メテ治スル事モ
アレモ多クハ破潰シテ汚穢色又ハ往々血色ヲ帯ビタル膿汁ヲ洩シテ囊狀
空洞ヲ形成シ遂ニハ膿瘍壁互ニ癒著シテ治ス然レモ別ニ新膿瘍ヲ續生シ
愈。榮養ヲ害シ生命ヲ危クスルノミナラズ種々ノ合併症(肺炎、腸加答兒)又ハ
膿毒症、敗血症ヲ招ク虞ナシトセズ但、通例ノ場合ニハ熱發セザルモノトス。
原因ハ葡萄狀球菌、連鎖狀球菌及ビ大腸菌ガ外部ヨリ不潔ノ襯衣、襪襪故ニ
本症ニ襪襪傳染病 Windelinfektion ノ稱アリヲ介シテ皮膚ニ入ルヲ常トス吾
人ハ本邦ニ於ケル本症ニ就キ專ラ黃色葡萄狀球菌ヲ證明セリ但シ血行ニ
ヨリ化膿菌ノ皮膚ニ達スルコトモアリト云フ(Fingert) 兎ニ角幼者皮膚ノ軟

原因

診斷
痘疹性深膿
疱

療法

弱ナルト、身體虛弱ニヨル抵抗力ノ減少トハ内外ヨリノ細菌傳染ヲ容易ナ
ラシムルモノナラン。
診斷上ニハ本症ハ壞疽性深膿疱ニ類似スレドモ潰瘍ノ状態ノ甚シク異レ
ルニヨリ容易ニ鑑別シ得ベシ。
治療法ハ榮養ヲ高メ強壯劑ヲ處シ消化器病アレバ必ズ之ヲ治スベシ通例
先ヅ甘汞ヲ與ヘ後チニハ「ザロール」等ヲ與フ。
外部ヨリハ瘙痒性皮膚病アレバ之ヲ治療シ襯衣及襪襪ヲ清潔ニシ數、沐浴
セシメテ本症ノ發生ヲ豫防シ既ニ膿瘍ヲ發セバ尖刃刀ニテ僅ニ尖端ヲ穿
刺シテ排膿シ五〇%酒精綿ニテ拭ヒビツク氏硬膏ヲ貼布シ膿瘍甚ダ多數ナ
レバ二%硼酸水等ニテ冷罨法ヲ施ス膿瘍壁癒著セズシテ潰瘍ヲ生ゼバ一
〇%硼酸軟膏ヲ貼スベシ。

「ワクチン」療法ハ之ヲ試ミタル十八氏ノ治驗(三〇三例)ヲ湊合スレバ八五%ハ治癒、一一%
ハ輕快三%ハ無效ニシテ小兒ノ癰腫症ニモ奏效スト云フ(Wechselmann u. Michaels)

水 癌 Noma

小兒期ノ重篤ナル疾病ニシテ成人及ビ哺乳兒ヲモ侵サルニハアラザレ

原因(皮膚ノ實扶的里)

ドモ好デ二—十二歳ノ榮養不良、衰弱セル小兒ニ發生スル進行性壞疽ナリ殊ニ重症傳染病(麻疹、次デハ猩紅熱、室扶斯等)後ノ衰弱ニ乘ジテ發スルコト多シ大概口粘膜、稀ニハ陰部ニ原發シ始メハ膿疱或ハ汚穢黃色乃至灰色ノ斑ニシテ自覺症僅微ナルモ直ニ破壞シテ固有ノ潰瘍ヲ生ズ潰瘍ハ汚穢灰色、綠色乃至黑色ノ泥狀ノ苔ヲ被リ惡臭アリ邊縁ハ浸潤アリ紅暈ヲ周ラヌ周圍及ビ深部ヘノ進行頗ル迅速ニシテ凡テノ組織破壞セラレザルナク頰部ヲ貫通シ口唇ヲ缺損セシメ上下顎骨ニ及ビ高熱ヲ發シ疼痛アリ數日ノ後ニハ敗血症ヲ發シテ死スルモノ七五% (Patsch)ニ及ビ稀ニハ分界線ヲ生ジテ治癒スルモノアレドモ醜形ヲ止ム。

原因ハ球菌、桿菌、螺旋菌等種々ノ菌ヲ發見セシ者アレモ皆確實ナル病原體ト見做シ難シ、本邦ニ於テモ桿菌(伊東氏)四例、雙球菌(桂田、惠木氏)細小桿菌(有馬、石井氏)連鎖狀球菌(竹崎氏)及黒岩、山口氏)六例)等ヲ發見セルノ報アリ。又本症ニ實扶的里菌ヲ發見セシモノアリ所謂皮膚ノ實扶的里ハ其症狀全ク水瘡ニ等シケレバ二者ヲ混同セリトテ其所見ヲ排スルモノアリ或ハ皮膚ノ實扶的里ヲ認メズシテ之ヲ水瘡ノ内ニ加フルモノアリ要スルニ水瘡

療法

ノ原因ハ未ダ明ナラズトスベシ。豫防トシテ口内ノ清潔ヲ計リ既ニ本症ヲ發セバ速ニ全身麻酔ノ下ニ十分燒灼スルカ切除セザルベカラズ Heubner 氏ハ上記實扶的里トノ關係ニ基キ實扶的里血清療法ヲ推奨ス。

第四章 人工的皮膚炎

火傷 Combustio 凍傷 Congelatio 及 ヲラチーム皮膚炎 Röntgenger-matitis u. Radiumdermatitis ハ小兒ニモ來レドモ敢テ特殊ノ點ナク唯大人ヨリモ一般ニ刺戟ニ對スル反應過敏ナリト言フノミ獨リ凍瘡 Perionies ハ好デ小兒ヲ侵シ一般ニ凍傷ノ第一期ト認メラルレドモ特殊ノ點アルヲ以テ之ト同一視セザルモノアリ (Benier Doyon, Uuna) 症狀寧ロ往々多形滲出性紅斑ニ類シ氷結點ニ達セザル時ニモ發生シ經過モ尋常ノ凍傷ト異レルニハ相違ナキモ果シテ是等學者ノ説ク如ク凍瘡ヲ血管運動神經ノ障礙トスベキヤ否ヤ確カナラズ。

凍瘡 Perionies. Frostbeulen

凍瘡ニハ特殊ノ點アリ

人工的皮膚炎

原因

幼兒及青少年、殊ニ貧血或ハ心力弱ク四肢末端常ニ厥冷スルモノニ見ル所ナレドモ反復、寒冷ニ曝露セバ強壯者モ亦之ヲ發スベシ蓋シ寒冷ノ爲メ先ヅ血管收縮(貧血)シ次デ血管擴張シテ鬱血及ビ浮腫ヲ來スモノナルガ是等ノ者ニアリテハ此異常ガ容易ニ恢復セザルナリ而シテ一旦凍瘡ヲ發セバ抵抗力ヲ減損シ爾後歲々冬季ニ之ヲ反復シ加之早ク既ニ秋季ニ發病スルモノアリ症狀ハ手足殊ニ指趾次デ鼻尖、耳朵、稀ニハ頰部ニ蒼赤色、浮腫狀ノ扁平結節ヲ生ジ境界或ハ明カニ或ハ明カナラズ或ハ紅斑ノ如ク中心、蒼紅色ヲ呈シ邊緣鮮紅色ノ斑ヲ成スアリ或ハ散漫性ノ帶紫色ノ紅斑及浮腫ニシテ冷感ヲ伴フアリ甚シキハ水疱ヲ生ジ破綻セバ弛緩性ノ潰瘍ヲ生ズ(潰瘍性凍瘡 P. ulcerans)何レモ皆溫暖殊ニ晩景褥温ニ遇ヘバ搔痒、灼熱、疼痛ヲ起シ實性充血ノ狀ヲ呈ス。

症狀

療法

療法 貧血ニ對シ鐵、亞砒酸、肝油等ヲ内用セシメ手足ヲ温包シテ緊縛スルヲ避ケ、常ニ手足ヲ按摩シテ血行ヲ促シ皮膚ノ濕潤ヲ避ケ、ハシ、夏期中ヨリ冷水浴冷水摩擦ヲ行ヒ皮膚ヲ強壯ニスルコトモ多少豫防ノ效アラシムベシ
Besnier 氏ハ胡桃ノ葉ノ煎汁ニテ毎日十五分間手足ノ局處浴ヲナシ後チ

樟腦精ヲ浸セル布片ニテ輕ク摩擦シ澱粉ヲ撒布シブロック Brocq 氏ハ成ルベク熱キ湯又ハ胡桃葉ノ煎汁又ハ石鹼水ニテ一日二回手足ヲ洗滌セバ豫防ノ效アリトセリ。

既ニ凍瘡ヲ發セバ手足ニ毎日十分間位温度高キ局處浴及ビ摩擦ヲナシ清拭セル後チ沃度丁幾、樟腦精等分ノモノ或ハルゴール氏液或ハ、

「イヒチオール」、「レゾルチン」單寧 各一〇〇 水 五〇 (Roek 氏)

ヲ塗布スルカ或ハ一〇%樟腦「ラノリン」或ハ、

「クレオソート」二〇 「ペルバルサム」一〇〇

樟腦 五〇 黄色「ワゼリン」一〇〇

ヲ長ク塗擦シタル後繃帶スベシ潰瘍ヲ生ゼバ一〇%「チオノール」軟膏或ハ、

硝酸銀 〇五 「ペルバルサム」二〇 「ラノリン」「ワゼリン」各二〇

ヲ貼用シ繃帶スベシ又單ニ表皮肥厚シ粗糙ナルニ止レバベルツ氏液ノ塗布ニテ足レリ即チ。

苛性加里 〇五 「グリセリン」 「アルコホル」 各二〇 水 六〇

若シ輝裂アレバ一〇%「サリチル」酸石鹼硬膏ヒツク氏硬膏ト稱スルモノヲ貼布スベシ、此他

方劑枚舉ニ違アラズト雖特效藥トスベキモノナシ。

第五章 鱗屑疹 Psoriasis 及ビ苔癬 Lichen

尋常性鱗屑疹又ハ乾癬 Psoriasis vulgaris

歐米ニ多キ皮膚病ニシテ小兒期ニモ尠カラズ年齢十五歳未満ノモノハ四
四%ヲ占ムト云ヒ(Nielsen)乳兒ニモ發シ早キハ生後五日ニ發セシト訴ヘシ
モノアリ本邦ニテハ寧ロ稀有ハ疾病ニシテ小兒期ニモ亦之ヲ見ルコト少

小兒鱗屑疹ノ
多寡

第五 尋常性鱗屑疹



シ東京大
學統計ニ
ヨレバ本
症患者八
七人中十
五歳以下
ノモノ三
名其内一

大人及ビ小兒
鱗屑疹ノ異同

名ハ五歳未満ニ發病ス我病院統計ニヨレバ本症患者一二人中十五歳未満
ハ五名ナリキ。

稍、成長セル小兒ノ鱗屑疹ハ大人ト均ク圓形ノ紅斑上ニ乾燥セル銀白色ノ
鱗屑ヲ生ジ部位モ亦四肢ノ伸側殊ニ肘及ビ膝蓋ニ好發シ次デ頭部、軀幹、項
部ニ及ベドモ幼兒ニハ脂漏ノアル部位殊ニ頭部ニ好發シ從テ鱗屑ハ皮脂
ニ富ミ汚穢黄色ナリ爪牀モ割合ニ數、侵襲セラル小兒ニテハ經過一般ニ輕
ク殆ド汎發スルコトナシト云フモ每常必シモ然ラズ吾人ハ十歳未満ノ小
兒ニ於テ全身殊ニ掌蹠ニ至ル迄完膚ナキモノヲ見タリ。

其他小兒鱗屑疹ハ大體大人ト異ル所ナシ。

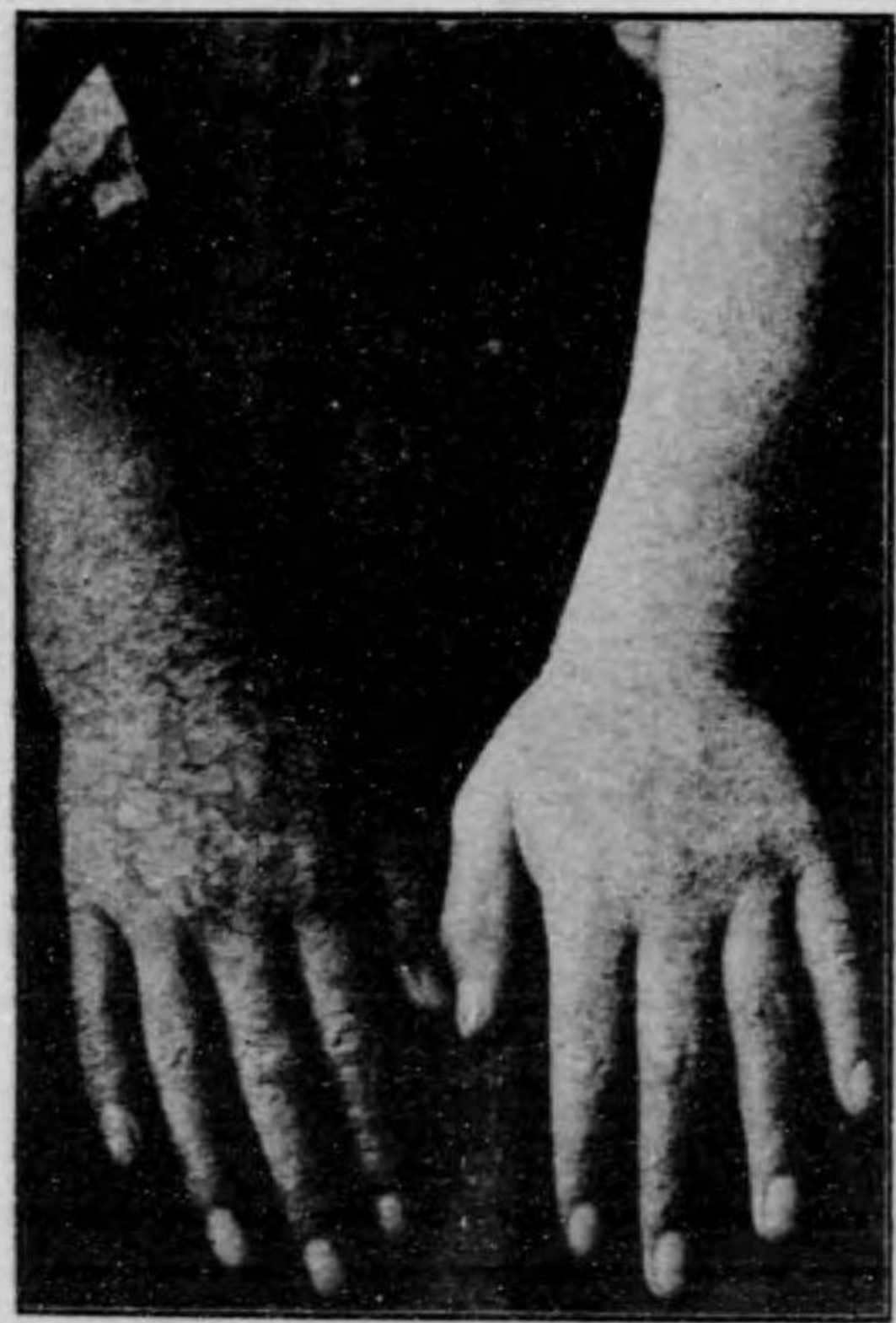
慢性苔癬狀枇糠疹 Pityriasis lichenoidea chronica

思春期ニ近キ兒童ニノミ見ル所ナリ。

紅色苔癬 Lichen ruber

一、扁平紅色苔癬 L. r. planus ハ二十歳乃至五十歳ノ男子ニ多ク小兒ニ少シ
ト雖カポシー Kaposi 氏ハ八ヶ月ノ小兒ノ一例ヲ、フォックス C. Fox 氏ハ三
二十九ヶ月ノ小兒ノ數例ヲ見タリ東京大學統計ハ三十七例中十五歳未満

第六 鱗屑疹及苔癬・紅斑



色○枇○糠○疹○ Pityriasis rubra pilaris

小兒期ノ後半ニ發スル稀有ノ疾病ナリ十五例中小兒ハ一名ノミ(東京大學)

第六章 紅斑 Erythema

初生兒紅斑

初生兒ハ出生後暫時、全身ニ散漫性潮紅ヲ來シ一週日ヲ經バ多少黃色ヲ留メテ消散ス之ヲ初生兒紅斑 Erythema neonatorum ト云フ—初生兒黃疸トハ異レリ—又小兒ハ生齒期、胃腸障礙及ビ熱性病ノ際ニ散漫性或ハ限局

小兒紅斑

種痘紅斑

性紅斑ヲ發スルコトアリ之ヲ小兒紅斑 E. infantile ト云フ若シ種痘後數日ニ軀幹四肢ノ紅斑ヲ發セバ之ヲ特ニ種痘紅斑 E. vaccinicum ト云フ。

多形滲出性紅斑 Polymorphe exsudative Erythema ハ單純ノ一時的充血—單純性

紅斑 Erythema simplex —ニ止ラズシテ細胞浸潤及ビ其增生竝ニ漿液ノ滲出

ヲ伴ヘル限局性ノ炎衝ナリ外觀稍、蕁麻疹ニ似タルモ之ニハ細胞浸潤ヲ缺

クヲ異レリトス。

一、ヘブラ氏多形滲出性紅斑 E. exsudativum multiforme (Hebra)

二、結節性紅斑 E. nodosum

甲ハ年齡ヲ選バザレドモ稍、年少者ニ多ク小兒ニモ亦稀ナラズ乙ハ好デ若年ノ女子ヲ侵スガ如シヤーリッシヤ Jarisch 氏ニヨレバ二十歲以上ニハ甚稀ナリト唱フレドモ吾人ノ本邦ニ於テ見ル所ニヨレバ却テ二十歲乃至二十五歲ノ少壯者ニ多ク小兒期ニモ發生スレドモ乳兒ニハ稀ナリ六十七人ノ小兒結節性紅斑中三歲以下ハ僅ニ十六人ニ過ギザリシト云フ(Condy)且ツ此症ハ本邦ニ於テハヘブラ氏多形滲出性紅斑ヨリモ遭遇スルコト少キ皮膚病ナリ。

甲乙共ニ大人ニ來レルモノト敢テ異レル特殊ノ點ヲ有セズ。

三、**症候的多形紅斑** Symptomatische polymorphe Erytheme

體內或ハ體外ヨリ侵入セル細菌及ビ毒物ニヨリテ發スル多形紅斑ナレバ固ヨリ年齢ヲ選バズ經過不定、發疹ノ形狀頗ル多形紅斑、小結節、水疱、膿疱、蕁麻疹、紫斑等單純ニ發疹シ或ハ相伴ヒテ發シ麻疹、猩紅熱或ハ帶狀疱疹或ハ多部位不定、豫後必シモ良好ナラザルハ形滲出性紅斑様ノ外觀ヲ呈スルモノナリ。前二病ニ對シテ特殊ノ點ナリ急性傳染病(室扶斯、麻疹、實扶的里)咽頭炎、化膿性炎、鼠咬症、恙蟲病等ニ之ヲ發シ其毒素ニヨル(中毒性紅斑 Erythema toxicum)コトモアレドモ一部ハ明ニ細菌ノ轉移ニヨル例ハ皮膚疹中ニ葡萄狀球菌、連鎖狀菌殊ニ室扶斯ノ皮膚疹中ニ於ケル扶斯菌ノ檢出又腸内ノ腐敗醱酵ヨリモ多形滲出性紅斑様皮膚疹ヲ發生スベシ。

四、**藥疹** Arzneixanthem

藥疹モ症候的多形紅斑ノ一ニシテ小兒ニ特殊ノ點ナシ唯種痘疹及ビ血清疹ハ小兒ニ最モ多クシテ稍、注意スベキモノトス。

血清疹 Serunexanthem

破傷風血清、連鎖球菌血清、モーセル Moser 氏猩紅熱血清乃至滅菌セル連鎖球菌及ビ室扶斯菌培養等ヲ注射セバ往々皮膚ニ發疹ヲ來スベキモ殊ニ實

熱度

症候

扶的里血清疹ヲ重要トス實扶的里血清療法委員會ノ報告ニヨレバ患兒毎三人ニツキ一人ハ皮膚疹ヲ生ズトシエールマン Ehrmann 氏ニヨレバ其頻度ハ八—二四%ノ間ニアリ通例ハ少數ノ斑紋及蕁麻疹ニ過ギズシテ障礙少キモ時トシテ注射後數時間ニシテ既ニ早ヤ重キ中毒症狀ヲ現ハスコトアリ即チ熱發四十度ヲ超ユ關節痛、下痢、倦怠ヲ來シ往々淋巴腺腫脹稀ニハ蛋白尿、浮腫ヲ發スレドモ豫後良好ニシテ僅々一—二日ニシテ諸症消散スルハ注目ニ値ス但シ晩キハ二三週ヲ經テ副作用ヲ發スルモノアリ發疹ハ注射部ニ初ルカ又ハ全身ニ同時ニ汎發シ麻疹様、猩紅熱様或ハ多形紅斑様或ハ蕁麻疹或ハ小結節等極メテ多形ニシテ血清ノ分量ニモ小兒ノ年齢ニモ關係ナキ等全ク中毒疹ノ特徴ヲ具ヘタリ但シ抗毒素ノ作用ニアラズ又「アナフィラキシ」ニモアラズシテ全ク他種屬ノ血清(通例馬血清)ナルニヨル從テ新鮮ナル血清ナレバ諸症一層發シ易シ恐ク他種血清中ニ有害物質アルニヨルト云フ之ハ實驗上五十七度ニ熱セバ往々破壞セラル、モノナリト別ニ治療法ヲ要セザレドモ場合ニヨリ「クロール、カルク」(一歲以下ニハ〇〇七五十歲以上ニハ〇〇六)ヲ稱用スルモノアツ(Gewin)

中毒疹

種痘疹 Impetigo

所謂種痘疹ノ内ニハ純然タル中毒性紅斑ニ屬スベキモノアリ蓋シ痘苗毒トハ異レル一種ノ病的產物ニヨリテ發スルナラン種痘ノ直後又ハ八日(旺盛期)後ニ鮮紅色ノ猩紅熱様紅斑或ハ多形滲出性紅斑ヲ發スレドモ全身症狀ヲ呈セズ直ニ消散ス。

種痘病

種痘ノ傳染

眞ノ種痘病 Vakzinekrankheitト認ムベキハ親近セル他人又ハ動物或ハ自己ハ接種痘泡ヨリ痘苗毒ヲ感受セル場合種痘ノ傳染 Vakzinale Infektion)ニノ感受部ニ接種痘泡ト同一ナル固有ノ痘泡ヲ形成スベシ搔破又ハ皮膚病濕疹痒疹疥癬等ノ爲ニ表皮剝脫アレバ傳染ノ機會ヲ與フベク殊ニ面部廣大ナレバ熱發シ全身症狀甚ク其局部ハ帶黃色又ハ帶綠色ニ變色シ糊狀ノ苔ヲ被リ紅暈ヲ周ラスベク殊ニ其近傍ニハ固有ノ種痘膿泡ノ個々散點スルヲ認ムベシ(種痘濕疹 Eczema vaccinatum)附近淋巴腺ハ腫脹疼痛アリ通例ハ一定經過ノ後治癒スレモ眼ニ對シ又生命ニ對シ必シモ危險ナシトセズ故ニ痘瘡流行時ニ非ル限リ皮膚病アレバ種痘セザルヲ可トス療法ハ一般防腐的ノ處置殊ニ「ペルヒドロロール」ヲ一日二回塗布シ三—六%液ノ卷法可ナリト云フ。

種痘性發疹

副痘泡

汎發性痘疹

外部ヨリ傳染セズシテ種痘後淋巴道又タハ血行ヲ經テ傳染スルコトアリ (Vakzinale Exanthen) 接種痘泡ノ附近ニ多數ノ小膿泡小水疱ヲ生ジ速ニ乾燥治癒スルモノ即チ所謂副痘泡 Nebenpocken (Vaccinolae) ハ恐ラク痘病毒ノ淋巴道轉移ニシテ汎發性痘疹 Vakzine generalisata ハ必ズヤ血行ニ入りテ蔓延セシモノナラン即チ種痘後二日或ハ八—十日(旺盛期)ニ急ニ全身就中四肢伸側背部臀部ニ赤色小結節ヲ發生シ熱及ビ全身症狀ヲ伴フ小結節ハ間々直ニ水疱ニ變ジ一—二日後ニハ更ニ膿泡トナル診斷ハ前驅期薦骨痛ノ缺如ニヨリ痘瘡ト鑑別スベク粘膜ニ變化ナキニヨリ麻疹ト鑑別スベシ殊ニ發病ニ先チ種痘セシコトニヨリ直ニ診定シ得療法ハ之ヲ要セズ主トシテ患兒ノ體力ニ注意スベキノミ本邦ニ於テハ柏原氏ノ報告アリ殊ニ藤原氏ハ被種痘者四千五百有餘人中二名ノ汎發性痘疹様ノ皮疹ヲ見タルヲ報ゼリ。

五、初生兒剝脫性皮膚炎 Dermatitis exfoliativa neonatorum Ritter.

本症モ亦症候的多形紅斑ノ一ニシテ敗血症膿毒症乃至中毒性皮疹ナルベシ殊ニ近時ノ研究ニヨレバ血液(Winter)膿泡(Leiner)組織(Hansteen)中ニモ葡萄狀球菌ヲ發見シ得タリ。

原因

症候

健全ノ乳兒、生後一—二週ノ終ニ當リ(五週以後ノ發病ハ之ヲ見ズ)口角又ハ顔面下半部ニ散漫性潮紅及ビ糠枇性落屑ヲ來シ口角、鼻孔等ニハ輝裂ヲ生ズ潮紅ハ遂ニ全身ニ及ビ皮膚腫脹シテ浮腫シ之ニ漿液ノ滲出加リ上皮膚狀ニ剝離シ紅色ノ濕潤面ヲ現シ乾燥セバ痂皮ヲナシ口内ニハ淺キ潰瘍ヲ生ズ或ハ初期ニ既ニ水泡ノ形成ヲ認ムルコトアリ體溫ハ必シモ昇騰セザレドモ體液消耗ノ爲メ或ハ關節部等ノ輝裂ヨリ傳染シテ蜂窩織炎、壞疽等ヲ發スル爲メ或ハ腸加答兒、肺炎等ヲ續發スル爲メニ患兒ノ半數ハ死亡ス但シ輕症ノモノハ一週ニテ治癒スルアリ元來稀有ノ病ニシメ流行性ニ來ルコトアリト云フ。

鑑別

鑑別 丹毒ハ熱アリ境界明ニ灼熱疼痛アリ必シモ葉狀落屑セズ葉狀天疱瘡ハ潮紅著明ナラズ經過緩慢ナリ傳染性膿疱疹ハ水泡間ノ皮膚潮紅セズ衰弱ヲ發セズ濕疹ハ搔痒アリ衰弱ナク經過異ル。

療法

療法 榮養ヲ高メ皮膚ノ摩擦ト體溫ノ消散ヲ防グ爲メ綿ニ包ミ、溫クシテ乾燥セザル室ニ置キ炎衝ニハ罨法、剝脫ニハ阿列布油、5%硼酸軟膏或ハ撒布藥ヲ適用シ角質ヲ存スル場合ニハ角化ヲ促進スル目的ヲ以テ「カミツレ」

浴ヲ命ジテ可ナリ

第七章 皮膚出血 Haemorrhagiae cutaneae.

一、**儂麻質性紫斑** Purpura rheumatica, Peliosis rheumatica

症候

五歳乃至三十歳ノ者ニ多ク五歳以下ニモ稀ナラズ十五歳ヲ限界トシテ計算セバ其前後ニ於テ殆ンド同數ノ患者ヲ得タリ膝及ビ足關節ノ儂麻質斯様疼痛及ビ輕熱ト共ニ下腿ヨリ大腿、上肢ノ皮膚ニ溢血ヲ來スモ粘膜炎ニハ異常ナク數週間ニシテ治癒ス關節痛及ビ熱ナキ輕症ノモノヲ單純性紫斑(P. simplex)ト云フ然レドモ小兒ニ於テハ往々重篤ナル合併症(心臟内膜炎、腎臟疾患)ヲ來シ危險ナシトセズ殊ニヘノホHenoch氏ノ電擊性紫斑P. fulminans

單純性紫斑

ヘノホ氏電擊性紫斑

ハ溢血ト共ニ壞疽ニ陥ルベキ關節ヲ皮膚ニ發生シ兼ヌルニ項部ノ疼痛及ビ腸胃障礙(痙痛、嘔吐)ヲ以テシ遂ニ一乃至四日ニシテ死亡スル小兒病ナリ。

本邦ニモ渡邊、尖、尾、東、原、松、尾、阪、井、鈴木等諸氏ノ報告アリ

二、**出血性紫斑** Purpura haemorrhagica s. Morbus maculosus Werlhofii

小兒ニハ稀ナル皮膚病ニシテ皮膚ノ外粘膜炎ニ溢血ヲ來シ關節痛ヲ缺クヲ

皮膚出血

前者ト異レリトス。吾人ハ嘗テ滿一歳ノ乳兒之ニ侵サレ死亡セルヲ見タリ。
三、メルレル、バルロウ氏病 Møller-Barlowsche Krankheit

通例一歳ノ後半、稀ニハ二歳以後ニ發スル體質病ニシテ皮膚溢血、骨膜下溢血、關節ノ疼痛殊ニ齒齦ニ於テ壞血病様變化ヲ來シ著明ノ貧血ヲ招ク其本態不明ナレドモ壞血病ニ近キモノニシテ殆ド皆人工榮養ノ小兒殊ニ殺菌牛乳ヲ以テ榮養セル哺乳兒ニ發シ榮養ヲ改メ煮沸セザル牛乳又ハ人乳年齒消長セル小兒ニハ混合食、野菜、果汁ヲ與ヘバ速ニ治癒スト云フ。本邦ニモ弘河内、須藤、平井、小松、高橋、田路、杉田、内山氏等報告少カラズ

四、血管擴張性環狀紫斑 Purpura annularis teleangiectodes (Majocchi)

年少者ニ多ク初生兒ニモ見ル稀有ナル皮膚病ニシテ僅少ノ溢血ヲ伴ヘル毛細管ノ擴張ナリ始メ帽針頭大以下ノ赤色斑紋ヲ生ジ往々環狀或ハ線條ヲ描ク指壓ヲ加フルモ褪色セザル故他ノ紫斑病ニ類スレドモ毫モ痛痒ナキ病ニシテ僂麻質斯性紫斑トハ關節痛ノ缺如、形狀ノ環狀線狀ナルニヨリテ鑑別スベシト云フ。

第八章 蕁麻疹 Urticaria

特徴
浮腫性發疹
速消性
劇痒

症候

蕁麻疹ハ小兒ニ多ク來ル皮膚病ノ一ニシテ吾人ノ統計ニヨレバ十五歳以下ノモノ二十人、其以上ノモノニ三十一人ノ患者ヲ見タリ血管運動神經ノ障礙ニシテ迅速ニ發生消散スル浮腫性ノ發疹即チ所謂蕁麻疹又タハ發疹(Urtica, Quaddel)ヲ生ズルヲ特徴トシ常ニ劇烈ナル搔痒ヲ伴フ。

蕁麻疹ハ圓形、橢圓形或ハ不規則ノ形狀ヲ有スル扁平ノ隆起ニシテ境界明劃、各々常態皮膚ニヨリ限界セラル質、硬靱ニシテ大サ扁豆大ヨリ手掌大ニ及ブモノアリ色モ亦不定ニシテ鮮紅色(紅色蕁麻疹 U. rubra)或ハ淡紅色或ハ蒼白色ニシテ紅暈ヲ周セルアリ(白色蕁麻疹 U. alba s. porcellanea)蓋シ血管ガ浮腫ノ爲ニ壓迫セラル、度合ニヨリテ濃淡ヲ生ズルナリ。

蕁麻疹ハ終始同一ノ大サニ止ルコトアリ或ハ疹ノ中央ハ消退陷沒シテ微ニ青色ヲ止メ周邊ハ漸次増大シテ輪狀、半圓狀又ハ弧形ヲ描クコトアリ(環狀蕁麻疹 U. annularis)或ハ環狀蕁麻疹相合シテ紆回狀ヲナス(迂回狀或ハ地圖狀蕁麻疹 U. gyrata s. figurata s. geographica)是等ハ皮疹ノ發散殊ニ迅速ナルモハトス、或ハ蕁麻疹ガ淡赤色ノ小結節ヨリ成リ(丘疹性蕁麻疹 U. papulosa)或ハ稀ニハ漿液ノ滲出甚シク水疱小水疱性及ビ水疱性蕁麻疹 U. vesiculosa

消散後痕跡ヲ止メズ

過敏性ナ有ス

人工的蕁麻疹又ハ皮膚表記症

et bullosaヲ形成シ加之、溢血ヲ來スモノモナキニアラズ(溢血性蕁麻疹 U. haemorrhagica) 以上ハ概シテ皮膚ノ消散割合ニ速カナラザレドモ同時ニ定型的ハ發斑速ナルヲ伴フモノナリ、殆ド上皮ノ榮養障得セラレザルヲ以テ消散後ハ更ニ痕跡ヲ止メズ。水疱性以下ノモノ、外ニハ落屑ヲモ來サズ。

皮下結締織ノ粗鬆ナル部位(眼瞼、陰囊耳等)ハ皮下組織浮腫シ著ク腫脹スベク小兒包皮ノ急ニ甚シク腫脹スルガ如キモ亦一ノ蕁麻疹ナラン粘膜炎就中軟口蓋懸壅垂、會厭軟骨部ニ蕁麻疹ヲ發セバ浮腫ヲ來シ窒息ノ虞ナキニシモアラザレドモ幸ニ頗ル稀ナリ又稀ニ本症ニ喘息發作ヲ合併スルコトアルハコハ寧ロ氣管枝粘膜炎ノ浮腫狀腫脹ニ因ルナラン。

皮膚ハ頗ル過敏ニシテ僅微ノ刺戟ニ遇フモ直ニ紅斑及ビ蕁麻疹ヲ發生スル性質アリ故ニ爪ヲ以テ皮膚ヲ擦過セバ隨時隨所ニ任意ノ形狀ノ蕁麻疹ヲ缺クヲ作ルヲ得ベシ(人工的蕁麻疹又ハ皮膚表記症 U. factitia s. Dermographismus)斯ル血管運動神經ノ過敏性ヲ有スルモノハ或種ノ食物(蝦蟹)ノ攝取ニヨリ急性蕁麻疹ヲ發生スルヲ以テ愈、該過敏性ト蕁麻疹トハ親密ナル關係アルヲ知ルベシ(Dujardin-Beaumetz)但シ稀ニハ蕁麻疹患者ニシテ人工蕁麻

自覺症
全身症狀

部位

急性及ビ慢性蕁麻疹

疹ヲ來サズ、又ハ人工蕁麻疹ヲ生ズルモノ必シモ蕁麻疹ヲ患ヘザルコトアリ。バルテレミー Barthelémy 氏ハ三乃至八歳ノ多クノ小兒ニ皮膚表記症ヲ認メタリト云フ。

自覺症ハ劇烈ナル搔痒、灼熱ニシテ搔破セバ愈、新疹續發シ搔痒モ亦加ハリ搔破ノ痕跡、血痂等ヲ貽スモ濕疹ヲ來スコトハ少ナシ。全身症狀ハ通常之ヲ缺クモ急性蕁麻疹ハ往々發疹ニ先チ輕度ノ症狀即チ倦怠、惡心、嘔吐(消化器粘膜炎ノ發疹)輕熱ヲ伴ヒ經過長ケレバ不眠ノ爲ニ苦シムベシ。

部位ハ特殊ノ好發部位ナキモ摩擦、壓迫等ヲ受ケ易キ部位ニハ人工蕁麻疹ヲ發シ皮膚多數ナルコトアリ。

經過ハ一様ナラズ急性蕁麻疹 U. acuta s. U. simplex evanida ハ數日ノ間ニ經過スルモノ慢性蕁麻疹 U. chronica s. U. recidiva chronica ハ各皮膚ハ發散速カナルモ遞次新疹ヲ續發スルカ或ハ一旦治癒スルモ再三反復發疹シ全經過ハ連綿數週乃至數年ニ亙ルモノナリ此種ノモノ、中ニハ稀ニ永ク四肢伸展側等ニ色素沈著ヲ來スモノアリ外觀稍、色素性蕁麻疹ニ類スルヲ以テ之ト混同シ易キモ發病ノ年齢及ビ組織的變化全ク異レルヲ以テ嚴ニ區別セ

持久性蕁麻疹

ザルベカラズ(色素沈著性蕁麻疹 U. mit Pigmentierung) 持久性蕁麻疹 U. perstans Willani s. U. perstans simplex, Pick) 一變態ニシテ一旦發生セル發斑ハ長ク消散セズシテ數日乃至數週持久スルモノニシテ表面疣狀ニ肥厚スルモノアリ。

外因

原因。蕁麻疹ノ發生ヲ促スベキ外因ハ昆蟲刺傷、植物等ノ刺戟、器械的搔破、溫熱的水等、化學的藥品刺戟ニシテ斯クテ發セシヲ特發性蕁麻疹 U. idiopathica ト云フ故ニ人工的蕁麻疹モ其一種ト見做スヲ得ベシ。

内因

内因モ亦甚多シ食物(蝦蟹貝類、青魚、鰻魚、鰻等 U. ex ingestis) 藥物(規尼涅、安知必林、莫比、莨菪、ルサム、楊曹、クローラール等) (U. medicamentosa) 胃腸病(胃腸内ノ腐敗醱酵ニヨルヤ又ハ單ニ胃腸ノ刺戟寄生蟲、條蟲、蛔蟲ニ包蟲ノ水疱内容ハ毒、生殖器刺戟、月經、子宮病、尿道手術、等ヲ主トシ膽石痛、味、神經ノ刺戟、齒牙發生、神經系ノ疾病、傳染病殊ニ麻刺利亞、全身病、糖尿病、痛風等) ニテモ之ヲ發スルコトアリ。

蕁麻疹ノ發生ニハ一種不明

蕁麻疹ハ斯ル内因或ハ外因ガ直接ニ皮膚ニ作用スルカ或ハ反射的ニ作用シテ發スルモノナレドモ何人モ悉ク之ヲ生ズルニアラズシテ其發生ハ唯特異質アル者ノミニ限レリ此特異質ノ本態ハ明ナラザレドモ恐ク血管運

スノ特異質ヲ要

動神經障礙ナラン近時ブルック Bruck 氏ハ食物性蕁麻疹ノ體外蛋白ニ對スル「アナフィラキシー」ナルコトヲ實驗的ニ證明セリ。

鑑別

鑑別。多形滲出性紅斑ハ手背足背ニ好發シ搔痒少ク經過長シ皮膚搔痒症ハ搔痒及ビ搔破痕跡ノ外、皮疹ヲ見ズ疥癬ハ好發部位アリ容易ニ消退セズ疹癬蟲及ビ蟲道アリ昆蟲刺傷ハ中央ニ小ナル點狀出血アリ兎ニ角全身障礙ト關係アル所謂症候的蕁麻疹 U. symptomatica ハ、一、二、少數ハ發斑ハミヲ以テ、診斷スベカラズ。

豫後

豫後。急性蕁麻疹ハ良、慢性蕁麻疹ナルモ原因明ニシテ治方アルモノ(例ハ腸病)ハ佳良ナレドモ原因不明ナレバ難治トス。

療法

療法。急性蕁麻疹殊ニ食物ニ原因セバ甘汞、蓖麻子油或ハ鹽類下劑ヲ與ヘ又灌腸ヲ施スベク慢性症ニシテ原因明カナレバ之レヲ除キ殊ニ寄生蟲ニ注意スベシ原因不明ナルモ先ヅ胃腸内ノ腐敗醱酵ニ疑ヲ置キ下劑(鹽類下劑及複方甘草散)並ニ制腐ノ爲メ楊曹「ザロール」、水楊酸、蒼鉛、「クレオソート」及ビ薄荷ヲ投ズベシ頑固ナルモノニハ「アトロピン」ヲ用フベク臭素劑、安知必林等ノ鎮靜藥モ亦時ニ可ナリ局所療法トシテ二%水楊酸酒精、〇・二%「チモール」

酒精、カンフル、丁酸等ヲ塗布シ或ハ一%石炭酸亞鉛華糊膏ヲ塗布シテ制痒ヲ計リ頑固ナルハ「リゾール」溶、硫黃浴ヲ用ヒ時トシテ轉地、溫泉行ヲ命ズ食物ハ牛乳ヲ可トス殊ニ全ク牛乳ノミノ榮養ヲ賞揚スルモノアリ (Zappert u. Galewsky)

色素性蕁麻疹 *Urticaria pigmentosa.*

色素性蕁麻疹ノ定型的ノモノハ其發病多ク三ヶ月以内ニシテ或ハ生後二三日ヲ經テ起ルアリ或ハ既ニ胎生時ニ胚胎スルモノアリ滿一年以後ニ起ルモノハ極メテ稀ナリ血管運動神經ノ過敏性ハ通例之ヲ存シ皮膚上ニ蕁麻疹トシテ發現ス唯々通例ノ蕁麻疹ト稍異ル所ハ發斑ハ割合ニ永ク消散セルコト、後日黃色腫樣ノ黃褐色ノ色素ヲ沈著スル(黃色腫樣蕁麻疹 *D. xanth-thelasmaidea*) コトニシテ蕁麻疹ハ生長スルニ從ヒ發生セザルニ至ルト雖著色ハ長ク存ス組織上ニハ必ズ肥饒細胞ノ夥シキ集簇ヲ認ムベシ但シ臨牀上ニ見ル所ノ皮疹ノ色ハ上皮及真皮ニ存スル眞ノメラニン性色素ニ基ク部位ハ皮膚ノ衣服ト相摩スル部ニ著明ニシテ一般ニハ軀幹次デ四肢ニ著ク顔面ニ少シ手掌足蹠ハ從來殆ド之ヲ見ズト云ヒシモ吾人ハ足蹠ニモ該

特微
年發病ハ幼
動神經ノ過
敏性ノ過
色ノ著色
肥饒細胞
腫

部位

診斷

斑紋ヲ見タリ要スルニ全身侵サレサル部位ナシト謂テ可ナリ原因ハ不明。診斷 丘疹微毒ハ其色銅赤ニシテ割合ニ早ク消散スレドモ本症ノ斑紋ハ數年ヲ經テ去ラズ癩ハ幼年者ニ來ルコト稀レニシテ知覺麻痺、神經肥厚等他ノ癩症候ヲ伴フ色素形成ヲ伴フ蕁麻疹ハ組織中ニ肥饒細胞腫ヲ缺クベシ。

豫後 良好ニシテ晩年自ラ治スルコトアリ療法ハ奏效スルモノナク又必要モナシ蓋シ皮膚ノ過敏性(癬癢及皮膚表記症)ハ通例哺乳期ニノミアリテ且ツ其存スル時期ハ往々甚ダ短カケレバナリ。

急性限局性浮腫 *Oedema cutis circumscriptum acutum.*

巨大蕁麻疹又限局性蕁麻疹 (*Riesenturtscaria, U. circumscripta*) トモ云ヒ皮膚及粘膜ニ手掌大ニモ及ブ大ナル蕁麻疹腫脹ヲ來ス疾病ニシテ支那、臺灣及ビ日本内地ニアリ小兒モ稀ニ之ニ侵サルハ左ノ一例ニテモ知ラルベシ。
患者高橋某滿六ヶ月ノ男兒、東京府下板橋ニ生ル。一ヶ月前耳ノ後部ニ手掌大腫脹ヲ來シ輕熱アリ爾後肩及ビ前膊手等ニ手掌大腫脹ヲ來シ約五日ニシテ痕跡ナク消散セリ。

第九章 小兒蕁麻疹樣苔癬 Lichen urticatus

infantum 一名「ストロフォルス」Strophulus

ウキラン及ビベートマン Wilan u. Batemann 氏ハ本症ガ小結節ヲ發生スルヲ以テ苔癬ノ一トシ此病名ヲ下セシモ眞ノ苔癬ニハアラズ何者苔癬ハ結節ヲ以テ終始シ決シテ小水疱又ハ膿疱ニ變ゼザルモノナレバナリヘブラ及カボシー Hebra 氏 Kaposi 氏ハ多形滲出性紅斑ノ一トシ滲出ノ増加ト共ニ紅斑ハ隆起シテ小結節トナリ更ニ増大シテ蕁麻疹樣トナレバ之ヲ蕁麻疹樣紅斑又ハ苔癬ト謂フト云ヘリ (Erythema urticatum oder Lichen urticatus 然レドモ本症ハ寧ろ蕁麻疹及ビ痒疹ニ近ク殆ド其中間ニ位スル一種特別ノ皮膚病ト見做スベキモノ、如シ故ニ多數ノ學者ハ本症ヲ小兒期ノ丘疹性蕁麻疹 Urticaria papulosa oder Urticaria chronica infantum トシ或ハ小兒ノ痒疹 Varicella prurigo oder Prurigo infantilis トセリ

症候

幼弱ノ小兒ニ多キ皮膚病ニシテ生後三ヶ月ヨリ一二歳ノ間ニ發シ殊ニ齒牙發生ノ際ニ好發スレドモ何等原因的關係アルニアラズ症候ハ粟粒大乃至豆大ノ淡赤色又ハ淡黄色ノ小結節散在性ニ發生シ劇痒アルヲ以テ往々

經過

搔破セラレ血痂ヲ被ル又小結節ノ先端小水疱又ハ膿疱ニ變ズルコト尠カラズ斯クテ數日ヲ經テ痕跡ヲ止メザルカ若クハ搔破痕跡色素沈著乃至小癩痕ヲ貽シテ消散スレドモ新疹ヲ逐次續發シ或ハ一旦治スルモ再發常ナク經過數週數月ニ互ル然レドモ通例ハ四五歳ニ至レバ自ラ治癒シテ再發

自覺症—劇痒

セズ若シ緩慢治セザレバ痒疹ニ移行スルコトアリ。全身症狀害サレズ發熱ナキモ瘙癢劇烈ニシテ殊ニ夜間ニ増劇スルヲ以テ安眠ヲ得ズシテ榮養ヲ損スルモノモナキニアラズ然レドモ概シテ皮膚ノ變化輕微ニシテ縱令頻々再發スルモ皮膚常ニ柔軟ニシテ痒疹ニ於ケル如

原因

キ淋巴腺腫脹竝ニ皮膚ノ肥厚ハ之ヲ來サズ。部位ハ手足前膊ノ伸側大腿臀部軀幹ニシテ顔面ニ少シ痒疹ノ如ク季候ト關係アリ或者ハ夏季或者ハ冬季ニ發疹スルヲ訴フ。原因ハ蕁麻疹及ビ痒疹ト均シク不明ナリ自家中毒齒牙發生胃腸障礙榮養過度貧血尙僕病遺傳微毒腺病等ヲ原因トスルモノアレドモ恐ク誘因ニ過ギザラン唯一家族ニ於テ同胞相續デ本病ニ罹ル場合多シ(土肥氏)ト云フ貧民ニ多シト云フモ本邦ニテハ上中流ノ子弟ニ却テ多キガ如シ。

診断

診断 痒疹モ幼年ニ發病シ初期ニハ通例ノ蕁麻疹ヲ發スル故到底此時期ニハ本症ト鑑別シ難キモ暫ク經過ヲ觀察セバ痒疹ハ硬靱ノ小結節ヲ四肢伸側ニ發シ皮膚肥厚シ淋巴腺腫脹シ壯年ニ至ル迄治セザルニヨリ小兒若癬ト異ルヲ知ルベシ蕁麻疹ハ扁平ニ隆起シ本症ハ牛球形ノ隆起消散速ニシテ水疱膿疱トナルコト稀ナリ水痘ハ熱發アリ經過速ニ發疹ニシキ痂皮黒ク瘡痒少シ疥癬ハ一定部位アリ疥癬蟲道アリ傳染性膿疱疹ハ裸露部特ニ顔面ニ好發シ瘡痒少ク水疱大ニシテ内容中ニ細菌アリ。

療法

療法 蕁麻疹及ビ痒疹ニ同ジ即チ先ヅ下劑及ビ腸ノ制腐藥(ザロール、硝蒼等)ヲ與ヘ貧血ニハ亞砒酸及ビ鐵劑ヲ投ジ外用トシテハ「カンフル」丁幾、二%「サリチル」酸酒精、〇.五%「チモール」酒精、一%石炭酸酒精等ノ止痒藥ヲ塗布シ或ハ一%石炭酸亞鉛華糊膏ヲ塗布シ稍重キハ二%「ベタナフトール」膏ヲ薄ク塗布シ亞鉛華澱粉ヲ撒布スベシ溫浴ハ殊ニ推奨スベシ即チ「リゾール」浴(二浴二〇)硫黃浴ヲ可トス又食鹽水ノ灌腸モ可シ。

第十章 痒疹 Prurigo (Hebra)

本邦ニ於テハ甚ダ多キ皮膚病ノ一ナレドモ國ニヨリ多少アリ獨、埃ニ多ク英佛ニ少ク殊ニ米國ニハ殆ド之ヲ見ズト云フ。

モーター (Meyer)	皮膚病患者	一五二七四名 中	痒疹患者	一四〇名 〇.九二%
東京醫科大學 (1899-1900)	皮膚病、花柳病、泌尿器病者	二二五四四名 中	同	七九九名 〇.三・五四%
京都醫科大學 (1903)	同	一八三一名 中	同	六三名 〇.三・四四%
太田英一氏	同	八二五二名 中	同	五六三名 〇.六・八二%
著者 (1910-1913)	皮膚病患者(花柳病、泌尿器病ヲ除ク)	三九五六名 中	同	六三名 〇.一・五九%

本邦内ニ於テモ頻度斯ク一様ナラザレドモ他國ニ比シ甚ダ多キ皮膚病ナルハ疑ヲ容レズ但前表中東京醫科大學ノ統計ニハ痒疹性濕疹ヲ加算セリ。本症ハ乳兒期ニ始リ壯年ニ至ルモ猶ホ治愈セザル慢性ノ皮膚病ニシテ一定ノ部位ニ硬靱ノ小結節ヲ發スルコト及ビ劇烈ナル瘡痒アルヲ特徴トス。發病ハ早ク既ニ生後八ヶ月乃至一年ニアリト雖、始メニハ特有ハ微候ナクシテ小兒蕁麻疹様若癬ヲ四肢軀幹ニ均等ニ散發スルノミ年、齡二歳ニ達セバ此蕁麻疹ニ特有ハ小結節ヲ交ヘ爾後年齒長ズルト共ニ逐次蕁麻疹ヲ減ジテ小結節ヲ加ヘ遂ニ三歳乃至四歳ノ終ニハ小結節ノミヲ發スルニ至リ、部位モ亦痒疹特異ノ部位、即チ四肢ノ伸展側ニ限局スルニ至ル但シ小兒蕁

特徴 幼年ノ發病、結節、慢性、部位、過季節、關係、症候

麻疹様苔癬ハ悉ク痒疹トナルニアラズシテ其多數ハ爾後ノ變化ヲ來サズシテ治癒スルコトハ既ニ記述セルガ如シ。

痒疹性小結節 Prurigo knötchen ハ本症ニ固有ノモノニシテ扁平ニ隆起シ質硬韌ナリ大サ帽針頭大乃至麻實大ニシテ淡紅色又ハ皮膚ト同色ヲ呈シ視診ヨリモ寧ろ觸診ニヨリ其存在ヲ知り得ベシ此結節ハ烈シキ搔痒ヲ伴フガ故ニ直ニ搔破セラレテ上皮剝離ヲ來シ次デ頂點ニ小血痂ヲ固著スベシ若シ搔破セラレザレバ頂點ニ小水泡或ハ膿疱ヲ頂クニ至ル此小結節ハ數時間乃至數日ノ後帶黃褐色ノ著色若クハ小癩痕ヲ留メテ治癒スト雖他ニ陸續新疹ヲ發生シ種々ノ續發症狀ヲ起ス。

續發症狀ハ搔破ニヨル上皮剝脫ト其際ノ出血ニヨル色素沈著竝ニ化膿菌ノ侵入ニヨル單性膿疱疹深膿疱癰腫ノ發生ト小癩痕ノ形成ノ外濕疹様變化 Ekzematization 苔癬様變化 Lichenification 殊ニ淋巴腺腫ヲ主要ナルモノトス又經過中腎臟炎ヲ發スルモノアリ但シ其發生ハ恐ク膿疱疹ノ存在ニモ因ルベキモ(土肥氏)治療法ノ巧拙モ與テカアルガ如シ。
淋巴腺腫ハ好發部位ニ接セル股腺鼠蹊腺ニ好發スルヲ以テ痒疹性横痃

Prurigo tuberosa ノ稱アリ慢性ニ腫大シ鶏卵大鴉卵大ニモ達スレドモ疼痛ナク化膿スルコトモ亦極メテ稀ナリ其發生ハ下肢ニ於ケル上皮剝脫面ヨリ病芽ヲ吸收スルニ由ルベシ次デ肘腋腋窩腺モ數腫脹スルコトアリト雖前者ノ如ク著カラズ。

苔癬様變化トシテ皮膚乾燥シ肥厚浸潤シテ硬ク緊張シ皮丘及ビ皮溝粗大トナリ移動シ易カラズ表面甚シク粗糙トナル濕疹様變化ハ痒疹ニ續發シ又合併シ其炎症性滲潤ハ一層皮膚ノ肥厚ヲ甚シカラシメ時トシテ濕疹様



七 痒疹

變化高度ニシテ痒疹ハ症狀ヲ隱蔽スルコトアリ之ヲ痒疹性濕疹 Eczema pruriginosum ト云フ此濕疹ハ痒疹ノ好發部位ニ發シ關節屈曲面及ビ顔面中央ヲ侵サズ皮疹ノ境界モ割合ニ明劃ナレバ普通ノ濕疹

ト能ク鑑別シ得ベシ但シ痒疹ノナキ部ニ濕疹ヲ來スコト必シモ無キニアラズ。

痒疹ヲ經過殊ニ病變ノ度合ニヨリ輕症痒疹 Prurigo mitis 及ビ重症痒疹 Prurigo maligna 二種ニ別ツヲ得ベシ重症ニアリテハ痒疹結節ノ發生絶エズ且其數多ク全身殆ド侵サレザルナク皮膚乾燥粗糙ニシテ毳毛ヲモ存セザルニ至ルベシ。

好發部位

好發部位ハ四肢ノ伸展側就中下腿ヨリ上腿ニ及ビ輕症痒疹ニテハ往々下腿ノ伸展側ニ止ルコトアリ次デ前膊上膊ニ及ビ重症痒疹ニテハ薦骨部ヨリ全軀幹ニ及ビ頸部及ビ顔面モ亦免ルコト能ハザレドモ有毛頭部關節屈面膝胸窩鼠蹊肘窩腋窩手掌足蹠ハ侵サレザルヲ常トス。

發生及ビ經過

發生及ビ經過ハ幼時ニ始リ甚ダ稀ニハ少年期ニ發病シ病勢弛張シツ終生治癒セザルモノアレドモ多クハ一旦思春期ニ増悪シ遂ニ三十歳前後ニ至レバ治癒ス麻疹種痘次デ猩紅熱痘瘡百日咳ノ後ニハ本症ヲ發生シ或ハ之ヲ増悪スベシ東氏ニヨレバ患者六十三名中二十九名ハ四六〇三%ハ麻疹後ニ發生セリト云フ。

夏期痒疹及ビ冬期痒疹

本症ハ季節ニヨリ著ク病勢ニ弛張アリ歐洲ニアリテ冬期ニ増悪スルモノ即チ冬期痒疹 Winterprurigo 多シ(Lesser, Jacobi, etc.)ト雖邦人ニアリテハ夏季ニ増悪シテ冬期ニ輕快又ハ消散スルモノ即チ夏期痒疹 Sommerprurigo 多キハ疑ナキ所ナリ又往々春秋二季即チ草萌ユ草枯レ時ニ發疹ヲ訴フルモノアリ鴈來瘡ノ名アル所以ナリ 東西痒疹ノ種類ヲ異ニスルハ室溫ノ異同アリ即チ洋風ガニガサ 家屋ハ能ク氣溫ヲ調節シ冬季ニモ夏季ヨリ溫暖ナル室溫ヲ保タシムルヲ以テ冬期痒疹ハ歐洲人ニ多シトノ説アリ(東氏)

東京大學	京都大學	著者	太田氏
夏期痒疹 五四五人 七三・六五%	五八人 九二・〇六%	四〇人 六五・五七%	五七七%
冬期痒疹 一九五人 二六・三五%	四人 六・三五%	二人 三四・四三%	四二・三%
終年型	一人 一・五九%		
計	七四〇人	六三人	六一人

原因

原因 痒疹ハ其本態蕁麻疹ニ近キモノナルハ其初期症狀ニヨリテモ治療上所見治療セバ速ニ治癒シ一旦治スルモ直ニ再發スニヨリテモ將タ又其組織的變化ニ徴シテモ想像スルニ餘リアリ(Kaposi, Richl)即チ新鮮ナル痒疹結節ハ眞皮ノ上層殊ニ乳嘴體ニ於ケル僅微ノ細胞浸潤血管及ビ淋巴管ノ

擴張竝ニ浮腫ヲ現ハスコト殆ド尋麻疹ニ同シ(Lesser, Rich)爾他ノ種々ノ變化ハ續發症狀ニ過ギザルナリ。

從テ尋麻疹ノ眞ノ原因不明ナルガ如ク痒疹ノ原因モ亦不明ナレドモ一種ハ自體中毒ナラントハ説最モ勢カアルモハ、如シ(殊ニ Tommasoli, Besnier 氏等ノ熱心ニ唱フル所)ヤダスソシ Jassohn 氏モ痒疹症候ハ種々ノ刺戟外部竝ニ自體中毒ニヨルニ對スル特異質 Idiosynkrasie ノ發現ナリトセリフンゲル及ビフロインド Finger u. Freund 氏ハ腸ノ腐敗產物ニヨル自體中毒ナリトシ尿中ニ「インドール」スカトール等ノ增量ヲ認メ牛乳食餌及ビ「メントール」ノ内用ニ全治セシメタリトイフモ猶ホ痒疹一般ノ原因トシテハ盡サザル點アリ別ニクライビヒ Kreibich 氏ハ組織的所見ニ基キ痒疹ハ慢性交感性反射神經症 chronische sympathische Reflexneurose ナリトノ説ヲ懷抱ス要スルニ皆假定説ニ過ギズ。

瘙痒ト小結節ハ發生トハ何レガ先キナリヤ、佛國學派ハ瘙痒先ヅ發シ搔破ノ結果小結節ヲ續發ストナシ(Jacquet)獨逸學派ハ本症ノ樹立者ヘブラ氏ノ説ヲ固守シ即チ痒疹小結節ヲ原發トシ瘙痒ハ其爲ニ起ルトナセリ後説恐

ク信ニ近カルベシ。

遺傳的關係ハ未ダ明ナラザルモ同胞ニ罹病者多キコトアリ但シ東氏ハ六三名中正確ニ血族の關係ヲ證明セシハ僅ニ八名(一二・五四%)ニ過ギザリキ結核患者ノ子ハ痒疹發生ノ傾向(Kaposi, Hebra)アリト説クモノアレドモ之ニ反スル事實モ亦尠カラズ吾人ハ大約半數位ニノミ兩親ノ結核ヲ認ムルニ過ギズ恐ラク密接ノ關係ハアラザラン (Jassohn) 男女ノ關係ハ男子ニ多キハ東西共ニ同ジト雖、歐米ニ於テハ一般ニ下級社會ニ多シトスルニ反シ本邦ニテハ社會ハ各階級ヲ通ジテ發生スルヲ見ル小兒ノ榮養不良、腺病質、淋巴性體質ハ原因ニハアラザルモ既發ノ痒疹ニ惡影響ヲ及ボスベシ殊ニ榮養障礙、貧血、身體及ビ精神ノ發育不良ハ果シテ痒疹ノ發生ヲ促スヤ或ハ又其結果タルヤ疑フベキナリ。

東京大學

京都大學

著者

太田氏

男	四八二人 〓 六〇・三%	四三人 〓 六八・二五%	三八人 〓 六〇・三%	四四・七%
女	三一七人 〓 三九・七%	二〇人 〓 三一・七五%	二五人 〓 三九・七%	五五・二%
計	七九九人	六三人	六三人	

豫後

豫後。小兒蕁麻疹若癩ハ時ニ痒疹ニ移行スルコトアルニ注意スベシ既發ノ痒疹ハ難治ナレドモ生命ニ危険ナク唯重症ノモノハ痒疹劇烈ニシテ不眠及ビ榮養障礙ヲ來スコトアルノミ適當ノ治療ニヨリテ痒疹症狀殊ニ濕疹様變化ヲ迅速ニ消散セシムルヲ得。

鑑別

鑑別。小兒蕁麻疹様若癩トノ鑑別ハ前章ヲ参照スベシ蕁麻疹ハ部位不定、發疹ハ速ニ消散スル性ヲ有シ後チニ痕跡ヲ留メズ其發生ハ季節ト關係ナク淋巴腺腫ヲ缺ク疥癬ハ部位屈側ニシテ痒疹ト相反ス蟲道アリ濕疹ハ屈側ニ好發シ痒疹性小結節ヲ缺ク猶ホ症候條下參照スベシ皮膚瘙癢症ハ部位不定ニシテ瘙痒ヲ覺ユルノミ一ノ皮疹ヲモ存セズ魚鱗癬ニハ炎症及ビ瘙痒ナク下肢ヨリモ病變上肢ニ強シ。

療法

療法。貧血虛弱ノ小兒ニハ肝油、亞砒酸、鐵劑アルセンフェラト、トリーセ、沃度鐵、舍利別、法列兒水等ヲ與ヘ榮養ヲ高ムベク又往々胃腸障礙アルモノナレバ先ヅ之ヲ治スベシ例ヘバ一日三回「メントール」〇一ヲ與ヘ勉メテ牛乳ヲ攝取セシムル (Finger) 如キモ亦可ナラン且ツ茶、咖啡等刺激性食物ヲ禁ズ氣候療法殊ニ發疹期ニ轉地スルハ賞揚スベキモ、症候ヲ輕快スルノミ全治ヲ期シ難シ夏期痒疹

ハ山地ヲ冬期痒疹ニハ海濱ヲ選ムベシ。

ジモン Simon 氏ハ「ピロカルピン」注射ヲ可トシ大人ニハ一%水溶液ヲ一〇小兒ニハ〇・二—〇・五ヲ注射セバ四五回乃至二十回ニテ治癒スト云フモ本法ニノミ信賴シ得ザルヲ感ズ又小兒ニハ「ヤボランジ」舍利別ヲ一—二小兒匙宛内用セシムベシト云フ。

副作用多キ「ピロカルピン」ヨリモ小兒ニアリテハ同一ノ效力アル「溫泉療法」ヲ採ル方得策ナリ、硫黃浴ハ最良ナレドモ鹽類泉ニテモ可ナリ轉地セズトモ毎日「リゾール」浴、硫黃浴、糠浴ヲナシ發汗ヲ促ス時ハ治機ヲ促進スベシ。

安知必林、臭素劑、エルゴチン等應用セラルレドモ卓效ハ之ヲ認メ難シ。局處療法トシテ土肥氏、麥硫軟膏、ウキルキンソン氏膏、カボシー氏膏ヲ薄ク塗擦シタル後チ十分ニ亞鉛華澱粉ヲ撒布スベシ五—一〇%硫黃軟膏モ亦用ヒラル、コトアリ強キ皮膚炎ヲ合併セバ先ヅ一〇%ツメノール亞鉛華泥膏ヲ用ヒ炎衝消散セバ上記ノ軟膏、泥膏ヲ適用スベシ。

カボシー氏膏 (Ung. Naphtholi composit. Kaposi)

「メタナフトール」一—二—五—一〇〇 加里石鹼 三〇〇

白堊末

一〇〇 豚脂

七〇〇

小兒ニハ通例「ナフトール」一—二%ノモノヲ用フ約二三週間ハ持長スベシ、但シ本劑及ビ爹兒ヲ含メルハ腎臟炎ヲ發生或ハ増悪スル虞アリ注意ヲ要ス皮膚ノ浸潤強キニハ爹兒浴モ應用シ得ベシ約三十回持續ス又東氏ハ「デジンフエクトール」及ビ「ナフタラン」等分ノモノ、塗擦ヲ推奨セリ。

第十一章 疱疹 及ビ天疱瘡

Pemphigus

一、單純性疱疹 Herpes simplex

本症ハ發生部位ニヨリ陰部疱疹 H. progentialis 及ビ顔面疱疹 H. facialis ノ二種トス前者ハ殆ド全ク大人ノ男子ヲ侵シ小兒ニハ稀有ニシテ僅ニ大人ノ百分ノ一ニ過ギズ 大人患者一—三人ニ對シ小兒一人(東京大學)乃至大人七十九人ニ對シ小兒一人ノ割合ナリ(宮城病院)然レドモ顔面疱疹ハ割合ニ數、小兒ヲ侵シ口圍、鼻或ハ頬ニ帽針頭大ノ小水疱群ヲ發生シ紅暈アリ數日ニシテ自然ニ乾燥シ結痂シ癢痕ヲ結バズシテ治癒ス、口腔粘膜ニモ發生ス

陰部疱疹

顔面疱疹

疱疹熱

症候、亞布答ニ類シ疼痛アリ、發生ノ原因不明ノモノモ多シト雖往々熱性病殊ニ肺炎及ビ流行性腦脊髓膜炎ノ際之ヲ來タシ又口峽炎、急性氣管枝炎、傳染性腸加答兒、丹毒、間歇熱、流行性感冒ニモ之ヲ見ルコトアリ(熱性疱疹 Herpes febris)所謂「疱疹熱」(Febris herpetica)ハ小兒ニ多キモノニシテ素ト、發熱ト、水疱發生ノ外ニハ何等ハ變化ナキモノ、稱ナレドモ斯ルモノヲ精査セバ他ニ原因タルベキ疾病ヲ發見スルコトアリ診斷上膿疱疹ニ類スレドモ本症ハ經過速ニ(一週間以内)小水疱群集シ痂皮小ニシテ薄シ、治方ハ散布劑。

二、帶狀疱疹 Herpes zoster

小兒ノ帶狀疱疹ハ獨逸ニハ稀ナルモ本邦殊ニ東北地方ニ於テハ必シモ稀ナラザルガ如シ十五歳以下ノ小兒ノ罹病七名ハ全數(四十二名)ノ六分一ニ當リ内二人ハ五歳未滿二人ハ

八 帶狀疱疹 圖



疱疹及天疱瘡

大人ノ帶狀
疹ト異ル點

十歳未滿ナリキ但シ最年少ノ患者ハ生後十ヶ月ノモノナリシト云フ (The-
nas) 東京大學統計ハ帶狀疱疹患者六十八例中小兒十五人ヲ示セリ。
小兒帶狀疱疹ノ特殊ノ點ハ倦怠熱神經痛等ノ前驅症及ビ伴發症狀ノ比較
的輕微ナルカ缺如スルコトニシテ殊ニ疼痛ハ十歳以上ノ小兒ニノミ現ル
ルヲ通例トス部位ハ肋間帶狀疱疹最多ク四肢ニハ少シ。

三、天疱瘡 Pemphigus

特徴
水疱ノ發生
緩慢ナル經
過原因不明
部位不定
全身症狀著
明

本症ハ則チ慢性天疱瘡 Pemphigus chronicus ノ謂ニシテ水疱ノ發生ト經過ノ
緩慢ナルヲ特徴トス急性天疱瘡ナル稱呼ハ存スレドモ其實ハアラズ何者
初生兒急性天疱瘡ハ傳染性膿疱疹ニシテ爾他ノ急性天疱瘡ハ敗血症膿毒
症ニヨル症候的又ハ中毒性紅斑ニ外ナラザレバナリ。
本症ハ原因全然不明ニシテ發疹部位不定ニシテ皮膚ノ外粘膜モ亦侵サレ
全身症狀著明ナルコトモ注意スベキ點ナリ一般ニ稀有ノ疾病ニシテ小兒
ニハ猶ホ稀ナリ通例十歳以上ノ小兒ニ發シ其以下殊ニ乳兒ニハ殆ド之ヲ
見ズ全身症狀割合ニ少ク終始水疱ノ發生ニ止ルモノ即チ尋常性天疱瘡 P.
vulgaris 或ハ水疱小ニシテ癢痒アルモノ即チ癢痒性天疱瘡 P. pruriginosus ノ

特徴
多形
群簇
癢痒
豫後
良

二種ハ小兒ニ發スルコトアレドモ所謂惡性天疱瘡實扶的里性増殖性及ビ
葉狀天疱瘡ハ極メテ稀ナリ我教室ニテハ六年間ニ未ダ一名ノ小兒ノ天疱
瘡ヲ見ズ東京大學ニテハ十四例中三人ハ十五歳以下ナリキ。
四、ヂェーリング氏疱疹狀皮膚炎 Dermatitis herpetiformis Dühring
多形(紅斑)尋麻疹、小結節、大小水疱及ビ膿疱ニシテ明ニ群集シテ輪狀ヲナシ
灼熱癢痒甚シク豫後頗ル良好ナル天疱瘡ノ一變態ニシテ小兒ニモ必シモ
稀ナラズト云フ。

五、先天性表皮水疱症 Epidermolysis bullosa hereditaria Köhner

先天的ニ水疱ヲ發生シ易キ性質ヲ享受セルモノガ輕微ノ機械的刺戟例へ
バ叩打、壓迫殊ニ摩擦ヲ受ケテ水疱ヲ發生スル稀有、奇異ナル皮膚病ナリ從
テ皮膚ヲ摩擦セバ隨意ノ形狀及ビ大サノ水疱ヲ隨所ニ造ルヲ得ベク殊ニ
該部ヲ熱湯ニ浸セバ其發生ヲ促進スベシト雖他種ノ刺戟例へバ化學的刺
戟或ハ光線電氣等ノ爲ニハ格別ノ影響ヲ蒙ラズ發泡膏等ニハ寧ロ常人ヨ
リモ遅ク弱ク反應スルハ一奇トスベシ水疱ハ刺戟ヲ受ケテ後チ十五分乃
至數時間ニシテ完成シ内容透明ナルモ血液ヲ含ムコトモナキニアラズ炎

症候

性紅暈ナク化膿モ稀ニシテ數日ヲ經バ痕跡ナク或ハ色素ノ沈著或ハ消耗ヲ殘シテ治癒スレドモ或種ノモノハ皮膚萎縮シテ菲薄トナリ爪甲ノ變質脱落ヲ來スコトアリ部位ハ外傷ヲ受ケ易キ手足指趾肘膝項部ヲ最トシ口腔舌咽頭等ノ粘膜ニモ發スルアリ

發病ハ早ク既ニ小兒出生時又ハ生後七日ニ水疱ヲ生ズルモノアレドモ多クハ一ヶ月乃至滿一年以内ナリ又思春期以後ニ輕快スルモノアリ一般ニ夏期ハ冬ヨリモ水疱ヲ發シ易シ原因ハ不明ニシテ皮膚上皮層ノ先天的ニ剝離シ易キ性質(Akantholyse, Keratolyse)アルニヨルカ又ハ蕁麻疹ノ如ク血管運動神經ノ障礙ナルカ斷定シ難シ但シ往々遺傳ヲ徵シ甚シキハ一家五代六十五人ノ家族中三十一人ノ患者アリタリト云フ(Bonauit)概シテ男子ニ多シ生命ニ危險ナキ病ナレドモ職業ニヨリ之ヲ廢セザルヲ得ザルコトアリ本邦ニ於テモ土肥井澤氏ノ報告以來伊東坂口氏等數例ノ報道アリ鑑別スベキハ天疱瘡ナレドモ本症ハ先天的ニシテ水疱發生ニハ刺戟ヲ要シ全身症狀ナキコトニ據リ識別シ得ベシ療法ハ外傷ヲ豫防シ水疱ニハ防腐處置ヲナシ内用ニハ亞砒酸ヲ試ムベシト雖著效ハ期シ難シ

原因

診斷

療法

症候

六種痘樣水疱症 Hydraa vacciniiforme Bazin

幼弱ノ小兒殊ニ二歳乃至五歳ノ乳兒ガ日光ノ照射ヲ受ケテ發スル慢性皮膚病ニシテ三四十歳ニ至リ始メテ治癒スベシ此期間ハ毎年冬季ニハ一旦皮疹消散スルモ溫暖ノ季節殊ニ春夏ノ候トナレバ日光中ノ化學的有力ナル放射線ノ爲ニ裸露部即チ顔面(就中鼻頰耳手膊及項部ニ發疹ス)夏期水疱疹又ハ夏疹 Hydraa aestivalis, Sommereruption ノ別名アル所以ベク甚シキハ被覆部及ビ粘膜(口脣口腔結膜角膜)ヲモ侵スニ至ル皮疹ハ扁豆大乃至榛實大ノ蠟白色或ハ帶紫色結節ニシテ紅暈ヲ周ラシ硬靱ナリ退行ニ傾クヤ中央ニ水疱ヲ生ジ次デ乾固シテ淡黃乃至黑褐色ノ痂皮ヲ結ビ稍陷凹シ種痘ノ痘疱ニ似タリ痂皮脱落セバ境界明劃ナル白色癍痕ヲ結ビ外觀痘痕ニ類ス重症ニアリテハ周圍ニ結節或ハ水疱ヲ新生シ近隣ノモノト相融合シ組織缺損大トナリ外貌ヲ損スルコト甚シカルベシ自覺症ハ存否不定ナルモ數癢痒灼熱アリ全身症狀熱倦怠惡寒頭痛嘔吐ヲ往々之ヲ伴フコトアリ各疹ノ經過ハ約三週ナレドモ日光照射ノ反復ニヨリ夏期中新疹ヲ續生シテ息ムコトナシ組織上ニハ深キ炎衝性病變血管ノ擴張ト栓塞及ビ皮下ニ達スル

原因

療法

原因ハ先天的素質アルモノニ日光ノ短波光線、レントゲン線ノ紫外光線作用シテ本症ヲ來スモノナリ但シ本症ハ同一家族ニ多發スル場合少ケレバ遺傳ノ關係ハ餘リ重大ニハアラズ發疹中「ヘマトボルヘリン」尿ヲ發シ實驗的ニハ石英燈照射ニヨリ同一ノ變化ヲ來スガ故ニ本症ノ發生ニハ赤血球ノ傷害關與スベキモ其間ノ關係未全ク明カナラズ。

豫後ハ良好療法ハ日光ノ照射ヲ避ケ褐色ノ薄紗ニテ覆面シ或ハ「キニーチ」水溶液明礬溶液或ハ「クルクマ」劑（クルクマ₂・₃・₄）白陶土「グリセリン」「デキストリン」溜水各一七五ヲ塗布シ局處療法トシテハ軟膏ノ貼用。

第十二章 皮膚絲狀菌病 Dermatomykosen.

絲狀菌ノ寄生ニ因テ發スル主要ナル疾病ハ黃癬、白癬、癩風 Pityriasis versicolor 及ビ紅色陰癬 Erythrasmaノ四種ニシテ前二症ハ小兒ニ好發スルニ反シ後ノ二症ハ殆ド小兒期ニ於テ之ヲ見ズ、稀ニ成長セル小兒ニ發スレドモ症狀、經過等毫モ大人ニ於ケルト異ナラズ松浦氏及ビ著者ガ各々別ニ報道セル新

癩風、紅色陰癬、及圓形癬、稀ナリ

類度

皮膚病即チ圓形癬 Pityriasis circinata、恐ク皮膚絲狀菌病ノ一ナルベシト雖未ダ其原因ヲ明ニセズ中野氏發見ノ絲狀菌ガ果シテ其原因菌ナルヤ猶ホ後日ノ研究ヲ要ス、但シ三十歳以上ニ好發シ小兒ニハ甚ダ稀ナルガ如シ。

東京大學皮膚科統計(1899—1909)ニ據レバ患者總數四一九八三名中寄生性皮膚病患者ハ三六四名ニシテ皮膚絲狀菌病ハ寄生性皮膚病全數ニ對シ六七%ヲ占メ就中白癬(五〇・六%)、癩風(八九%)、ジベル氏薔薇色癬(二%)、黃癬(二%)ハ其主ナルモノナリ京都大學統計(1903—1909)ニヨレバ患者總數二三〇三七名中寄生性皮膚病一八一六名ニシテ七八八三%ニシテ皮膚絲狀菌病ハ寄生性皮膚病全數ニ對シ六七%ヲ占ムルコト正ニ東京大學統計ニ一致ス就中白癬(四一%)ハ其最タリ三井慈善病院皮膚科統計(1909)ニ據レバ純皮膚病九〇七名中寄生性皮膚病一四三名ニシテ六%ニシテ其内疥癬最多數ヲ占ムルハ著ク他ト異ル皮膚絲狀菌病中ニテハ白癬其四分ノ三ヲ占ム宮城病院ニテハ花柳病及ビ泌尿生殖器病以外ノ純皮膚病者三九五六名中寄生性皮膚病六一〇名ニシテ一五・四三%ニシテ皮膚絲狀菌病ハ四三五名即チ寄生性皮膚病全數ニ對シ七一・三一%ヲ

占メ殆ド東京大學統計ニ近シ就中白癬三七〇名〓六〇六六%、癩風三九名〓六三九%、ジベル氏蔷薇色糠枇疹一名〓一八%ハ其主要ナルモノニシテ「ビエドラ」六名〓〇九八%圓形枇糠疹五名〓〇八二%、黃癬二名〓〇三三%之ニ次グ。

但シ斯ル統計數ハ實際ノ罹病數ヨリモ遙ニ少數ナルベシ何者寄生性皮膚病ハ直接生命ニ危害ナキヲ以テ放置シテ顧ミズ或ハ殊更専門家ヲ訪ハザルモノ多ケレバナリ。

黃 癬 Favus (Erbgrind)

シ・ン・ラ・イン氏 (Schönlein, 1839) 發見ノ黃癬菌 Achorion Schönleini ノ頭部、爪、甲稀ニハ毳毛部皮膚ニ寄生スルニ因テ發スル皮膚病ニシテ菌ノ集落即チ黃癬甲 Favus Scutulum ノ形成ヲ其特徴トス。

黃癬甲ハ初メハ毛髮ヲ中心トセル帽針頭大硫黃色ノ斑點トシテ表皮角質内ニ存スレドモ増大シテ豆大或ハ貨幣大トナレバ邊緣先ヅ皮膚面ヨリ隆起シ且露出シ遂ニハ全部ヲ暴露スルニ至ル其形皿狀ニシテ上面ハ廣クシ

特徴
黃癬菌
部位
頭部
髮毛
ニ
寄生
スル
ニ
因テ
發スル
皮膚
病
ニ
シテ
菌ノ
集落
即チ
黃癬
甲
Favus
Scutulum
ノ
形成
ヲ
其
特徴
トス。

九 癬 黃



テ陷凹シ下面ハ狭クシテ凸隆ス黃癬甲ハ脆弱破碎シ易キ粉末狀物ハ團塊ニシテ之ヲ表皮ヨリ剝離セバ底面ハ濕潤シテ淡紅色ヲ帯ビ稍陷沒スルモ直ニ通常ノ皮膚面ニ復ス是レ黃癬甲ノ壓迫ニヨリ皮膚ハ單ニ一時陷凹スルニ過ギザレバナ

リ然レドモ此壓迫ニ加フルニ眞皮ノ炎衝ヲ起スニ至レバ乳嘴體萎縮シ皮膚菲薄癩痕様トナリ毛根モ亦破壞セララル、ニ從ヒ既ニ光澤ヲ失ヒ灰色ヲ呈シ塵埃ヲ被レルガ如キ毛髮ハ愈細弱トナリ遂ニ脱落シテ復タ再生セズ故ニ幼時黃癬ヲ患ヒタル者ハ癩痕性禿頭ノ上ニ所々縮毛ノ單生或ハ群生スルニヨリ一見識別シ得ベシ。

黃癬甲ハ初メ硫黃色ナルモ陳舊ノモノハ褪色シテ灰白色トナリ枯燥シ固有ノ鼠糞様臭氣ヲ放ツ若シ黃癬甲著明ナラザレバ患部ヲ酒精ニテ清拭ス

塔狀黃癬

落屑性黃癬

部位

瘡疹狀黃癬

ベシ痂皮ハ無色トナレドモ黃癬甲ハ著明ニ黃點トシテ現出スベシ(Ncisser) 縦合患部ノ中央ニ小甲ヲ見ザルモ周邊ニハ明ニ之ヲ現ハスコトアリ、時トシテ黃癬甲相融合シテ高サ數仙迷ノ硬固不平ナル厚痂ヲ形成ス(塔狀黃癬 F. avusturiformis) ルコトアレバ又稀ニハ黃癬甲及ビ癩痕ヲ形成セズ毛髮モ強ク害セラレザル圓盤狀斑疹ヲ造リ白色ノ鱗屑ヲ被ルモノアリ(落屑性黃癬 F. squamosus)。

本症ノ大多數ハ頭髮部殊ニ顛頂部ニ好發シ割合ニ髮際ニ少シト雖稀ニハ毳毛部即チ顔面、眼瞼、軀幹、肘、膝及ビ臀部竝ニ爪甲(特ニ手指ノ爪甲)ヲ侵シ甚ダシキハ全身ニ汎發シ或ハ食道、胃腸壁ニ生ジ嘔吐、下痢ヲ起スコトナキニアラズ(黃癬性胃腸炎、Gastroenteritis favosa Kapos) 毳毛部ニテハ頭部ノ如ク黃癬甲ヲ生ズルコトアレドモ或ハ往々鱗屑及ビ發赤ヲ有スル圓盤狀斑疹ヲ生ジ其邊緣ニ麻實大以下ノ小水疱、環狀ニ配列シ外觀、小水疱性白癬ニ類スルアリ之ヲ特ニ瘡疹狀黃癬(F. herpeticus, Köhner)ト云フ小兒殊ニ乳兒ハ皮膚軟弱ニシテ襁褓等ノ濕潤ニヨリ菌ノ繁殖甚ダシキガ故ニ黃癬甲相融合シテ厚痂ヲ成スコトナキニアラズ。

黃癬性爪甲炎

合併症

自覺症及經過

原因

爪甲ニハ黃癬甲ヲ生ズルカ或ハ單ニ爪甲全部肥厚溷濁シ粗糙脆弱トナル(黃癬性爪甲症 Onychomycosis favosa) 合併症トシテ絲狀菌自己或ハ他ノ化膿菌ノ侵入ニヨリ皮膚炎、膿疱疹、濕疹等ヲ續發スル場合アレドモ鼠族ニ見ルガ如キ著キ潰瘍形成及ビ骨ノ破壞ハ人類ニ於テハ殆ド見ザル所ナリ。

自覺症ハナキカ或ハ輕度ノ癢痒ヲ伴フ、經過緩慢ニシテ十數年ニ互レドモ獨リ毳毛部黃癬ハ治癒シ易シ。

原因 黃癬菌ノ芽胞ハ大小不同、長サ三—八μ幅三—四μニシテ大概數個乃至十數個相連續シテ鏈鎖ヲ成スモ亦稀ニ孤立セルアリ菌絲ハ短太ニシテ顆粒狀成形質ヲ有スル節ヨリ成リ廣狹不同、脂肪樣光澤ヲ帶ビ鹿角ノ如ク分岐シ其先端棍棒狀ニ膨大シ側面ヨリ出芽ス培養基上ノ集落ハ初メ灰白色ニシテ後ニハ黃色トナリ深部ニ向テ發育ス黃癬甲ニ水又ハ一五%那篤倫滴汁ヲ加ヘ細控シテ鏡檢セバ直ニ黃癬菌ノ大團塊ニ外ナラザルヲ認ムベシ。

本症ハ人ヨリ人ニ或ハ家畜(鶏、鼠、犬、猫、家兔)ヨリ人ニ傳染シ又一家族間ニ蔓延スルコトアルモ割合ニ傳染力弱ク起居ヲ同ジクスルモ傳染セザルコト

解剖

アリ蓋シ其感染ニハ一種ノ素因ヲ要スルモノナラン皮膚ノ不潔及ビ濕潤軟化ハ誘因ノ主ナルモノニシテ從テ小兒及ビ下等社會ニ多シ歐洲ニアリテハ其東西露西亞及ビ佛蘭西ニ多ク各國蔓延ノ度ヲ異ニス本邦ニテハ京阪越後越中ニ多シト云フ概シテ沿海ノ漁村又ハ山間僻地ニ散發スルノミニテ都市ニハ稀ナリ。

解剖 黄癬菌ハ常ニ毛嚢口ヨリ入りテ内毛根鞘ノ上端毛嚢漏斗ノ最狹部ニ達シ之ヨリ外方外毛根鞘ヲ經テ附近ノ表皮中ニ蔓延シ内方毛髮内ニ侵入シ其皮質及ビ之ト毛表皮トノ間ニ繁殖シ終ニ毛球ニ達シ又高ク毛幹ヲ上行スルモ決シテ毛髮ヲ斷裂スルコトナシ黄癬甲ハ菌ノ毛嚢ニ附着シテ發スルモノニシテ其中心陷凹スルハ黄癬菌増殖スルモ毛表皮角質ト膠著シ邊緣ニ於ケル如ク膨隆シ得ザルニ因ルカ(Katosis)或ハ菌ノ特殊ノ發育關係ニヨルカ(Urina)或ハ黄癬甲一定ノ大サニ達セバ中央ハ榮養不良トナリ發育セザルニヨルカ(Mibelli)明カナラズ但シ毛嚢ナキ部位(手掌、陰莖等)ニモ黄癬甲ヲ造ルコトアリ。

表皮ノ深層及ビ真皮内ニ黄癬菌侵入スルヤ否ヤハ一定セザレドモ概テ該

診断

處ニ多少ノ炎衝ヲ誘起シ黄癬甲ノ壓迫作用ト相俟テ皮脂腺次デ皮膚各部ノ萎縮ヲ招ク。

診断 小膿疱ハ往々黄癬甲ト誤リ易キモ針ヲ以テ穿刺セバ黄癬菌ノ塵芥様集團ヲ見ズシテ膿汁ヲ排出スルニ因リ識別シ得ベシ濕疹ハ痲皮軟弱鱗屑微細ニシテ濕潤アリ決シテ萎縮又ハ癩痕ヲ來サズ紅斑性狼瘡ハ黄癬ノ末期ノゴトク癩痕萎縮ヲ來セドモ紅暈著明ニシテ脂漏性ノ鱗屑ハ毛嚢ニ嵌入シ菌ヲ存セズ尋常性鱗屑ハ銀白色鱗屑アリテ毛髮脱落セズ癩疹少ク頭部ニ皮疹アル際ニハ既ニ肘膝蓋ニ固有ノ皮疹ヲ存スベク白癬ハ毛髮ノ斷片ヲ存シテ癩痕萎縮ナク鱗屑灰白色ニシテ粘糠性ナリ微毒性癩瘡ハ痲皮ヲ剝離セバ潰瘍アラハルベク菌及ビ癩痒ヲ缺ク脂漏及ビ脂漏性濕疹ハ粘糠狀微細ノ鱗屑ニシテ限局セズ萎縮癩痕ヲ來タサルニヨリ鑑別スベシ。

療法 先ヅ痲皮ヲ軟化スル爲メ油類椿油、オリーブ油或ハ二%水楊酸、オリフ油、一%ナフトールオリフ油等ヲ一日數回塗布シ或ハ蒸罨法ヲナシ或ハ一〇%硼酸軟膏ヲ貼用スベシ次ニ丁寧ニ痲皮ヲ除去剝離シ加里石鹼

療法

又ハ石鹼精ニテ洗滌スレバ表面ノ絲狀菌ハ全ク除去シ得ベシト雖猶ホ毛髮及ビ毛囊ニハ多數ノ菌ヲ存スベシ故ニ鑷子又ハ指ニテ拔毛スルヲ可トス病毛ハ割合ニ容易ニ抜キ得ベシ其後ニ初メテ殺菌藥例ヘバ五%ホルマリン水溶液ノ罨法或ハウキルキンソン氏膏或ハ五—一〇%クリサロビン軟膏(焦性沒食子酸軟膏、カボシ—氏膏等ヲ適用スベシ而シテ炎衝ヲ發セバ一時緩和ナル軟膏例ヘバ一〇%チオノールウキルソン氏膏等ヲ用ヒ炎衝去レバ更ニ殺菌藥ヲ用フ斯クテ二三ヶ月ノ後チ約二三週間治療ヲ中止シ黄癬甲ノ再發ナク又鏡檢上絲狀菌ヲ見ザルニ至テ止ムベシ。

又タ毎夕(百露、バルサム)或ハ木蓂兒二—五〇水楊酸、レゾルチン各一—五〇硫黃花五—一五〇、ラノリン、ワゼリン、豚脂各三〇〇)ヲ塗布シ翌朝石鹼ニテ洗滌シ乾燥シタル後チ(九〇%酒精一〇〇〇、結晶醋酸〇二五—一〇、硼酸二〇、クロ、ホルム五〇)ノ塗布ヲ稱用スルモノアリ(Besnier)

「レントゲン」線放射ハ頑固ナル頭部黄癬及ビ白癬ニ對スル有效ナル治療法ニシテ五分ノ四乃至全紅斑量ヲ應用ス、拔毛ハ一回放射ニテ十分ニテ大抵放射後三週間ニシテ毛髮脱落ヲ始ムベシ但シ黄癬菌ハ放射線ニ因リテ滅

殺セララル、ニ非ラズシテ毛髮ト共ニ放逐セララル、ニ過ギザル故毛髮ノ再生セル時ハ鏡檢的及ビ培養的ニ菌ノ有無ヲ検査シ必要アレバ再度ノ放射ヲ行フベシ(土肥章司氏)。

鬚髯ノ黄癬ハ頭部ト同一治方ヲ適用スベク(毛部黄癬ハ油類、加里石鹼ニテ痂皮ヲ軟化、除去シタル後チ土肥氏軟膏ヲ用ヒバ速ニ治癒スベシ)爪甲黄癬ハ小刀ニテ爪甲ヲ削リ取り水銀硬膏或ハ一%昇汞水罨法、五—一〇%クリサロビン、トラウマチ、ン或ハ(焦性沒食子酸一五)ベタナフトール(二〇、白降汞一〇、瘰癧木丁幾三〇〇)ヲ用フベシ。

「チトロン」及ビ井上氏ノ「ファビン」療法即チ殺菌セル黄癬菌ノ注射ハ特效藥ニハ非レドモ奏效スト云フ。

白癬 Trichophytic

寄生性匍行疹或ハ剪髮菌性疱疹 Herpes tonsurans ナル異名アリしらくも、はたけ、たむし、せにがさ等ノ俗稱アリ其症狀多様ナレバ左ノ如ク區別ス。

(一)(二)ハ表
在性白癬
(三)ハ深
在性白癬

(乙)ハ深在性
白癬

(一)(二)ハ表
在性白癬
(三)(四)ハ深
在性白癬

(甲)頭部白癬
Kopfrichophytie
一、小芽胞菌病(Grubysche Krankheit)
二、大芽胞菌性頭部白癬又ハ固有頭部白癬 Megalosporie oder echte Kopfrichophytie
三、蜂窠様白癬 Kerion Celsi

(乙)寄生性毛瘡(白癬性毛瘡) Sycosis parasitaria(Bartrichophytie)

一、小水疱性白癬 Herpes tonsurans vesiculosus
二、斑紋性白癬 H. t. maculosus
(丙)毳毛部白癬
Ir. der unbeharten Haut
三、毳毛部深在白癬 Trichophytia profunda der unbeharten Haut
四、頑癬 Trichophytia eczematosa marginatum
五、屋瓦状白癬 Tinea imbricata

(丁)爪甲白癬 Trichophytia unguinum

本邦ニ於ケル白癬ハ由來遠ク數百年前 醫心方西暦九百八十四年ニ白ニアリテ現時ニ至リテモ其蔓延甚シト雖其多數ヲ占ムルモノハ小兒ニ於ケル頭部白癬及ビ大人ニ於ケル頑癬ノ二種ニシテ他ノ諸種ハ遠ク之ニ及バズ殊ニ深在白癬(蜂窠様白癬、寄生性毛瘡、毳毛部深在白癬)ハ極メテ稀ニシテ屋瓦状白癬ハ臺灣諸島以外ニハ之ヲ見ズ、宮城病院ノ統計左ノ如シ。

種 類	年齡十五歲未満	年齡十六歲以上	合計及男女別	白癬總數ニ對スル百分率
頭 部 白 癬	一七一	四七	二二八 男 一七五 女 四三	五七・二二
頑 癬	七	一〇五	一一二 男 一〇六 女 六	二九・四〇
斑 紋 性 白 癬	一〇	二二	三二 男 一四 女 一八	五・七七
シメル氏蓋蓋色枇糠疹	一	一〇	一一 男 四 女 七	二・八九
爪 甲 白 癬	〇	一〇	一〇 男 三 女 七	二・六二
小水疱性白癬	四	二	六 男 四 女 二	一・五七
寄生性毛瘡	一	一	二 男 〇 女 二	〇・五三
合 計	一九四	一八七	三八一 男 三一三 女 六八	

頭部白癬 Kopfrichophytie

一、小芽胞菌病 Microsporie (Grubysche Krankheit)

直徑二—七仙迷ヲ有スル圓形ノ斑疹境界明劃其中心ハ速ニ治癒セズシテ遍ク灰白色ノ枇糠様鱗屑ヲ固著シ其上ノ毛髮ハ脱落スルコトアリ又ハ皮

症候

第十圖 頭部白癬



症候

潮紅セル輪狀ノ皮疹ヲ發シ其邊緣ニ小ナル結節、水疱、膿疱、痂皮ヲ生ズレドモ忽チ消散シテ通例認識シ難シ次デ毛髮ヲ侵シ毛髮光澤ヲ失ヒ短ク摧折

膚面上五―七密迷ノ部ニ於テ折斷スルガ故ニ患部ハ毛髮粗鬆ナルガ如キ觀アリ、熟視セバ毛髮ハ表面上三―五密迷迄灰白色ノ鞘芽胞群ナリヲ被リ往々屈曲ス炎衝症狀ハ多ク缺如シ從テ水疱及ビ膿疱ヲ形成セズ大芽胞菌性頭部白癬ヨリモ患部大ナリ觸接傳染力強ク治シ難ク再發シ易シ自覺症ハ缺如シ唯時トシテ輕度ノ搔痒アルノミ。

二、大芽胞菌性白癬或ハ固有頭部白癬 Megalosporie (Echte Koptrichophytie)

始メ皮膚面上ニ僅ニ隆起シ僅ニ落屑

症候

シ長サ二―三密迷(小芽胞菌ハ五―七密迷)ヲ出デス且ツ鞘ヲ纏ハズ斯ノ如キ病變多發セバ全頭皮ハ皮脂漏ノ如キ狀ヲ呈シ且ツ同時ニ顔面、頭部等處毛部白癬ヲ合併スルコト稀ナラズ自覺症ハ殆ド缺如ス。

三、蜂窠樣白癬又チルズース氏禿瘡 Kerion Celsi

頭部白癬時トシテ著明ノ炎衝ヲ誘發シ皮膚ハ發赤腫脹シ濕潤、糜爛、膿疱、痂皮ヲ作り直徑四仙迷、高サ二仙迷以上ニ達スル軟キ腫瘍ヲ生ジ壓迫セバ毛囊口ヨリ膿汁ヲ漏洩スルコトアリ毛髮ハ全ク脱落スルカ又ハ僅ニ斷片ヲ止ム自覺症強ク烈シキ搔痒アルノミナラズ患部ヲ觸ルレバ劇痛アリ。

頭部白癬ノ部位ハ顛頂部次デ顛顛部、額部、後頭部ノ順序トス。

本邦ニ於ケル頭部白癬ハ大多數ハ幼年ノ男兒ヲ侵シ思春期以前ニ快癒スルコト歐人ニ同ジキモ割合ニ數、大人ニ頭部白癬ヲ發ス(前記統計參照)ルハ彼地ト異ル所ナリ(Bogrow u. Tschernogubow)恐ク本邦ニハ小芽胞菌病モ大芽胞菌病モ共ニ多數ニ存在スルモノナラン從テ、症狀モ、或ハ大芽胞菌性、或ハ小芽胞菌性白癬ノ像ヲ呈スルナルベシ。大體ノ鑑別ハナシ得ベキモ菌性ノ確定ハ細菌學的検査ニ據ラザレバ確實ナラズ。

本邦ニ於ケル頭部白癬

大芽胞菌病ト
小芽胞菌病ト
ノ異同辨

白癬

一三四

大芽胞菌殊ニ其中ノ毛髮内菌ハ左ノ諸項ニヨリ小芽胞菌病ト異レルヲ見ル(一)毛髮ヲ切斷スルコト多ク脱落スルコト少シ(二)鱗屑形成及ビ髮ヲ包裹スル灰白色ノ鞘ヲ形成スルコト少シ(三)病竈ノ數多シ(四)境界明劃ニシテ邊緣堤防狀ニ隆起シ水泡環狀ニ發生スルコトアリ(五)思春期トナルモ治セズ大人ニモ發生ス(六)毳毛部、爪甲ノ白癬ヲ發スルコト多シ——小芽胞菌病ハ爪甲ヲ侵サズ水泡環ヲ造ラズ毛髮ハ脱落シ易ク切斷スルコト少ク殊ニ鱗屑ノ形成著シク灰白色ノ鞘ヲ被レルコトハ重要ノ點ナリト雖此鞘ナシトテ必シモ大芽胞菌ニ非ズト云フヲ得ズ又鞘アリトテ必シモ大芽胞菌ニ非ズトモ云ヒ難シ、小芽胞菌病ハ殆ド全部十歳以下ノ小兒ヲ侵シ思春期迄ニハ治癒スルコトハ診斷上稍、價値アリ。

年齒長ズルト共ニ自然ニ小芽胞菌病ノ消散治癒スル理由ハ壯年ニ達セバ組織或ハ分泌ノ變化ヲ來シ其結果菌ハ發育、生存ヲ妨ゲラル、ニヨルナラン且ツ髮ノ長短粗密等モ亦之ニ關與スベシト説クモノアリ(山田氏)或ハ成人ハ小兒ニ比シ遙ニ強大ナル免疫力ヲ有スルガ故ニ毒力弱キ菌——是等ノ菌ガ爪、毛髮等ニ占位スルハ此組織ニハ免疫物質ノ到達シ難

小芽胞菌病ノ
由大人ニ無キ理

頭部白癬ハ男
兒ニ多シ

本邦ノ頭部白
癬ハ大小芽胞
菌ノ孰レニ因
ルヤ

キニ因ル(楠氏)——ハ到底繁殖生存シ得ザルナリト説クモノアリ。

女兒ハ男兒ニ比シ頭部白癬ニ罹ルコト少キハ明白ナル事實ナリ蓋シ女兒ハ男兒ヨリモ傳染ノ機會殊ニ嬉戲ノ際、理髮ノ際少キコト、毛髮長クシテ菌ノ頭皮ニ附著シ難キコト、頭髮ノ修飾ヲ怠ラズ且ツ塗脂スルコト等ニ據ルナルベシ。

本邦ニハ大小芽胞菌病ハ孰レハ多キヤハ未ダ其成績一致セズ。

山田氏ノ東京附近ニ於ケル研究ニヨレバ小芽胞菌ハ七八%ヲ占メ大芽胞菌ニシテサブロー氏ノイフ如キ禿髮アリ落屑ナク黒キ點ヲ認ムルガ如キ患者ヲ見ズト。

江馬氏ノ京都附近ノ白癬ノ研究ニヨレバ臨牀上小芽胞菌ニ適スルモノ(鞘形成及斷毛ノ長サ)二十三名中三名ニ過ギズ培養上及ビ傳染力微弱ノ點ヨリ觀ルモ此地方ノ白癬ハ主トシテ大芽胞菌性恐ク噴火口狀白癬菌ニ因ルナラント。

楠氏ノ名古屋附近ニ於ケル白癬研究ニヨレバ臨牀所見ハ毛髮ハ鞘(芽胞外套)ヲ被リ境界明劃ナル或ハ不明ノ斑疹ニシテ遍ク可成著キ鱗屑ヲ被

白癬

一三五

頭部白癬ノ流行

リ毛髮ハ切斷或ハ脱落シ疹ノ大サ手掌大ニ及ブモノアリ大ニ小芽胞菌性白癬ニ類スルモノアリシニ拘ラズ皆二種ノ大芽胞菌殊ニ其中ノ毛髮内菌ニ因リテ發スルヲ認メタリ。

小學校、孤兒院等ニハ頭部白癬ノ流行ヲ來スコトアリ。

明治三十六年十月初旬板橋小學校生徒五八七名中五七名ノ白癬ノ小流行ヲ來シ當時世間ノ視聽ヲ惹キタリ百瀬學士及ビ著者親シク調査セシニ貧民ノ兒童ニ多ク上級生ヨリモ下級生ニ多ク殊ニ注意スベキハ女子ニ一名ノ罹病者ヲ見ザリシコトナリキ。

翌三十七年四谷小學校生徒九〇五名中二九名ノ白癬ヲ發シ栗田氏調査セシニ亦男生ノミナリキ高橋眞琴氏ハ盛岡市小學校八校生徒三三五三人中二三〇人即チ七%強ノ白癬學童ヲ發見シ其六二二%ハ小芽胞菌ナリキト云フ。

佛國英國及ビ伊國ニ頭部白癬多ク獨逸國ニ少キハ皆人ノ熟知スル所ナリ。

經過 ○ハ緩慢ニシテ數年ヲ經ルモ治セズ治療スルモ數月ヲ經ザレバ治セ

診斷

ズト雖小芽胞菌病ハ思春期ニハ自然ニ快癒スベク且ツ毛髮ハ病原菌ノ剿滅セラル、ト共ニ再生スベシ蜂巢様白癬ハ經過却テ速ニシテ約一二ヶ月ニシテ治スト雖癢痕及ビ小禿頭ヲ遺スコトアルベシ。

診斷 ○容易ナルモ圓形禿髮症ト誤診スルコトアリ殊ニ吾人モハッチンソン Hutchinson, Crocker 氏等同ジク頭部白癬ハ治療後ニ圓形禿髮症ヲ來スコト豫想外ニ多キヲ認ムルモノナリ然レドモ圓形禿髮症ハ始ヨリ表面滑澤ニシテ毛ノ斷片ナク鱗屑ナク癢痒ナシ殊ニ毛髮ノ鏡檢ハ衆疑ヲ一掃スベシ黃癬トノ鑑別ハ同條下ヲ參照スベシ脂漏及脂漏性禿髮竝ニ濕疹ハ鱗屑散漫性ニ發生シ圓斑ヲ成サズ毛髮脱落スルコトアルモ折斷セズ毛鞘ナク小兒ニハ脫毛少シ屑性濕疹ハ毛髮ヲ損セズ境界明劃ナラズシテ潮紅シ且ツ處々濕潤シ癢痒概シテ劇烈ナリ。

蜂巢様白癬ハ表在頭部白癬ト同時ニ存スル故殆ド誤診スルコトナシ。

寄生性毛瘡 Sycosis parasitaria, Bastrichophytie

鬚髯及ビ眉毛部ノ深部白癬ニシテ始メニハ表在性白癬アリ之ヨリ毛囊炎、

毛囊周圍炎ヲ發シ炎衝ノ周圍及ビ深部ニ波及スルニ從ヒ相融合シテ一乃至多數ノ圓ク隆起セル硬靱ナル豌豆大結節若クハ林檎大無花果狀ノ腫瘤ヲ成シ表面發赤シ僅ニ落屑スルカ又ハ痂皮ヲ以テ被レ靜ニ之ヲ除去セバ全面濕潤潮紅シ毛囊口ヨリ膿汁ヲ漏出シ外觀肥大セル扁桃腺ニ類ス毛髮ハ脱落又ハ折斷シ縱令殘存スルモ容易ニ抜クヲ得ベシ自覺症ハ瘙痒灼熱及ビ疼痛アリ經過緩慢ニシテ容易ニ治癒セズ。

診斷上ニ尋常性毛瘡ハ發疹圓形ヲ描カズ白癬ニ比シ結節浸潤ノ發生徐々ニシテ瘙痒少ク絲狀菌ナキニヨリ本症ト異ルヲ知ルベシ。

毳毛部白癬 Trichophytie der unbehaarten Haut

一、小水疱性白癬 Herpes tonsurans vesiculosus

扁豆大乃至二錢銅貨大ノ圓形又ハ橢圓形ノ皮疹ニシテ邊緣ハ隆起シテ鱗屑或ハ小結節、小水疱稀ニハ大水疱(水疱性白癬 H. t. bullousus)ヲ有テ淡紅色ナルモ中心ハ常態常色ニ復スルカ或ハ著色乃至輕微ノ鱗屑ヲ存ス若シ皮疹増大シテ附近ノ皮疹ト融合セバ蛇行狀ヲナシ又一旦治癒セル皮疹ノ中心

症候

診斷

ニ再發ヲ生ゼバ波紋狀ノ層輪ヲ描クベシ自覺症ハ烈シキ灼熱及ビ瘙痒部位ハ頭、手背、前膊、顔面、足背等ノ裸露部ニ好發ス。

本症ハ獨逸ニテハ大人及ビ小兒ニ多キ白癬ノ種類ナルモ本邦殊ニ小兒ニ

第十圖 小水疱性白癬



少シ、經過數週乃至一二月。

診斷 環狀傳染性膿疱疹ハ炎衝症狀少ク瘙痒ナク絲狀菌ナクシテ化膿菌アリ、虹彩狀疱疹ハ多形滲出性紅斑ノ一症ニシテ特有ノ部位ニ對生シ瘙痒少シ、

帶狀疱疹ハ神經痛アレドモ瘙痒輕ク皮疹ハ神經徑路ニ沿ヒ一群ノ小水疱群ハ殆ド同時ニ發生シ且ツ消散スベシ。

二、斑紋性白癬 Herpes tonsurans maculosus

大人ニ發スルモノハ所謂ジベル氏蔷薇色枇糠疹 Pityriasis rosea (Gibert)ニ酷

ジベル氏蔷薇色枇糠疹

顔面斑紋性白癬 (はたけ)

似シ殆ド區別スベカラズ恐ク同一症ナルベシ、軀幹殊ニ側部ニ邊緣、鋸齒狀ヲナセル淡赤色ノ斑紋ヲ多發シ暫時ニシテ中央褪色シテ黃色トナリ、批糠狀落屑ヲ生ジ邊緣ニ紅暈ヲ留ムル急性症ニシテ多少ノ搔痒アリ成、長セル小兒ニノミ之ヲ見ル絲狀菌ノ證明ハ至難ナリ經過前者ニ同ジ、別ニ本邦ノ兒童ニ數見ルトコロハ一種ハ斑紋性白癬アリ之レハ俗ニはたけ又白たむしト稱シ顔面(殊ニ眉部、眼ノ外側次デ口圍、前額、頰部)時トシテ頸部ニ好發スル圓形又ハ橢圓形ノ白色斑紋ナリ大ナルハ小兒拳大ニ達シ全面平等ニ灰白色、細微ノ鱗屑ヲ被リ之レヲ剝離セバ常態皮膚或ハ白斑ヲ現シ境界明ニ表面稍粗糙、通例潮紅セズ全ク丘疹及ビ水疱等ヲ見ズ自覺症缺如ス數、頭部白癬ニ合併シ鱗屑中ニ白癬菌ヲ證明シ得ベシ(山田氏)經過緩慢數年數月ニ互ルモ治療ヲ加ヘバ速ニ治癒スルコト前記二種ノ白癬ニ同ジ。

診斷 斑紋性白癬ハ微毒性蓄薇疹、脂漏性濕疹、尋常性鱗屑疹ト誤ルコトアルベキモ顔面斑紋性白癬(はたけ)ハ殆ド誤診スベキモノナシ殊ニ頭部白癬アル時然リ。

三、毳毛部深在白癬 Trichophytia profunda der unbehaarten Haut

毛囊炎或ハ癰腫ノ相融合セル如キ症狀ヲ毳毛部ニ發ス、凡テ白癬性毛瘡及ビ蜂窠様白癬ニ同ジ。

四、頑癬 Eczema marginatum

皮膚相觸接スル處ニ生ズル白癬ニシテ始メ扁豆大、赤色ノ落屑性丘疹ナルモノ二錢銅貨大以上ニ達セバ中心ハ退行シ鱗屑或ハ搔破痕跡或ハ色素沈著ヲ存シ邊緣ハ堤防狀ニ隆起シ明ニ健康部ヨリ區割セラレ淡紅色ヲ呈シ往



往小結節、小水疱及ビ鱗屑ヲ存ス毛髮ハ他ノ白癬ト異リ光澤ヲ失ハズ又折斷セズ自覺症ハ劇烈ナル搔痒ナリ經過緩慢、治シ難ク又搔痒ノ殊ニ劇烈ナルヨリヘブラ Hebra 氏ハ白癬ノ濕疹症狀ヲ兼發セルモノ

第十圖 頑癬

トセリ好發部位ハ鼠蹊部、陰囊、大腿内面、會陰ヨリ臀部、陰阜、下腹ニ及ビ乳房ノ下ニ發スルコトアリ。

診斷 陰部濕疹ハ本症ニ類似スレドモ境界明劃ナラズ病變中央ニ著ク邊縁ニ輕微ナリ且ツ中心ニ再發疹ナシ。

爪甲白癬 Trichophytia unguinum.

白癬性爪甲炎 Onychomycosis trichophytina トモイヒ爪甲ハ光澤ヲ失ヒ帶黃白色ニ變ジ凹凸不平トナリ(肥厚及ビ萎縮ヲ兼ヌ)脆弱トナル然レドモ此變化ハ白癬ニ特有ナラザレバ他部ノ白癬ヲ兼ヌレバ兎モ角然ラザレバ爪甲ニ白癬菌ノ存スルニヨリ漸ク診斷シ得ベシ經過極メテ緩慢ニシテ難治ナリ。

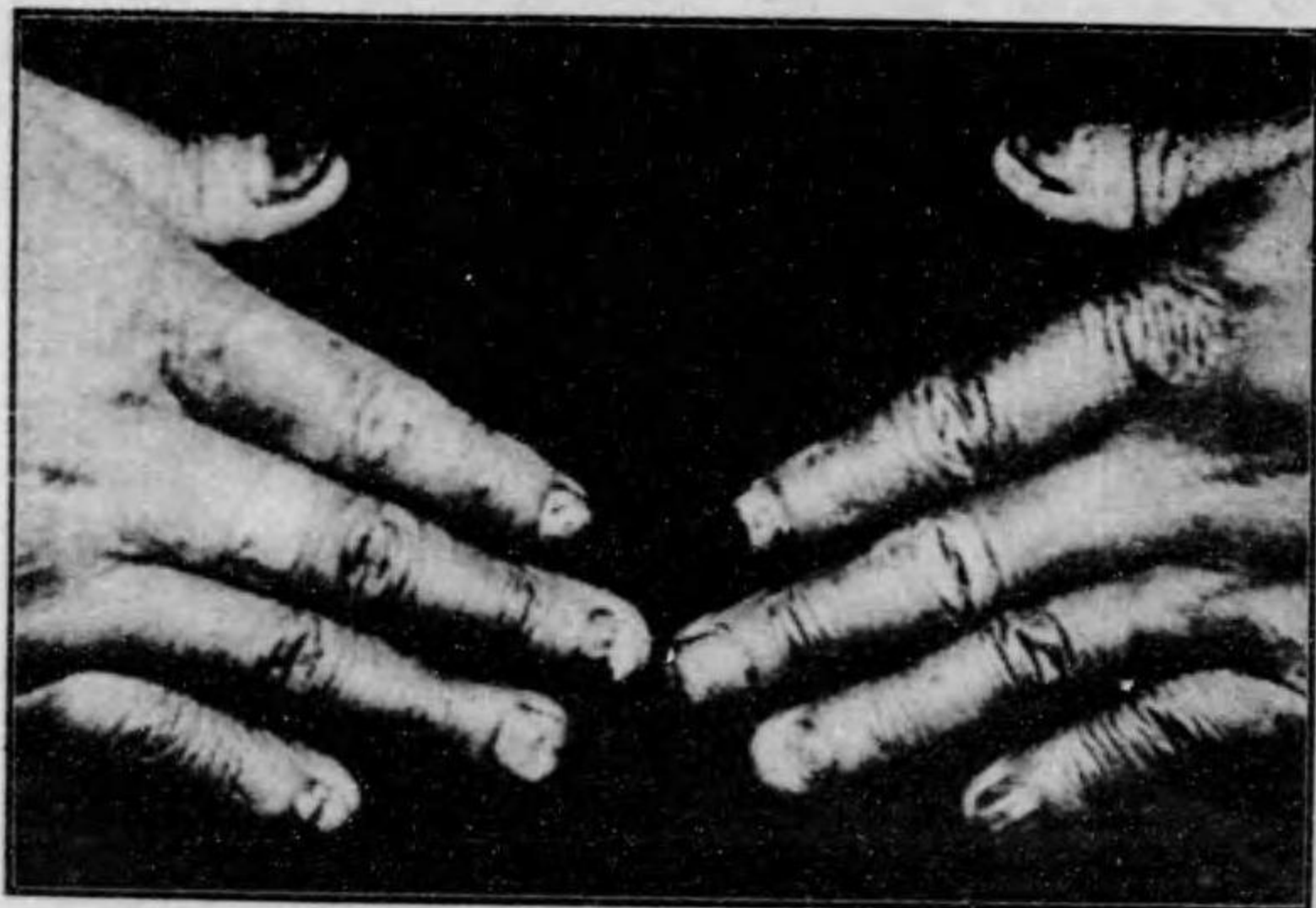
原因

グリビー氏 Gruby 1843 頭部白癬ヨリ「ミクロスポーロン、アウヂーニー」Microsporon Andini (小芽胞菌)ヲ發見シマルムステン氏 Malmssten 1846 頭部及ビ鬚毛部白癬ヨリ「トリコフィトン、トングランヌ」(剪髮菌) Trichophyton tonsurans 即チ

小芽胞性白癬菌

大芽胞性白癬菌

第十 三 圖 爪 甲 白 癬



大芽胞菌ヲ發見シケプテル氏 (Köhner) ハ頑癬及ビ寄生性毛瘡ヨリ同一ノ絲狀菌ヲ發見セリ殊ニ精細ニ之ヲ研究セルサブロー氏 Sabouraud ハ先ヅ芽胞ノ大小ニヨリ本菌ヲ二種ニ大別セリ即チ芽胞ノ直徑二—三 μ ナレバ之ヲ小芽胞性白癬菌 Trichophyton microsporon ト云ヒ芽胞ハ毛髮外ニ群ヲ成ス菌絲ハ毛髮外ニ少ク毛髮内及ビ表皮中ニ存シ速ニ且ツ多數ノ結節 Chlamydosporonヲ生ジ培養基上ノ集落ハ綿纖維狀或ハ絨毛狀ヲ呈シ空中菌絲、表面菌絲多シ色素ノ析出割合ニ著カラズ之ニ反シテ大芽胞性白癬菌 T. megalosporon ハ芽胞ノ大サ五—六 μ (毛髮外在菌ハ三—四 μ)ニシテ培養セバ菌絲中ニ結節ヲ生ズレドモ小芽胞菌ノ如ク早期ニ發セズ又多數ナラズ聚落ニハ概シテ色素ヲ析出スト云フ。

毛髮內在白癬菌

毛髮外在及內外白癬菌

更ニ大芽胞菌毛髮ニ對スル關係ヨリ觀レバ頭部白癬ノ病原菌ハ毛髮ノ内
部ニノミ寄生スルガ故ニ毛髮內在白癬菌 Trichophyton endothrix ト云ヒ通例
大人及ビ動物ニハ寄生セズ成人及ビ動物ノ白癬菌ハ毛髮ノ外部ニノミ寄
生スルカ(毛髮外在白癬菌 T. ectothrix) 或ハ其内外兩方ニ繁殖ス(毛髮内外在
白癬菌 T. ekto-endo-thrix) ルモノニシテ此種ノモノハ概シテ耐熱性强ク(楠氏)
深在性病竈ヲ生ジ毒性強キモノナリト云フ日本ハ秃毛部白癬ハ大芽胞菌
(山田楠氏)ト小芽胞菌(山田氏)ト共ニ來リ臨牀上ニハ何等ハ區別ヲ認ムベカ
ラズト云フ 頭部白癬ノ原因
菌ハ前節參照 ブロホ氏 Bloch 1909 ハ人類及ビ動物ノ深在白癬
ノ經過後ニハ免疫ヲ得ベク又白癬ニ罹リシモノハ培養濾過液竝ニ菌自己
ニヨリ皮膚反應ヲ呈スルヲ認メタリ但シ楠氏ニヨレバ黃癬菌モ白癬菌モ
其免疫性ハ通有シ皮膚反應ハ二者稍異レル關係ヲ示ス。
絲狀菌検査法ハ鱗屑爪又ハ毛髮ニ一〇%苛性加里ヲ加ヘ鏡檢スルコト黃
癬ニ同ジ患毛ニクロ、ホルムヲ加ヘ脫脂セバ空氣其中ニ進入シ毛髮白濁
スベキモ黃癬ニハ此反應ナシト云フモノアリ(Behrend)。
白癬ハ之ヲ人ヨリ人ニ傳ヘ又家畜(驢馬、犢、犬、猫)ヨリ觸接傳染シ或ハ缺、刺

絲狀菌検査法

免疫及ビ皮膚反應

解剖

豫防法

頭部白癬ノ療法

刷毛等ヲ介シテ傳播シ殊ニ濕潤(卷法)ノ後又ハ濕潤セル衣服ハ發生ヲ促進
ス。
解剖 白癬菌ハ表皮ノ角質中ニ蛛網ヲ作り且ツ毛根鞘ヨリ毛表皮中ニ蔓
延シテ遂ニ毛幹ヲ中斷スルモ毛球ヲ侵サズ故ニ臨牀上眞ノ秃髮ヲ見ルコ
ト少シ網狀層中ニハ輕微ノ炎衝ヲ徴スベク毛囊ノ周圍ニモ多少ノ浸潤ア
リ殊ニ深部白癬ニ於テハ毛囊ノ内外ニ膿腫ヲ作ルヲ見ル此化膿機轉ハ單
ニ白癬菌ハミニテモ惹起シ得ベシ。
療法
學校及ビ家庭ニ於テ患兒ヲ出セバ直ニ治療ヲ開始シ自己及ビ他兒ヘノ傳
染ヲ豫防シ白癬ヲ有スル動物アレバ其接觸ヲ避ケ又帽子、手巾、理髮具等ノ
消毒ヲ嚴ニシ白癬ノ發生竝ニ蔓延ヲ豫防スベシ。
頭部白癬ノ療法ハ第一ニ拔毛スベシ病毛ハ容易ニ抜クヲ得レドモ折レ易
キコト、健毛ヲ混ズルコトノ爲ニ每常行ヒ易カラズ故ニ「レントゲン線」ニ
ヨリ脫毛ヲ計ルカ或ハ成ルベク剃毛スベシ第二ニ毎日又ハ隔日ニ加里石
鹼及ビ溫湯ニテ洗滌シ鱗屑ヲ除去シ第三ニ殺菌藥ヲ用フ殺菌藥ハ諸方ア

レドモ最モ土肥氏爹兒軟膏ノ塗擦或ハ山田氏「イヒチオール」米糊ノ塗布ヲ可トスベシ共ニ繃帶スルヲ要セズ其他ウキルキンソン氏膏、五—一〇%焦性沒食子酸軟膏、五%白降汞軟膏等亦用フベシ若シ炎衝ヲ存シ結痂アレバ五%硼酸軟膏ヲ貼布シ痂皮ヲ去リ適宜濕疹療法ト同一ノ手段ニヨリ炎衝ヲ減退セシメタル後、殺菌劑及ビ洗滌ヲ行フベシ通例三—四ヶ月間連續治療セザレバ再發ノ虞アリ。

山田氏「イヒチオール」米糊

「イヒチオール」 一〇〇 硫黃華 一〇〇 亞鉛華 一〇〇 山田米

糊(米ノ粉) 四五—五〇 水五〇〇 煮テ糊トシ「サリチル」酸二五ヲ

研和セルモノ一〇〇〇

蜂巢様白癬及ビ毛瘡等ノ深部白癬ハ先ヅ二%鉛糖水、硼酸水、レゾルチン水等ニテ濕布療法ヲナシ消炎シタル後チ頭部白癬ト同一ノ療法ニ移ルベシ膿瘍アレバ切開ヲ要ス。

深部白癬ノ療法
毳毛部白癬ノ療法

毳毛部白癬ハ殺菌藥ニヨリ速ニ治スベシ故ニ爹兒軟膏、ウキルキンソン氏膏ヲ薄ク塗擦シタル上ヘ亞鉛華澱粉ヲ撒布スルカ山田氏「イヒチオール」米

頑癬ノ療法

爪甲白癬ノ療法

糊ヲ塗布セバ數日以内ニ治癒スベシ上皮剝離シ來ラバ洗滌スベク又タ殺菌藥ノ爲メ皮膚粗糙トナレバ「ラノリン」膏或ハ「コールドクレーム」ノ類ヲ與フベシ。

頑癬ニハ爹兒膏、「イヒチオール」米糊等ノ外猶ホ「クリサロビン」最稱揚スベシ五—一〇%軟膏或ハ「トラウマチ、ント」シテ用フ。

爪甲白癬ハ病爪ヲ成ルベク剪リ去リ水銀硬膏「サリチル」酸硬膏ノ貼布或ハ「クリサロビン、トラウマチ、ン」或ハ沃度丁幾、ウキルキンソン氏膏ノ塗布ヲ單用若クハ併用スベシ山田氏ハ病爪ヲ剝離セル後二〇—三〇%加里滿汁ヲ漬シタル小綿球ヲ其爪ノ上ニ置キ約三十分放置シ其軟化ヲ待チ刃ニテ能ク摩擦シテ取り二〇%「サリチル」酸「コロヂューム」ヲ塗布ス此塗布ハ毎日一回其上ニ上ニト層重シテ自然ノ脱落ヲ待ツベシ但シ經過中灰白色乃至黃色ノ處(病竈)アレバ加里液乃至刀刃ニテ除去シ上法ヲ反復セバ數月以内ニ必ズ根治スト公言セリ。

免疫療法ハ實際治療上ニ應用センニハ更ニ研究進歩ヲ待タザルベカラズ。

第十三章 動物性皮膚病 Dermatозоонозен

皮膚ニ寄生スル動物ハ甚ダ多シ例ヘバ毛囊蟲 *Acarus, Demodex folliculorum* 無害
 ナリガストロフィルス「仔蟲 *Gastrophiluslarve* 露西亞及東洋ニ於ケル脚線病 *Creeping disease*
 ス日本ニハ土肥「フィラリヤ」*Filaria* 象皮病ノ原因ニシテ蚯蚓ノ匍匐セル如キ跡ヲ殘
 福島長谷川氏ノ報告アリ何レモ 包蟲 *Echinococcus* 牛虱 *Ixodes ricinus* 虱 *Pediculus* 頭虱
 滿洲ニ於テ感染セシモノナリ 衣虱 *P. vestimentorum* 陰毛虱 *P. pubis* ノ別アリ小兒ニ注意スベキハ頭虱ナリ其療法ハ石油或ハ
 石油「オレノール」油等分或ハ三百倍ノ昇承醋ヲ塗布シ十二時間放置シ布片ニテ頭ヲ纏ヒ
 得レバ猶ホ奏效確實ナリ濕疹ヲ合併スルコトアリ 蚤 *Pulex irritans* 南京蟲(牀虱) *Cimex*
lecturarius 等種々ナルベシト雖主要ナルハ疥癬アルノミ本邦ニ於ケル寄生
 動物ニヨル皮膚病ハ寄生性皮膚病總數ノ大約二九—三三%ニ當ル(東西大
 學及ビ宮城病院統計)。

疥癬

動物性寄生病ノ最大多數ヲ占メ大人及ビ小兒共ニ多ク侵サルハ皮膚病ナ
 リ。

類度

症候
 小結道
 小膿疱
 皮膚病
 部位
 疥癬ノ發生

東京大學十一年間ノ統計ニヨレバ疥癬患者一一八三其内十五歲未満二
 二六(内男一二三女一〇三)十五歲以上九五七(内男七九六女一六一)ニシテ
 皮膚科外來總數ニ對シ二八%、寄生性皮膚病全數ニ對シ三二%ヲ占ム三
 井慈善病院ニテハ疥癬患者ハ皮膚病總數ノ一一五%ヲ占メ他ノ統計ニ
 比シ遙ニ多數ナルハ本症ノ下流社會ニ多キニヨルナラン宮城病院ニテ
 ハ三ヶ年半ニ疥癬患者一七〇名其内男一三一、女三九人十五歲未満二七
 人十五歲以上一四三人皮膚病總數ニ對シ四三%、寄生性皮膚病全數ニ對
 シ二七九%ヲ占ム而シテ十六歲乃至三十歲ノ人(殊ニ男子)ニ著ク多數ナ
 ルハ諸統計ノ一致スル所ナリ。
 症候 疥癬蟲ノ寄生ニヨリテ來ル第一ノ症候ハ蟲道及ビ小結道、小水疱或
 ハ膿疱ノ形成ナリ。
 蟲道 *MilbenGang* ハ主トシテ雌蟲ノ穿ツ所ニシテ長サ不定ナルモ〇.五—二
 仙迷ニ達ス皮膚清潔ナレバ白色ナレドモ大抵ハ汚穢灰色又ハ黑色ノ細點
 ヲ點綴スルガ如キ線狀ヲ成シ且ツ多クハ迂回シテS字狀又ハ馬蹄狀ヲ成
 シ皮膚ハ蟲道ニ應ジテ隆起スルヲ觸知シ得ベシ蟲道ノ入口ハ角質披裂シ

類別

テ微細ノ鱗屑ヲ成シ末端ハ白色半透明ノ點狀物アリテ間々少ク隆起ス是レ雌蟲ナリ。

斯クノ如ク疥癬蟲侵入スル時ハ皮膚ハ刺戟セラレ傷害セラレ小結節、小水泡或ハ膿疱ヲ生ジ殊ニ乳兒ニアリテハ硬靱ナル長キ赤色ノ隆起ヲ來スコトアリ第二ノ症狀ハ續發症狀ニシテ劇烈ナル瘙癢ニ由來ス即チ蟲道及ビ小水泡等ヲ搔破シテ表皮剝脫スルノミナラズ濕疹ヲ誘發シ或ハ化膿菌侵入シテ膿疱疹、癩深膿疱ヲ來シ膿汁蓄積スレバ更ニ淋巴管炎、淋巴腺炎及ビ膿瘍ヲ發生スルコトアリ其他蕁麻疹様發疹ヲ來シ又搔破ノ爲ニ色素沈著ヲ留ム是等續發症狀ハ時トシテ甚ダ高度ニシテ疥癬固有ノ症狀ハ却テ陰蔽セラル、コトアルモ注意シテ觀察スレバ續發症狀ハ必ズ疥癬ノ好發部位ニノミ存スルカ又ハ該部ニ最モ高度ナルヲ認ムベシ小兒ノ皮膚ハ軟弱ナレバ一層續發症狀ヲ發シ易シ。

自覺症ハ劇烈ナル瘙癢アリ殊ニ夜間ニ増劇スルハ疥癬蟲ノ運動、蕁溫ニヨリ一層活潑トナルニヨル。

類別。小水泡性、水泡性、及ビ膿疱性疥癬ノ諸種ニ分ツト雖是等ハ單ニ滲出

部位

經過

物ノ多寡及ビ性質ニ因ルノミ重要ノ區分法ニアラズ諾威疥癬 Scabies norvegica (crustosa), Boeckii ハ初メ那威國ノ癩病患者ニ疥癬ヲ兼發セルモノニ見タル症形ニシテ數密迷ノ厚痂ヲ造リ内ニ多數ノ疥癬蟲ヲ藏ス爪甲モ亦往侵サレ肥厚シ且ツ帶黃褐色ニ變色ス本症ハ特種ノ疥癬蟲 Sarcophes lupi 因テ發ストノ說アレドモ必シモ然ラズ長ク治療セザレバ常ニ之ヲ發スルモノ、如シ吾人ハ日露戰役ノ際一癩病兵卒ノ本症ニ罹レルヲ見タリ。

經過ハ一定セザルモ疥癬ノ生活狀態ヨリ推セバ感染後明ニ蟲道ヲ形成スルニ八—十四日間ヲ要シ諸症候ノ完備スルニハ六—八週ヲ要スベシ自然治癒ハ殆ド之ヲ見ザルモ經過中熱性病ヲ偶發セバ瘙癢ハ頓ニ鎮靜シ諸症一時全治セルガ如キ外觀ヲ呈スル事アレドモ多クハ下熱ト共ニ新ニ疥癬蟲孵化シテ再發ス故ニ加療セバ速ニ治スルモ然ラザレバ經過數年ニ互ル。

部位ハ成長セル小兒ハ大人ト同一即チ指ノ兩側、指ノ皺襞、手關節、肘關節ノ屈曲面、腋窩ノ前面、腰部、陰囊、陰莖、大腿內面、臀部、膝關節、足背、趾等ニシテ甚ダシキハ腹部、肩胛及ビ背部ヲ侵セドモ頭部、顔面、足趾ニハ通例之ヲ發セズ乳兒及ビ幼稚ノ兒女ニハ手掌、足趾ニモ好發シ著明ノ蟲道ヲ作ル。

解剖

解。 蟲道ハ角質層内ニアリテマルビギー氏網層ノ内部ニ達セズ恐ク角質層ハ疥癬蟲及ビ卵ノ發育ニ最適スルモノナラン角質增生、表皮細胞ノ増殖、表皮内ノ淋巴間隙ノ擴張、小水疱ノ形成、白血球ノ遊出竝ニ真皮内ノ輕度ノ炎衝性病變ハ疥癬蟲ノ寄生等ニヨル刺戟症狀ノミ。

原因

原。 疥癬蟲 *Sarcoptes hominis* s. *Acarus scabiei*、蜘蛛類 *Arachnoidea*ノ疥癬蟲屬 *Acarina*ニ屬シ雌ハ長サ〇・三五密迷幅〇・二三密迷雄ハ小ニシテ長〇・二五密迷幅〇・一五密迷肉眼ヲ以テ漸ク認め得ベキ帶黃白色ノ半球形小體ニシテ鏡檢セバ形狀龜ノ如ク能ク疾走ス背面ハ凸隆シ數多ノ皺溝ノ間ヨリ多數ノ銳刺ヲ出シ腹面ハ平坦ニシテ前端ニハ六條ノ粗毛及ビ口ヲ具ヘタル頭部アリ腹面ヨリ見レバ體ニ四對ノ脚アリテ雌蟲ハ前方二對ニ吸盤、後方二對ニ長毛ヲ有スレドモ雄蟲ハ後脚中ノ一對即チ第四對モ亦吸盤ナルガ故第三脚ノミニ長毛アリ雌ハ後端及ビ腹部ニ腔アリ雄ハ後脚ノ間ニ肉叉狀ノ陰莖ヲ有ス蟲道ハ主トシテ雌蟲ノ穿破スル所ニシテ道中ニ白色ノ卵、暗褐色ノ糞ヲ遺ス雌蟲表皮ニ侵入シテ其部ニ炎衝ヲ發セバ一旦蟲道ト共ニ上方乾燥セル表皮層ニ押上ゲラル、ヲ以テ更ニ榮養ヲ取ランガ爲ニ下

傳染方法

方ニ侵入シ遂ニ屈曲セル蟲道ヲ作ルナリト云フ雄蟲ハ蟲道ノ近傍ニ於ケル鱗屑ノ間ニ潛ミ又ハ短小ナル蟲道ヲ作り或ハ皮膚面ヲ走行ス。雌蟲ハ一旦受胎スルヤ蟲道ヲ離ル、コトナク其内ニテ死亡ス一日ノ産卵數一―二個、一雌蟲ノ産卵數二〇―五〇(Gerlach)ヲ算ス卵ハ四―八日ヲ經テ孵化シテ幼蟲トナル幼蟲ハ前方ニ二對、後方ニ一對ノ脚ヲ有シ蟲道ノ側壁ニ小孔ヲ造リ又ハ蟲道ヲ去リテ其近傍ニ小孔ヲ穿チテ其内ニ入り三―四回脱皮シテ成蟲トナリ皮膚面ニ出デ、雌雄交尾ス此ニ至ル迄凡ソ四十九日ヲ要シ(Gudden)蟲ノ壽命ハ二ヶ月(Pürstenberg)乃至三ヶ月(Gudden)ナリ疥癬ハ觸接傳染ヲナスモノナレドモ患者ニ觸接セリトテ直ニ傳染スルモノニアラズ長時密接セル時殊ニ同衾スル時最モヨク傳染ス故ニ下流社會或ハ寄宿舎、兵營等ニ流行ス時トシテ患者ノ衣服、寢具ヲ介シテ間接ニ傳播スルコトアリ。

動物(猫、犬、豚、馬、家兔)ニモ疥癬蟲 *Sarcoptes major*, *minor*, *squamiferus* 寄生シ之ヨリ人類ニ感染セシムルコトアレドモ蟲道著明ナラズ(但丘疹或ハ小水疱ハ生ズルコトアリ)速ニ自然ニ治癒シ(大抵六―八週以内)殊ニ殺蟲劑ヲ用ヒバ一

診断

層迅速ニ治ス。

診断 疥癬蟲道或ハ疥癬蟲ヲ發見セバ診断確實ナリ蟲道ハ小兒ニ於テハ概シテ容易ニ發見シ得ベシ若シ不明ナレバ墨汁ヲ患部ニ塗リ一—二分時ヲ經テ之ヲ洗落セバ蟲道ノミ黑色ニ現出スベシ疥癬蟲ヲ檢スルニハ蟲道ヲ表皮ト共ニ切除シ「グリセリン」又ハ五%加里滿汁ヲ加ヘ鏡檢スベシ又少ク熟練セバ針尖ヲ以テ蟲道末端ヨリ蟲ヲ掘出スヲ得ベシ蟲ハ針尖ニ攀上ラントスル狀ヲ示スモノナリ。

濕疹ハ好デ屈側ニ發スレドモ指間及ビ陰莖ニ稀ナリ且皮疹ハ散漫性ニ發シ各々孤立セズ殊ニ蟲道ヲ缺ク皮膚瘙癢症ハ部位不定ニシテ搔破痕跡ノ外皮疹ナク蟲道ナシ小兒疥癬ハ部位不定ニシテ蟲道ナク殺蟲藥ヲ用フルモ效少シ痒疹ハ伸展側ニ發シ經過緩慢痒疹結節及ビ横痃アルベシ。

豫後 良好ナレドモ往々治後永ク痒疹ヲ留ムルコトアリ是レ續發症狀(殊ニ濕疹ノ殘存ト殺蟲劑ノ刺戟若クハ皮膚神經症ノ繼發ニヨルモノトス)療法 患者又ハ其衣服寢具ト觸接スルコトヲ避ケ一家族内ニ疑ハシキモノアレバ直ニ加療シ傳染ヲ豫防スベシ。

治後永ク痒疹ヲ留ムルコトアリ
療法

疥癬ヲ發セバ先ヅ入浴シテ加里、石鹼ヲ用ヒ全身ヲ洗滌スルカ或ハ場合—例ヘバ濕疹等ノ續發症狀高度ノ時—ニヨリ入浴スルコトナクウキルキンソン氏膏、爹兒軟膏或ハ「デシンフエクトール」溶液ヲ全身殊ニ好發部ニ能ク塗擦シ亞鉛華澱粉ヲ撒布シ毛織製褌衣ヲ著用セシム翌日更ニ殺菌藥ノ塗擦ヲ反復ス然レバ三—五日ニシテ疥癬蟲ニ因ル痒疹ハ頓ニ鎮靜スベシ若シ全治セザレバ更ニ之ヲ反復スベシ治後ニモ殘存スル濕疹又ハ藥劑ノ刺戟ニヨリ痒疹ヲ覺ユルコトアルヲ以テ之ニ對シテハ適當ナル濕疹ノ療法ヲ應用スベシ治療中褌衣ハ汚損ストモ之ヲ更メズ又手足ハ手袋、足袋ヲ用フルカ縋帶スベシ入浴ハ新發疹ヲ見ザル時、即チ全治セル時始メテ之ヲ許シ加里石鹼ニテ洗ヒ亞鉛華澱粉ヲ撒布、更衣スベシ。
續發症狀ヲ兼テタル疥癬ニハ爹兒軟膏ヲ最良トス小兒幼弱ナルモ常ニ害ナクシテ奏效確實ナリ山田氏硫黃米糊(硫黃三〇〇山田氏米糊一〇〇)ノ塗擦モ可良ニシテ價格低廉ナリ東氏ノ賞揚セル二〇—三〇%大人ナレバ五〇%「デシンフエクトール」水溶液ノ塗布ハ臭色厭フベキモ奏效確實ナリ「ペリユーバルサム」及ビ蘇含香ハ皮膚ヲ刺戟スルコト概シテ少シト雖續發症狀

ニハ毫モ效ナク又腎臟ヲ刺戟スベシウキルキンソン氏膏ハ效力十分ナレドモ軟弱ナル小兒皮膚ヲ刺戟スル虞アリカボシー氏複方ナフトール膏ハ腎臟刺戟アレバ小兒ニハ不可ナリチノゾール溶液ハ效力稍劣ルガ如シ「エピカリン」、「ペルスカビン」及「ベルオール」等新藥ハ無臭無刺戟ナレドモ餘リニ高價ニシテ效力敢テ他ニ優ラズ。

著衣ハ熱湯ヲ以テ消毒スベシ寢具等ハ蒸氣消毒或ハ硫黃ヲ燻蒸シ又ハ一週間位日光ニ曝スベシ。

佛國速治法

佛國速治法 (Französische Schnellkur) ナルモノアリ其法ハ加里石鹼ヲ刷毛又ハ「フラチル」ニツケ全身殊ニ好發部ヲ塗擦スルコト約十乃至二十分間次デ溫浴シ浴中モ同様ニ半時間乃至一時間塗擦シ浴後「ハルディ」氏軟膏ヲ塗擦シ翌日之ヲ浴湯内ニテ除去スルナリ然ラバ九〇—九五%ハ二十四時間内ニ全治ス (Besnier) ト云フモ皮膚ヲ刺戟スル故續發症狀高度ノモノニハ用フベカラズ。

「ハルディ」氏膏 (Hardy'sche Salbe)

硫黃華 二〇〇 炭酸加里 一〇〇 豚脂 一二〇〇

第十四章 皮膚結核 Tuberculose der Haut

結核性皮膚病ハ本邦ニ於テ比較的少數ナリ。

外來患者總數

皮膚結核 同百分比例

報告者

東京大學 (1893—1907)

三〇三九〇人

中

二七七〇・九一%

(土肥、百瀬氏)

京都大學 (1903—1909)

二二〇三七人

中

一一四〇〇・五四%

(松本氏)

大阪醫學校 (1903—1909)

二四五九六人

中

六〇〇〇・二四%

(億川氏)

宮城病院 (1910—1917, 六月迄)

純皮膚病患者 三九五六人

中

二六〇〇・六六%

(著者)

尋常性狼瘡ハ小兒期ニ最多ク發生シ十二歳迄ニ發生セルモノ六八・七% (Wichmann) — 五二・五% (Becker) ニ上リ皮膚腺病、硬結性紅斑、腺病性苔癬及ビ結核疹等モ好デ幼弱者ニ發生スルガ故ニ皮膚結核ハ本邦ニ於テハ其數コソ多カラザレモ亦重要ナル小兒皮膚病ノ一タルヲ失ハズ。

栗田氏 (東京大學)

億川氏 (大阪醫學校)

著者 (宮城病院)

東京大學

一一一〇歳

七人

一一二歳

一一一五歳…九人

三七人

一一二〇歳

二人

二七人

一六歳以上…一七人

一〇九人

一一一三〇歳

一人

九人

一〇九人

皮膚結核

一五七

皮膚へ侵入ス
ル徑路

皮膚結核ハ
固有ノ組織
的變化ノ存
在ニ結核菌
ノ培養ニ接
動物ニ接種
シ得ルツベ
ルアリ

三十一四〇歳	六人	四人
四〇歳以上	二人	八人
合計	四七人	六〇人

二六人

一四六人

皮膚結核ハ結核菌ガ外部ヨリ皮膚ニ侵入シテ之ヲ感染セシムルカ(接種結核 Inokulations tuberculose)或ハ附近ノ組織ニ於ケル結核ノ波及ニヨルカ(繼續的結核 Kontiguitätstuberculose)或ハ内部ニ結核菌アリテ血行或ハ淋巴道ニヨリ菌ヲ皮膚ニ轉移セシム(内部ヨリノ傳染 Endogene Infektion)ルモノナレバ皮膚結核ノ組織ヲ檢スレバ固有ノ組織的變化アリテ結核菌ヲ存シ菌ヲ培養シ得ベク又動物ニ移植セバ之ニ結核ヲ發セシメ得ベク又患者ハツベルクリンニ對シテ反應スベシ。

皮膚結核ニ於テ結核菌ハ概シテ少數ナレバ其培養モ檢出モ頗ル容易ナラズ唯動物ヘハ接種ハ數成功スベシ近時「アンチホルミン」法 Antiformin-methode 及「ムッフ氏」グラヌラ Muehche Granula 證明法出ヅルニ及ンデ比較的容易ニ皮膚結核ヨリ結核菌ヲ檢出シ得ルニ至リ日高氏ハ硬結性紅斑ノ一例ヨリ該「グラヌラ」ヲ證明セリ。

全身反應

穿刺反應

瘰癧反應

「ツベルクリン」反應ハ舊「ツベルクリン」ノ皮下注射、ビルケー氏皮膚反應 Pirquetsche Kutanreaktion、モーロー氏軟膏反應、Morosche Tuberculinabeprobe 及 ビウオルフ、アイヌチル氏結膜反應、Wolf-Eisnersche Konjunktivreaktion ノ四種トス其内結膜反應ハ眼ニ起ル副作用ノ爲ニ用途狹シ。

舊「ツベルクリン」ヲ皮下ニ注射セバ(一)全身症狀殊ニ熱發ヲ來ス(全身反應 Allgemeinerreaktion) (二)注射部ノ皮膚及皮下組織ニ發赤、腫脹、浸潤ヲ發ス(穿刺反應 Stichreaktion) (三)ビルケー氏皮膚反應軟膏反應及ビ結膜反應ハ此穿刺反應ニ相當スベキモノナリ (四)皮膚ノ結核病竈ニ發赤、腫脹、熱及ビ新疹ハ續生ヲ來ス(竈反應 Herdreaktion) 此竈反應ハ有無ニヨリテハミ、皮膚疹ハ結核性ナルヤ否ヲ知ルヲ得ベシ他ノ諸反應ハ身體ノ何處ニカ結核ノ存否ヲバ示セ、皮膚疹ノ性質ヲ定ムルヲ得ザルナリ然レドモ若シビルケー氏皮膚反應陽性ナレバ診斷上之ヲ參考ニ供スベク又陰性ナレバ二十四時間内ニ「ツベルクリン」ノ大量(一密瓦)ヲ注射シ穿刺反應ヲ檢シ陰性ナレバ結核ノ存在ヲ否定スルヲ得ベシ、皮下注射法ハ I 10 密瓦ヨリ始メ I 2 乃至一密瓦ト漸次增量シテ注射スベシ他ノ諸反應ノ檢査法ハ世人熟知スル所

本邦ニ於ケル皮膚結核ノ種類

ナレバ贅セズ。
 皮膚結核ニ諸種ノ症状アレドモ大別シテ眞ノ皮膚結核症。Echte Hauttuberculoseト結核疹。Tuberculideトスレドモ研究ノ進ムニ從ヒ益々結核疹ハ眞ノ皮膚結核中ニ編入セラレントスル状態ヲ示スニ至レリ。
 本邦ニ於ケル皮膚結核ハ如何ナル種類ナルヤハ左ノ統計ニヨリ略ボ推測スルヲ得ベシ。

病名	東京大學(十年間)	京都大學(七年間)	大阪醫學校(七年間)	宮城病院(三年半)
尋常性狼瘡	三二男 一四女	三〇男 二七女	一五男 一七女	一九男 一三女
皮膚疣狀結核	一〇男 一〇女	一〇男 一〇女	一〇男 一〇女	一〇男 一〇女
腺病性皮膚潰瘍	八三男 四一女	八二男 四一女	八三男 四一女	八三男 四一女
腺病性苔癬	一五男 一五女	一五男 一五女	一五男 一五女	一五男 一五女
結核疹	二一男 一七女	二一男 一七女	二一男 一七女	二一男 一七女
硬結性紅斑	一五男 一四女	一五男 一四女	一五男 一四女	一五男 一四女
結核性潰瘍	三男 三女	三男 三女	三男 三女	三男 三女
凍瘡性狼瘡	七男 五女	七男 五女	七男 五女	七男 五女
腺病性瘡瘡	〇	〇	〇	〇
腺病性瘡瘡	〇	〇	〇	〇
患者數	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八
百分率

特微
 狼瘡疹
 狼瘡性潰瘍
 斑狀狼瘡
 播種狀狼瘡
 結節性狼瘡
 蛇行狀狼瘡
 疣狀又乳頭狀狼瘡

一尋常性狼瘡 Lupus vulgaris
 本症ニ固有ナルハ狼瘡疹 Lupusknoten ニシテ組織學上ニハ結核ノ集合ナリ始メハ粟粒大紅褐色ノ斑紋ニシテ指壓ヲ加ヘバ多少褪色スレドモ猶ホ帶黃色半透明ノ蜂蜜様色ヲ留メ其質甚ダ脆弱ナリ(斑狀狼瘡 L. maculosus)此狼瘡疹ハ患部ノ附近或ハ遠隔セル部位ニ散發シ播種狀狼瘡 Lupus disseminatus) 稀ニハ小兒ノ全身粟粒結核ノ際無數ノ粟粒大斑疹ヲ散發シ又ハ顔面ニ瘡瘡様ノ小結節ヲ發スルコトアリ或ハ之ニ反シテ狼瘡疹漸ク相集簇シテ皮膚面上ニ隆起シ(結節性狼瘡 L. tumidus s. tuberosus) 又ハ周圍ニ蔓延シテ環狀乃至蛇行狀蛇行狀狼瘡 L. serpiginosus)ヲ成ス若シ皮膚及ビ皮下組織ノ増殖著シケレバ熟榴ノ如ク皮膚面ヨリ隆起シ或ハ更ニ角質ノ厚痂ヲ被ル(疣狀又乳頭狀狼瘡 L. verrucosus s. papillaris)コトアリ結節性狼瘡以下諸形ハ往々破潰シテ潰瘍ヲ成ス。
 狼瘡疹發育シテ一定度ニ達セバ退行機轉ニ傾キ浸潤漸次吸收セラレ表面皸裂ヲ生ジ次デ鱗屑ヲ發シ(鱗屑性狼瘡 L. exfoliatus)遂ニハ陷凹セル癩痕ヲ

潰瘍性狼瘡

留ム或ハ之ニ反シテ狼瘡組織軟化崩壞シテ潰瘍ヲ作り(潰瘍性狼瘡 L. ulc-
erosa) 癩痕ヲ結ビテ治癒ス。

狼瘡性潰瘍及ビ癩痕(Lupusgeschwür u. Lupusnarbe)ハ、狼瘡疹ニ次デ本症ニ固有
ハ、モノニシテ潰瘍ハ多ク圓形、底面鮮紅色ニシテ常ニ淺ク、肉芽脆弱ニシテ
出血シ易ク邊緣平坦ニシテ浸潤少ク皮下侵蝕セズ分泌物ハ中等度、痛痒ナ
シ狼瘡癩痕ハ白色、柔軟、常ニ其内ニ狼瘡疹ハ再發アルヲ特徴トス。

凍瘡様狼瘡

紅斑狀尋常性
狼瘡

浸潤性狼瘡

部位

鬱血著明ニシテ外觀青色ヲ帶ビ頗ル凍傷ニ類シ且ツ冬期ニ増悪スル傾
向アルモノアリ鼻、耳、頬、手足ニ好發ス(凍瘡様狼瘡 L. Pernio) 反之充血著シ
ク邊緣隆起シ中央陷凹シ往々鱗屑ヲ被リ頬部ニ好發スルアリ(紅斑狀尋
常性狼瘡 L. v. erythematoides Leloir) 孰レモ紅斑性狼瘡ノ一種トスル説アリ
狼瘡疹ハ有無ニヨリ之ヲ分ツ、ハシ共ニ稀有ノ症ナリ又稀ニ狼瘡疹ヲ缺
キ、單ニ扁平ノ浸潤ノミヲ存スルモノアリ(浸潤性狼瘡 Infiltrierte L.)
顔面殊ニ鼻背次デ頬、頤、耳ニ好發シ又粘膜ト皮膚トノ境界例ヘバ口唇、眼瞼
ニ發シ粘膜ニ波及シ時トシテ却テ粘膜ニ原發ス粘膜狼瘡ノ症狀ハ外皮ニ
於ケルト同ジキモ狼瘡疹ハ癩痕以外ノ部ニテハ頗ル發見シ難シ指甲、前膊、

經過

診斷

療法

下腿、頸部、臀部、鼠蹊部ニモ數、發生ス。

全身症狀ナク經過緩慢ニシテ再發シ易ク概シテ幼弱者ハ病勢強ク組織ノ
破潰速ナリ急性發疹病(猩紅熱、麻疹)ハ患兒ニ惡影響ヲ與ヘ殊ニ播種狀粟粒
結核ノ如キハ麻疹ニ繼發スルコト數、ナリト云フ經過中丹毒ヲ發シ或ハ他
ノ結核ヲ併發スルコトアルベシ全身ヘノ豫後ハ合併症ノ如何ニヨルベク
局處ノ變化ハ必ズ多少ノ醜形ヲ留メ、根治スルコトハ稀ナリ。

診斷 護膜腫ハ結節大ニシテ硬ク壓迫セバ疼痛アリ潰瘍ハ腎臟形ヲ呈シ
邊緣堤防狀ニ隆起シ底面深ク肉芽硬クシテ出血シ難ク痂皮ハ廣大ナリ癩
痕ハ不平ニシテ硬ク癩痕内ノ再發ナク經過急ニシテ好デ骨ヲ侵ス濕疹、瘰
癧、膿疱疹ハ鮮紅色ニシテ經過速ニ潰瘍、癩痕ヲ缺ク尋常性鱗屑疹ハ鮮紅色
ニシテ指壓ニヨリ褪色シ鱗屑銀白色ヲ呈シ潰瘍癩痕ヲ成サズ四肢ノ伸展
側ニ好發ス丘疹微毒ハ硬クシテ結節ノ形チ大ナリ。

療法 限局性病竈ナレバ切除シテ其缺損ハ縫合又ハ植皮術殊ニチールシユ
氏表皮移植術ニヨリ補填スルヲ最良トス患部廣大ナルカ又粘膜狼瘡ナレ
バ病組織ヲ搔破シタル後チ腐蝕劑ヲ用フベシ燒灼及ビ熱氣燒灼法(Higginth-

verfahren Holländers) 其ニ病組織ヲ破潰スル效アリ腐蝕藥ハ其種類多シト雖
 一〇% 焦性沒食子酸軟膏ヲ最良トス該軟膏ヲ貼用シ毎日二回繃帶交換ス
 ルコト數日ナレバ病組織ノミ腐蝕セラレ汚穢褐色ヲ呈シ腫脹スベシ此時
 之ヲ硼酸軟膏又ハ〇二—〇五% 焦性沒食子酸軟膏ト交換スベシ腐蝕後表
 皮ヲ新生セバ沃度丁幾ヲ塗布シ水銀硬膏ヲ貼用シ病組織ノ吸收ヲ促進ス
 ル事アリフインゼン Finzen 氏光線療法、クロイマイエル氏水銀石英燈療法ハ
 長時日ヲ要スルノ弊アレドモ疼痛ナク治後ノ癩痕醜ナラズ且深キ結核ニ
 モ作用スル故先ヅ此療法ヲ試ミ表在性ノモノニハ後日レントゲン療法ヲ
 試ムルモ可ナリレントゲン療法ハ殊ニ潰瘍ニ適シ表皮ノ形成速カナレド
 モ根治法ニアラズラジウム療法ハ患部小ナルニ適スベシ粘膜ノ狼瘡ハ燒
 灼及ビ腐蝕、硝酸銀桿、乳酸、沃度丁幾一〇%、クローム酸、沃度、グリセリン等ス
 ベシツベルクリン注射ハ著效ナシ其他全身ノ榮養ヲ高ムルニ勉ムルコト
 他ノ部ノ結核ニ同ジ。

二、皮膚疣狀結核 Tuberculosis cutis verrucosa

小兒期ニハ甚ダ稀ナリ、外層ニ紅暈アリ次デ膿疱及ビ痂皮アリ其内方ニ疣

贅樣增殖アリテ恰モ疣狀狼瘡ニ類シ唯狼瘡疹ヲ缺クヲ異レリトス手足前
 膊ニ好發スル接種結核ニ外ナラズシテ死體ヲ取扱フ人ニ見ル所謂屍毒結
 核。 Verruca necrogenica 亦同一症ナリ。

三、皮膚腺病 Scrophuloderma

淋巴腺或ハ骨關節等ノ結核蔓延シテ真皮或ハ皮下組織ニ豌豆大乃至鳩卵
 大、硬靱、無痛ノ結節ヲ生ズルモノナレドモ間々皮膚ニ結節ヲ原發スルコト
 アリ形球、狀形稀ニ索條様ニシテ初メハヨク移動スレドモ遂ニ皮膚ニ癒著
 シ中心軟化シ寒性膿瘍トナリ外表ニ破ル、ヤ乾酪様物ヲ交ヘタル稀薄粘
 稠ノ膿汁ヲ漏シ潰瘍ヲ形成ス此ノ腺病性潰瘍 Scrophulöses Geschwür ハ帶紫
 赤色ノ層ヲ周シ邊緣菲薄ニシテ皮下侵蝕シ底面淺ク肉芽ハ弛緩、淡赤色乃
 至汚穢赤色ヲ呈シ少量ノ稀薄ナル膿汁ヲ漏ス若シ膿汁乾涸シテ結痂セバ
 膿汁其下ニ鬱滯蓄積シテ病變ヲ周圍及ビ深部ニ蔓延セシメ外表ヘハ新ニ
 多クノ瘻孔ヲ開クベシ其他潰瘍ノ周圍ニ新ニ結節ヲ生ジ患部漸次増大ス
 ルモ遂ニハ徐々ニ癩痕ヲ形成スベシ癩痕ハ表面一般ニ陷凹スルモ所々堤
 防狀ニ或ハ疣狀ニ隆起シ或ハ健康皮膚ヲ島嶼狀又ハ橋梁狀ニ介在セシム

部位

ルヲ特徴トス蓋シ皮下侵蝕セル邊緣ノ其儘癩痕ニ化スルト一ハ瘻孔ノ間ニ介在セル皮膚ノ其儘癩痕中ニ殘存スルトニ因ル。自覺症ハ初期モ潰瘍モ共ニ痛痒ナク全身症狀モ亦之ヲ存セズ經過緩慢自然治癒ノ傾向ナク再發シ易シ又往々尋常性狼瘡或ハ他ノ皮膚結核ヲ繼發スルコトアリ一般ニ患兒ハ腺病ノ諸症狀ヲ有スルヲ常トス。淋巴腺ニ富メル頸部ハ最モ好發スル部位(九〇%)ニシテ本症ハ小兒期ニ多キモ亦淋巴腺結核ハ小兒ニ多キニ因ルベシ顔面鼠蹊臀部前膊下腿等ニモ發生スベシ。

診斷

鑑別 護謨腫ハ一層硬靱ナル結節ヲ往々單個發生シ中心先ヅ軟化スル故周縁ニ硬キ堤狀浸潤アリ又潰瘍モ邊緣隆起シ疼痛アリ經過速ニ驅黴法奏效シワ氏反應アリ狼瘡ハ狼瘡疹アリ潰瘍ノ邊緣平坦ニシテ皮下侵蝕セズ小兒癩症ハ膿汁濃厚ニシテ部位異リ經過速ナリ深膿疱ハ先ヅ水疱膿疱ヲ生ジ次デ皮下侵蝕セザル潰瘍ヲ生ズ放線菌病ハ周圍ノ浸潤硬ク瘻孔ノ壁モ硬靱ニシテ抵抗アリ膿汁中ニ放線狀菌ヲ存ス。

療法

療法 結節ニハ水銀硬膏沃度沃度加里軟膏沃度加里三〇沃度〇三單軟膏

症候

三〇〇)膿瘍ハ速ニ切開搔破―潰瘍ノ皮下侵蝕セル邊緣ハ切除シ弛緩セル肉芽ハ搔破スルカ又ハ硝酸銀桿ニテ腐蝕スベシ淋巴腺等深部ノ結核ニハ外科的手術ヲ加へ且ツ榮養ニ注意スルハ勿論ナリ。

四遺瘍性粟粒結核 Tuberculosis miliaris ulcerosa

固有皮膚結核 T. cutis propria ノ別名アリ内臟(肺腸)ノ結核ニ續發シ口鼻肛門等ニ帶黃白色ノ粟粒結核ヲ生ジ結核ハ直ニ乾酪變性ヲナシ破潰シテ鋸齒狀ノ邊緣及ビ灰赤色ノ肉芽ヲ具フル淺キ潰瘍ヲ生ジ疼痛甚シ療法ハ粘膜狼瘡ニ同ジ小兒ニ稀ナル病ナリ。

五腺病性苔癬 Lichen scrophulosorum

腺病質ノ小兒ニ數、發生スル慢性ノ皮膚病ニシテ皮疹中ニ結核菌アリ(Jacob, Wolff, Sack)動物試驗ハ陽性ニシテ(Jacobi, Haushalter)「シメルクリン」注射ニヨリ竈反應ヲ呈スル故ニ眞ノ皮膚結核ニ屬スベシ症狀ハ胸背殊ニ側部次デ四肢ニ帶黃色乃至褐赤色ノ帽針頭大以下ノ小結節ヲ發シ多ク毛囊ニ一致シ頂上ニ汚穢白色ノ小鱗屑ヲ被リ或ハ間々膿疱ニ移行シ治後色素沈著又ハ小癩痕ヲ留メテ消散ス小結節ハ散發シ又ハ集簇シテ群ヲ成シ或ハ皮疹

症候

診斷

性○苔○癬○ハ皮膚ト同色ニシテ増大セズ群簇セズ四肢ノ伸側ニ發ス尖圭紅色
 苔○癬○ハ紅色強ク角化著シク結節稍大ニシテ硬ク又決シテ膿疱トナラズ扁
 平○紅○色○苔○癬○ハ結節多角形扁平ニシテ臍窩アリ蠟樣光澤ヲ有ス微○毒○性○苔○癬
 ハ形稍大ニ其色濃ク鱗屑少クシテ他ニ微毒微候アリ丘○疹○性○濕○疹○ハ鮮紅色
 ニシテ癢痒アリ往々濕潤ス。
 療法 肝油ヲ一日一—二回塗布シ且ツ肝油ヲ内服セシムル外、一般榮養強
 壯療法ヲ行フベシ。

第 十 四 圖 腺病性苔癬及結核疹



群簇セル爲
 患部ハ散漫
 性ニ發赤ス
 ルコトアリ
 豫後良好ナ
 レド再發シ
 易シ。
 診斷 毛○囊

丘疹落屑性結核疹

丘疹膿疱性結核疹

眞ノ結核トノ關係

六、結核疹 Tuberculid(別名 毛囊疹 Folliculitis 瘰癧疹 Amittis 腺病性又ハ惡液性瘰癧 Acne scrophulosa) 四肢殊ニ前膊、下腿ノ伸側及ビ顔面其他ニ粟粒大乃至豌豆大ノ鮮紅乃至褐色赤色ノ丘疹ヲ散發シ數週ノ後、鱗屑ヲ生ジテ消散スルカ—丘疹落屑性結核疹 Papulopustuloses Tuberculid ハ最モ乳兒ニ多シト云フ(Hamburger) — 或ハ頂點ニ小膿疱或ハ小壞疽ヲ生ジ結痂スルコトアリ之ヲ剝離セバ囊狀ノ小潰瘍アリテ壓スレバ疼痛アリ—丘疹膿疱性結核疹 papulopustuloses Tuberculid ハ最モ普通ニ見ル所—其治スルヤ痕跡ナキカ又ハ小癬痕ヲ止ム經過緩慢ニシテ再發シ易ク小兒ヨリモ二十歳内外ノモノニ多シ。
 腺病性小兒又ハ内臟及ビ皮膚結核ヲ有スルモノニ好發シ組織學上ニハ一般普通ノ栓塞性靜脈炎ノ外、浸潤中ニ上皮樣細胞、巨態細胞ヲ見ルベク殊ニ一例ニハ組織中ニ結核菌ヲ認メ(Phillipson)少數例ニハ「ツベルクリン」反應陽性ヲ呈シ家兎、海狸ニ移植シテ陽性ノ結果ヲ收メタレバ血行傳染ニヨレル眞ノ皮膚結核ト見做スモ必シモ不當ニハアラザルベシト雖未ダ全ク結核菌ノ中毒ニヨル—結核ノ毒素(Boeck)カ或ハ毒力減弱セル結核菌カ(Darier)—ノ說ヲ排スルヲ得ザルモノ、如シ。

診断

診断 瘰癧及ビ毛囊炎ハ鮮紅色ニシテ顔面ニ多ク經過早ク潰瘍ヲ成サズ
結核疹ハ四肢ノ伸側ニ發シ境界明ニ中央ニ壞疽性結痂アリ色ハ暗赤色ナ
リ尋常性狼瘡ニハ狼瘡疹アリテ群集シテ局面ヲ成ス小丘疹性及ビ小膿疱
性微毒疹ハ部位異リ又中央壞疽トナリ結痂スルコトナシ。
療法ハ榮養ヲ高メ肝油ヲ塗布シ融合シテ濕疹狀ヲ呈セバラッサル氏泥膏ノ
類ヲ用フベシ。

七硬結性紅斑(バザン氏) Erythema induratum (Bazin)

眞ノ結核トノ關係
症狀
結節性紅斑ハ經過急速ニシ

本症ハ十歳乃至三十歳ノ女子ニ多ク幼兒ニハ少シト雖三歳ノ小兒ニモ發
スルコトアリ(Kreibich)腺病質ノモノニ發シ他ノ内部及ビ皮膚結核ヲ伴ヒ動
物接種試験ハ陽性(Tilbierge, Ravaut, Carle)ニシテ稀ニハ結核菌ヲ存シ(志立
Ormsby, Macloed)―全ク批難ナシトセザレドモ「ツベルクリン」注射ニヨリ電
反應ヲ來ス(Jadassohn, Hartung)ニヨリ略ボ眞ノ結核タルヲ知ルヲ得タリ症狀
ハ巨大ナル結核疹ニ過ギズ四肢殊ニ下腿ノ外側ノ皮下ニ豆大乃至胡桃大
球形硬靱ノ結節ヲ生ジ漸ク増大セバ皮膚ト癒著シテ隆起シ始メハ鮮紅色
ヲ呈シ次第暗赤色トナリ其症狀殆ド結節性紅斑ニ同ジキモ經過更ニ緩慢

テ關節痛アリ
結節互ニ融合
セズ軟化セズ
潰瘍トナラズ
其發生季節
關係アリ

診断

療法

ニシテ疼痛及關節痛ナク唯壓迫スレバ微ニ疼痛ヲ覺ユルノミ加之周圍ノ
モノト融合シテ扁平板ノ如キ廣ク瀰蔓セル浸潤ヲ成スコトアリ且ツ長時
ノ後チ褐色ノ著色ヲ留メテ治スルモアレドモ或ハ結節ノ中心軟化シテ瘻
孔ヲ以テ外表ニ穿孔シ稀薄乾酪樣膿汁ヲ漏スモノアリ其末ハ遂ニ紫赤色
ニシテ皮下侵蝕セル邊緣ト弛緩セル肉芽トヲ有スル潰瘍ヲ生ズベシ是等
ハ決シテ結節性紅斑ニ見ザル所ナリ而シテ潰瘍治癒セバ陷凹セル癍痕ヲ
中心トシ其周圍ニ猶ホ褐色ノ著色ヲ見ルベシ往々皮下組織ニ於テ索條樣
浸潤ガ血管ノ徑路ニ沿フテ存スルヲ見ルハ偶以テ本症ノ解剖上栓塞性靜
脈炎ナルト一致スル點ナリトス。
經過緩慢ニシテ結節ハ數週乃至數月消散セズ其間ニ新結節ヲ生ジ年餘治
セザルコトアレドモ豫後ハ良好。
診断 結節性紅斑トノ異同ハ既述セリ腺病性潰瘍ハ大ニシテ部位異ル護
膜腫ハ潰瘍ノ邊緣著ク浸潤シテ硬ク菲薄ナラズワ氏反應アリ驅微法奏效
スベシ。
療法 ブローロー氏液ノ蒸罨法肝油ノ塗布水銀硬膏ノ貼用ヲ行ヒ潰瘍ニハ

沃度仿謨ヲ用ヒ主トシテ全身ノ榮養ヲ佳良ナラシムルニ努ムベシ。

第十五章 母斑 Naevi

解説

先天的胎生のニ其基礎ヲ存シ隨時其微候ヲ發スル限局性ノ小畸形ニシテ極メテ徐々ニ發育シ一定度ニ達セバ停止ス母斑ハ臨牀上及ビ組織上ノ形質竝ニ發生狀態極メテ多種多様ニシテ其意義及ビ分類頗ル明瞭ナラズ畢竟母斑ナル名稱ハ不適當ニ擇バレタルモノト謂フベシ例ヘバ或者ハ母斑細胞ノ存スルモノ、ミヲ母斑トスベシト説キ——但シ臨牀上同一ト見ユル母斑ニテ該細胞ヲ存スルアリ又ハ缺クモノアリ確實ニ診斷シ難シ——或者ハ却テ著ク母斑ノ範圍ヲ擴大シ皮膚ノ器官(血管、腺等)ガ先天的基礎ノ上ニ増生セバ之ヲモ母斑ノ内ニ算スベシ(Hallopeau)ト説ク後説ニ從ヘバ血管性母斑ハ勿論、限局性淋巴管腫、對側性皮脂腺腫、汗腺腫、軟性纖維腫等モ亦母斑ナルベシ而シテ列序性母斑ハ軟性、硬性、色素性血管性、腺性母斑、毛囊囊腫、淋巴管腫等ヲ兼ヌル故ニ正シク二者ノ中間ニ位スルモノト謂フベシ、再言ス母斑ノ名稱ハ甚ダ不適當ノ名稱ナリト。

色素性母斑

軟性母斑

硬性母斑

被毛母斑

血管性母斑

- 一、**色素性母斑** Naevi pigmentosi (lentiginos, Naevi spilii) ハ黄褐乃至黒褐色ノ平滑ナル色素斑ニシテ其ノ數及ビ大サ不定、本邦人ニ多キ臀部ノ青色斑即チ兒斑 Kind erflecke 亦此種ニ屬ス。
- 二、**軟性母斑** Weiche Naevi ハ色素斑ヲ伴フカ又ハ伴ハザル扁平又ハ顆粒狀隆起ニシテ大サ及ビ數ハ不定。
殊ニ軟性母斑ニ見ル母斑細胞ハ蜂巢狀又ハ索條様ヲナシ真皮内ニ局在ス此細胞ハ上皮性ナリ、キ、又ハ結締織ヨリ來リ殊ニ内皮細胞性ナリ、ヤ未ダ一定セズ。
- 三、**硬性母斑** Harte Naevi (Naevi verrucosi) 疣贅狀母斑ハ皮膚ヨリ不正ニ隆起セル疣贅狀ノ硬キ母斑ニシテ色素増生ナキカ或ハ之ヲ伴フ。
- 四、**被毛母斑** Naevi pilosi ハ上記母斑ニ長毛ヲ生ジタルモノニシテ廣大ナレバ之ヲ獸皮様又ハ巨大母斑(Tierfell-od. Riesennaevi)ト云フ。
- 五、**血管性母斑** Naevi vasculares (N. Hammei 單純性血管腫 Haemangioma simplex) ハ血管腫 Angiom ト殆ド或ハ全ク區別シ難シ而シテ血管ノ擴張及ビ新生ヨリ成ル鮮紅乃至帶青紅色ノ斑紋或ハ隆起ニシテ、壓迫セバ忽チ褪色シ往々他

ノ母斑ト伴ヒテ發ス顛顛部、頰部、鼻根、後頭ニ多ク軀幹、四肢、陰部ニハ割合ニ稀ナリ通例身體ノ發育ニ伴レテ大トナルニ過ギザレドモ時トシテ著ク増大シ又稀ニハ自然ニ消散スルコトモアリ。

六、囊腫狀限局性淋巴管腫 Lymphangioma circumscriptum cysticum cutis ハ淋巴管ノ擴張及ビ新生ヨリ成リ幼時ヨリ思春期ノ間ニ發ス粟粒乃至豌豆大ノ小水疱群集シテ常態皮膚或ハ黃色ノ斑紋ノ上ニ生ジ或ハ其内容ニ血液ヲ交フルモノアリ外觀最モ帶狀疱疹ニ類スレドモ炎症及ビ自覺症ナク經過長キヲ異レリトス水疱ノ位置モ真皮ノ乳頭及ビ乳頭下組織ニアリテ稍、深シ、若シ該部ヲ損傷セバ淋巴漏 Lymphorrhoe ヲ來スコトアリ部位ハ軀幹ニ好發スレドモ隨處ニ發シ粘膜ニモ來ルコトアリ稀有ノ症ニテ本邦ニテハ高木氏及ビ著者(二例)之ヲ實驗セリ。

七、脂腺腫 Adenoma sebaceum (Typus Pringle) ハ六歳乃至思春期迄ニ發スル帽針頭乃至豆大ノ小腫瘍ニシテ黃色、赤色、褐色、暗赤色(色素ト血管ノ多少ニヨリ)或ハ常色ヲ呈シ通例多數ニ顔面ニ對立的ニ發生シ軀幹、口粘膜ニモ發スベク他ノ母斑、纖維腫等ヲ合併スルコトアリ數、知能發育ノ不十分ナル者ニ見

脂腺腫

淋巴管腫

第十 五 圖
脂 腺 腫



ル要スルニ本症ハ腺腫ニアラズシテ脂腺ノ增生ヲ伴ヘル母斑即チ顔面對立性母斑 Naevi symmetrique de la face ナルコト疑フベクモナシ本邦ニテハ土肥氏及ビ著者之ヲ報ゼリ。

八、汗腺腫(腔洞様腺腫) Syringom (Hydrocystoma tuberosum multiplex) ハ十乃至二十歳ノ人ニ來ル帽針頭乃至豆大ノ圓形ノ結節ニシテ其質硬靱、色ハ常色、褐色、赤褐色乃至赤色ナリ好デ前胸ヨリ腹部ニ發スレドモ亦肩、頸部時トシテ眼險、額、顛顛部ニモ生ズル稀有ノ症ナリ腫瘍中ニ存スル囊腫ハ明ニ汗腺ヨリ來レルモノナレバ汗腺母斑 Schweißdrüsenacavi トモ稱スベキナリ本邦ニテハ土肥章司氏之ヲ報道セシコトアリ。

汗腺腫

毛囊上皮腫

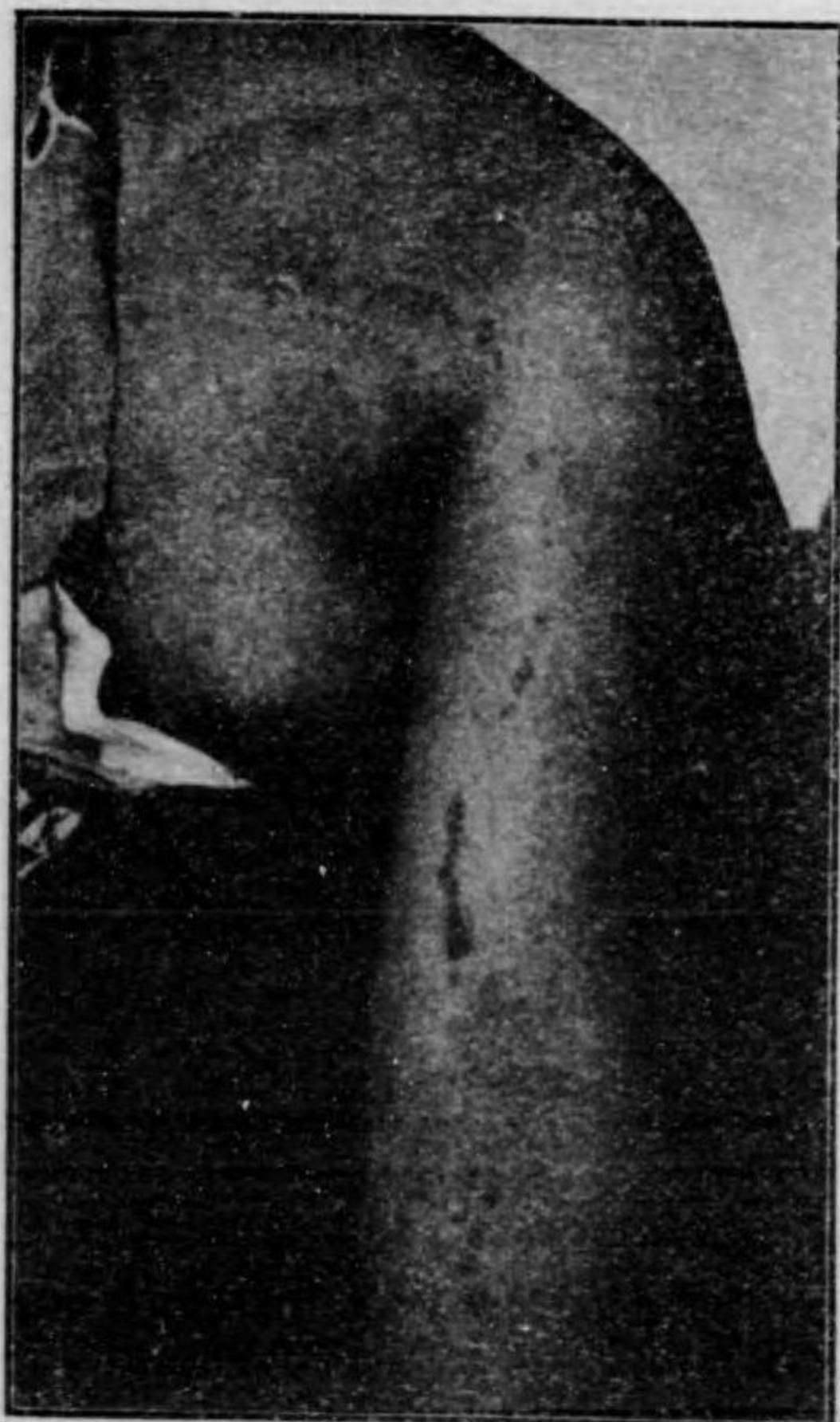
九、毛囊上皮腫 Trichoepithelioma papillosum multiplex s. Epithelioma adenoides cysticum

ハ思春期ニ於テ顔面中央部ニ多數ノ豆大腫瘍ヲ發スル稀有症ニシテ常色ヲ呈シ、硬シ組織上ニハ毳毛ノ毛囊ヨリ發生セル上皮索ニシテ内ニ囊腫アルガ故ニ本症ヲ母斑トスル説(Jadassohn, Pinkus)ヲ排スルモノ少カラズ(Varisch, Woker) 本邦ニハ東京大學ノ數例アリ

列序性母斑

十、列序性母斑 Systematisierte Naevi ハ平滑或ハ疣贅狀母斑等ガ一定ノ排列殊ニ線狀ヲ取ルモノニシテ神經、血管、淋巴管或ハ毛流 Haarstromノ方向ニ從ヒ或ハ皮膚ノ分裂方向 Spalttrichtung 若クハホイト Voigt 氏ノ境界線 Grenzlinieニ從

第六十圖 列序性母斑



フハ事實ナリ蓋シ母斑ハ其基礎ヲ胎生時ニ存シ上皮眞皮共ニ發育ヲ害サル、ガ故ニ其中ニ位スル神經、血管、毛流等ニ追隨シテ原脊椎ノ層對的排列

ヲ追フモノナラン。

軟性纖維腫

十一、軟性纖維腫 Fibroma molluscum (Morbus Recklinghausen, Neurofibromatosis) ハ先天

的素因ニヨリテ發シ且ツ色素性母斑ト相伴フガ故ニ母斑ニ極メテ近キ疾病ナリ(軟性纖維腫樣母斑 Naev. molluskiformis) 始メ小兒期ニ於テ色素性母斑ヲ生ジ次デ自然ニ有莖或ハ廣キ基底ヲ有スル軟キ腫瘍ヲ生ズ色ハ常色或ハ淺表ニ位セバ黃色、赤色ヲ帶ビ大ナルハ帶青赤色ヲ呈シ大サ帽針頭乃至兒頭大ニ達ススクテ年ト共ニ色素斑及ビ腫瘍ハ漸次其數ヲ加ヘ壯年ノ頃ニハ數百ヲ算スルニ至リ其内ニ神經幹ヨリ出ルモノアリト云フ加之、面皰及ビ血管擴張ヲ兼テ症狀甚複雑トナル患者ハ多ク遲鈍ニシテ脊柱後彎、側彎ヲ合併スルコトアリ。

療法

療法 母斑小ニシテ其數多カラザレバ切除シ縫合スルヲ良トシ又電氣分解法小針ヲ陰極ト結合シ母斑ノ下ニ刺シ二乃至三ミリ時トシテ燒灼法ヲ用フ色素斑ニハ「マクラニン」(緒方氏)——一〇%苛性加里中ニ米ヲ投ジ數時間後、透明トナルヲ待テ取り出し研磨シ糊狀トナシ塗布シ次デ生理的食鹽水ニテ洗去リ更ニ糊ヲ塗布スルコト再三ナルベシ治後ノ癍痕醜ナラズ——又局部

小ナレバ三格魯兒醋酸或ハ一〇%昇汞「コロジウム」ノ塗布モ可ナルベク患部廣大ナレバ左ノ剝離膏 Schälpaste ヲ用ヒ皮膚ニ刺戟症狀ヲ發セバ硼酸軟膏又ハウルソン氏膏ヲ之ニ代ヘ炎衝去ルヲ待チ再剝離膏ヲ用ヒ色素脫失ニ至ル但シ效力確實ナラズシテ再發スルコトアルノミナラズ時トシテ却テ著色ヲ濃厚ナラシムルコトアリ。

○次硝酸蒼鉛五〇 白降汞五〇 「ワゼリン」一〇〇

○「レゾルチン」二〇〇 「ワゼリン」二〇〇 亞鉛華膏六〇〇

○「サリチル酸」「レゾルチン」 硫黃華 亞鉛華 澱粉各四〇 「ワゼリン」

二〇〇

發煙硝酸、或ハ苛性加里ハ醜形ヲ遺ス故不可トス雪狀炭酸——本邦ニテ購求シ得ル炭酸「ボンベン」ヨリ噴出スル炭酸ヲ鞣革又ハ特別ノ壓榨器ニ集メテ硬キ雪塊トシ中等度ノ壓力ヲ以テ患部ニ壓抵シ十秒乃至一分間稀ニハ其以上作用セシム——ハ色素斑ニハ效力確實ナラズ治後ノ癢痕モ亦美ナラザレドモ血管性母斑ニハ適當ナル一法ナリ「ラジウム」療法モ亦血管性母斑ニ適シ最モ美貌的ナリ隆起セル小血管腫ニハ五〇%抱水「クロラール」ノ

注射ヲ行フベシ但シ幼弱ノ小兒ニシテ色淡キ血管性母斑ハ時トシテ自然ニ消散スルコトアレバ必要ニ應ジ一〇%「イヒチオール」,「コロジウム」等ヲ與ヘ經過ヲ見ルヲ得策トスベシ。

第十六章 傳染性軟疣 Molluscum contagiosum

(Bateman.) 及ビ疣贅 Verrucae

上皮性新生物ニシテ自然治癒ノ傾向ヲ有シ臨牀上竝ニ實驗上傳染性ナルコト立證セラレタリ尖圭「コンジローム」,「Condyloma acuminata」モ此二病ニ近キモノナレドモ小兒ニハ甚稀ナリ。

一 傳染性軟疣

又傳染性上皮腫 Epithelioma contagiosum ノ異名アル皮膚病ニシテ小兒殊ニ下級社會ニ多シ帽針頭大乃至豆大ノ扁平ナル疣狀隆起ニシテ通常ノ皮色ヲ存シ稍透明ナルガ如キ觀アリ大ナルハ基底狹窄セラレテ莖ヲ成シ周圍ニ紅暈アリ又細菌侵入シテ化膿スルコトアリ表面ハ平滑ニシテ皮膚緊張シ

症候

傳染性軟疣

一七九

蠟樣光澤ヲ帶ビ中心陥沒シテ明ニ臍窩ヲ成シ側方ヨリ強ク壓迫セバ稍硬キ白色乳酪様ノ内容ヲ榨出シ得ベシ此中ニ變性セル角化細胞ニ包マレタル無構造ノ顆粒ヲ存ス(軟疣小體 Molluscumkörperchen)之ヲ壓出セル後ハ上皮被膜殘存シ底ヨリ出血ス顔面頸部陰部手足其他隨處ニ發生スベク其數モ亦甚多キニ至ルコトアリ。

解剖

組織上ニハマルビギー氏網層増殖シ上皮突起腫大シ増殖シ分裂シ或ハ結合シテ葉狀ノ造構ヲ成シ上皮細胞變性シテ膨大シ成形質ハ邊縁角化シ中心顆粒狀ニ破潰シテ空洞トナリ核ハ壓排セララル此變性セル上皮細胞ハ中央ニ集リテ夫ノ光線ヲ屈曲スル圓形ノ軟疣小體ヲ成ス。

原因

原因未ダ明ナラズト雖其傳染性ハ初ヨリ注意セララル、所 (Bateman) ニシテ接種試驗ノ陽性ナルコトニヨリ明ニ立證セラレタリ (Pick, Nobl etc.) 其潜伏期ハ七—十一週ナリト云フ病原體トシテハ「スポロツォーエン」 Sporozoen 殊ニ「コクチヂン」Coccidienヲ發見セシモノアレドモ (Bollinger, Neisser) 未ダ培養及接種ニ成效セズ又近時カムバナ氏等 (Campana u. Sabella) ハ造構「スピロヘーテ」ノ如ク單一ナル「スポロツォーエン」ヲ發見シ之ハギームサ氏液ニテ染色スベク

純粹培養ヲナシ又接種スルコトヲ得ベシト云ヘリ。

ユリユースベルヒ Juliusberg 氏ノ實驗ニヨレバ本症ノ病原體ハ濾過器ヲ通過スルヲ得ベク即チ濾過液ヲ接種スルモ本症ヲ發セシメ得ベシト故ニ病原體ハ甚微細ナルモノナルベシトノ見地ヨリリップシュツ Lipschütz 氏ハレフレル氏鞭毛染色法及ビギームサ氏法ニ染色シ得ベキ大サ1—5—1—4μノ圓形ノ小體 Elementarkörperchen ヲ發見シ之ヲ其病原體トシ Strongyloplasma hominis ト稱ヘタリ暗視野裝置ニテ檢スレバ軟疣小體ノ周圍ニ帶青白色ノ雲霧ノ如キ狀ヲ呈スト云フ (Pick, Kreibich) 但シ孰レモ病原體トシテ未ダ信認セララル、ニ至ラズ。
診○斷○疣○贅○及○皮○軟○性○纖○維○腫○ハ中心臍窩ナク又内容壓出シ難キコトニヨリ直ニ鑑別シ得ベシ療法ハ瓜ノ間ニ内容ヲ榨出シ殺菌綿紗ニテ壓迫止血シタル後一〇% 撒酸石鹼硬膏(ビツク氏硬膏)ヲ貼布スベシ小ナルモノハ單ニ硬膏ヲ貼布スルノミニテ足レリ。

診斷
療法

二 疣 贅

角質增生 Hyperkeratose ヲルビギー氏網層ノ増殖 Akantose 及ビ乳頭ノ延長ヲ伴フモノニシテ小兒ニ來ルハ尋常性疣贅竝ニ幼年性扁平疣贅ノ二種ナリ。尋常性疣贅 *Verrucae vulgares*

幼弱者ノ手次デハ顔面、頭部、頸部ニ好發ス帽針頭大乃至豆大ノ硬キ隆起ニシテ表面ハ大抵不平ナリト雖間々平滑ナルアリ或ハ却テ裂痕アリテ刷毛狀ヲナセルアリ往々自然ニ或ハ急ニ消散スルアリ又疣贅ノ附近ニ幼キ疣贅ヲ群生スルコトアリ療法ハ剪除或ハ銳匙ニテ搔爬シ硝酸銀桿或ハ過格兒鐵ニテ止血スベシ美貌的ニハ電氣分解法ヲ用フ其他、雪狀炭酸ヲ用ヒ或ハ發煙硝酸、或ハ石炭酸或ハ一〇%昇汞、コロジユーム或ハ「サリチル酸」コロジユーム「サリチル酸」乳酸各一〇%コロジユーム「八〇」ノ塗布モ亦試ムベシ殊ニ廣橋氏五〇%「サリチル酸」硬膏「スピール」硬膏頗ル偉效アリ頑固ナルハ「ラヂウム」療法若クハ「レントゲン」線療法ヲ適用ス幼年性扁平疣贅 *Verrucae planae juveniles*

療法

症候

年少者ノ顔面、手足ニ好發スル帽針頭乃至扁豆大ノ疣贅ニシテ通例多發ス表面ハ滑澤、扁平ニシテ皮膚面ヨリ僅ニ隆起スルノミ色ハ皮膚ノ常色ヲ保

ツカ或ハ黃褐色乃至褐紫色ナリ組織上ニハ角質增生著明ナラズ網狀層肥厚シ真皮内ニ細胞浸潤アリ時トシテ急ニ多數ノ疣贅ヲ發スルコトアリ通例長ク消散セズト雖遂ニ自然ニ治癒スルモノアリ。此二種ノ疣贅ノ原因ハ不明ナレドモ共ニ移植試験ニ陽性ニシテ潜伏期ハ六週乃至八ヶ月ナリ。

療法ハ單ニ亞砒酸ノ内用或ハ注射ニヨリ速ニ消散スルコトアリ慧苡仁ノ内用及ビ外用(細挫シ軟膏ニ加フ)ハ本邦古來用フル所ニシテ確實ニハアラザレドモ時トシテ效アリ陳舊ナルモノハ大抵以上ノ方法ニテハ不十分ナルガ故、局處療法トシテ十%「サリチル酸」コロジユーム「ラ」塗布シタル上更ニビック氏硬膏ヲ貼用スベシ然レバ多クハ痕跡ヲ止メズシテ全治スベシ一層頑固ナルハ尋常性疣贅ノ療法ヲ適用スベク殊ニ銳匙ニテ搔爬シ硝酸銀桿又ハ石炭酸ニテ腐蝕スル方法ヲ試ムベシ。

療法

症候

先天的ノ素質ニ因リ幼時ニ發病スル角質增生症 *Hyperkeratose* ニシテ著明

第十七章 魚鱗癬 *Ichthyosis*

毛囊性魚鱗癬
又苔癬

ノ鱗屑ヲ形成スル疾病ナリ。
最モ輕症ナルハ角質增生、單ニ毛囊及ビ其附近ニ局限スルモノニシテ之ヲ
毛囊性魚鱗癬 I. follicularis 又毛囊性苔癬 Lichen pilaris ト云フ之ハ四肢ノ伸側
又ハ臀部ニ於テ毛囊ニ一致シテ密生スル粟粒大ノ小結節ニシテ其色ハ皮
膚ノ常色乃至蒼赤色ヲ呈シ先端ニ微細ノ糠秕狀鱗屑アリ往々毳毛ヲ藏ス
此種ノモノハ數、大人ニモ發生シ魚鱗癬ノ輕症、不全症ト見ルベキナリ。
固有ノ魚鱗癬ノ症狀ハ早ク既ニ二歳ノ頃ニ發シ且ツ廣ク角化增生ヲ來ス

單純性魚鱗癬

雲母樣魚鱗癬

第七十圖
蛇皮狀魚鱗癬



即チ毛囊角化ト共ニ皮
膚一般ニ粗糙、乾燥シ皺
襞夥シク生ジテ汗脂ノ
分泌減少ス之ヲ單純性
魚鱗癬 I. simplex ト云フ
更ニ甚シキハ硬クシテ
厚キ鱗屑ヲ生ジ眞珠樣
光澤ヲ現スアリ(雲母樣

蛇皮樣魚鱗癬
豪猪狀魚鱗癬

部位
經過

原因

解剖

診斷

魚鱗癬 I. nuda) 或ハ暗灰色ノ鱗屑——此色ハ塵埃ノ附著ト角質固有ノ色ト
ニヨル——相層重シ且ツ中央ニ於テノミ固著シ蛇皮樣ノ外觀ヲ呈スルア
リ之ヲ蛇皮樣魚鱗癬 I. serpentina ト云フ又斯ル病的皮膚又ハ常態皮膚ノ上
ニ疣贅樣、皮角樣ノ小腫瘍ヲ群生スルコトアリ(豪猪狀魚鱗癬 I. hystrix) ト雖
歐洲及ビ本邦共ニ重症ノモノハ稀ナリ 東京大學大野氏ハ豪猪狀魚鱗癬ガ列序性
母斑ノ如キ一定ノ線狀排列ヲナセル一例
セリ報告 部位ハ四肢ノ伸側次デ軀幹、顔面ニシテ手掌、足趾及ビ屈側殊ニ腋窩、
肘窩、鼠蹊及ビ膝窩ハ侵サレズ經過ハ思春期ニ至ル迄病勢進行スレドモ
此期ニ達セバ停止シ而カモ終生治セザルヲ常トスレドモ痘瘡、麻疹ノ後ニ
ハ全治スルコトアリト云フ通例夏ハ輕快シ冬期ハ増悪スベシ又皮膚乾燥
スル爲ニ濕疹ヲ合併シ劇痒ヲ發スルコトアレドモ全身症狀ハ常ニ全ク之
ヲ缺ク。
原因ハ不明ニシテ遺傳ノ存スルコト、男子ニ好發スルコトヲ知ルノミ血族
結婚トノ關係ハ明確ナラズ解剖ハ角質層ノ肥厚、顆粒層ノ缺如、棘狀細胞層
眞皮乳頭ノ菲薄トナレルコトヲ見ル診斷ハ通例容易ナリ、尖圭、紅色、苔癬ハ
毛囊性苔癬ニ類スレドモ炎症症狀及ビ劇痒アリ指節ニ好發スベク又尋常、